漢字から文章へ

第二冊

全十八回　三百六十字

願　語　秒　理

漢字の意味と熟語を確かめ、
短文や文章の中で使いながら学びます。

和会塾

読み、書き、考えるための漢字教材

この本の使い方

各回で中心となる八字と、いっしょに覚える十二字を扱います。一字の意味を手がかりに、熟語、短文、長文へと進みます。表を見ながら解いてもかまいません。

一・二　扉と漢字表

まず、気になる漢字を探してみましょう。次の表で、読み、意味、熟語を確かめます。表の読みは主なものです。一字の意味を足すだけで決めず、熟語全体の意味も確かめてください。

三・四　漢字の働きと熟語

漢字が熟語の中でどう働くかを考え、文に合う語を選びます。大問四では、□の数が答える語の文字数を示しています。送り仮名のある語は、それも含めて解答欄に書きます。

五　使い分けと自分の一文

似た語が、この文では何を表しているかを考えます。意味が重なる場合もあります。自分で書く問題は、経験したことでも、想像した場面でもかまいません。

六　短文で使う練習

文の中で漢字を書き、熟語を読みます。間違えた字だけでなく、なぜその語を使うのかも確かめ、必要なら表へ戻って読み直しましょう。

七　文章を読んで考える

物語や記録を読み、言葉の意味、人物の変化、事実と推測の違いなどを考えます。記述では、本文の具体的な手がかりを理由や判断に結びつけて書いてください。

答えを確かめる

解答と解説は各回の最後にあります。記述の解答例と別解例は、考え方を確かめるためのものです。同じ言い方でなくても、指定語と字数を守り、問われた内容を根拠と結んで書けていればよいものです。

記述のマス　句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

本書の物語・資料・記録・数値は、学習のために作成したものです。

目次 第一回から第九回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第一回	心のゆれをとらえる	怪獣を返す日	5	10	12
第二回	願いと意志	晴れを約束しない招待状	14	19	21
第三回	迷いと判断	貸出簿の余白	23	28	30
第四回	調べて確かめる	四秒の橋	32	37	39
第五回	言葉で伝える	オオカミの小さな声	41	46	48
第六回	変化と改まり	小さくなった映画館	50	55	57
第七回	進む・導く	帰りの矢印	59	64	66
第八回	受ける・与える	借りものの音	68	73	75
第九回	争いと勝敗	二枚目の作戦図	77	82	84

目次 第十回から第十八回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第十回	社会ときまり	紙の国の第一条	86	91	93
第十一回	責任と約束	時計のひびと報告書	95	100	102
第十二回	人と集団	写真の外の名前	104	109	111
第十三回	時間と時期	消さなかった七秒	113	118	120
第十四回	自然の変化	白い写真に足りないもの	122	127	129
第十五回	からだと状態	肺役の長いせりふ	131	136	138
第十六回	生活と物	皿の横の小さな札	140	145	147
第十七回	技術と作業	日付を刻まなかった看板	149	154	156
第十八回	考えを深める	雨の音が一位になった理由	158	163	165

漢字から文章へ 第二冊

第一回

心のゆれをとらえる

返すはずの怪獣を、かばんに入れられません。
友人に渡したいのは、どんな言葉なのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

哀	慰	怨	憎
かなしい あわれむ	心や苦労をいたわる	うらむ うらみ	にくむ 強く嫌う

怖	怪	慌	悩
こわい おそれる	ふしぎだ 疑わしい	あわてる	心が苦しむ 迷う

いっしょに覚える漢字

恩	恋	慈	惨	愁	憾
慨	悦	患	癒	怠	慎

この回で読むお話

怪獣を返す日

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
哀	アイ あわれ	かなしい／あわれに思う 哀愁・悲哀・哀れ	怖	フ こわい	こわい／おそれる 怖い・恐怖・畏怖
慰	イ なぐさめる	心や苦労をいたわる 慰める・慰問・慰労	怪	カイ あやしい	ふしぎだ／疑わしい 怪物・怪談・怪しい
怨	エン オン	うらむ／うらみ 怨恨・私怨・怨念	慌	コウ あわてる	あわてて落ち着かない 慌てる・慌ただしい・恐慌
憎	ゾウ にくむ	にくむ／強く嫌う 憎む・憎悪・愛憎	悩	ノウ なやむ	心が苦しむ／思い迷う 悩む・苦悩・煩悩

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
恩	オン	受けたありがたい働き 恩人・恩返し・恩恵	慨	ガイ	深く感じる／憤る 感慨・憤慨
恋	レン こい こう	思い慕う／懐かしむ 恋愛・初恋・恋しい	悦	エツ	よろこぶ 喜悦・満悦
慈	ジ いつくしむ	深く愛し いたわる 慈しむ・慈愛・慈悲	患	カン わずらう	病む／心配する 患う・患者・患部
惨	サン みじめ	ひどく痛ましい 悲惨・惨事・惨状	癒	ユ いえる いやす	病気や心の苦しみが治る 治癒・癒える・癒やす
愁	シュウ うれい	うれえる／もの悲しい 哀愁・郷愁・愁い	怠	タイ おこたる	なまける／気力が緩む 怠る・怠慢・倦怠
憾	カン	残念に思う 遺憾・痛憾	慎	シン つつしむ	軽はずみな行いを避ける 慎む・慎重・謹慎

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「哀愁」に含まれる気持ちとして、最も近いものはどれですか。
ア　成し遂げた喜び　　イ　もの寂しい悲しさ
ウ　相手を強く嫌う心　　エ　危険への強い恐れ

(2)「慰問」と「慰労」の「慰」に共通する働きはどれですか。
ア　落ち度を責める　　イ　勝敗を決める
ウ　仕事を命じる　　エ　心や苦労をいたわる

(3)「怨恨」の意味として、最も近いものはどれですか。
ア　相手に抱くうらみ　　イ　古里への懐かしさ
ウ　起こることへの不安　　エ　失敗への自分の反省

(4)「感慨」と「憤慨」の「慨」は、どう働いていますか。
ア　どちらも、恐れる　　イ　どちらも、喜ぶ
ウ　前者は深く感じ、後者は憤る　　エ　前者は疑い、後者は迷う

(5)「患者」と「治癒」は、何に関わる語ですか。
ア　学ぶ人と学ぶ場所　　イ　病気の人と病気が治ること
ウ　助ける人と助けへの感謝　　エ　昔の人と昔への憧れ

(6)「慎重」の説明として、最も近いものはどれですか。
ア　怖くて全てをやめること　　イ　相手を疑い続けること
ウ　急いで早く済ませること　　エ　軽率にならず注意すること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　苦悩　恩人　遺憾　怨念　満悦　慈愛　恋心
慰労　恐慌　郷愁　怠慢　怪談　憎悪　慰問

文	解答	文	解答
(1) 命を救ってくれた人を、自分の□□と呼んでいる。		(8) どちらを選んでも人を傷つけることに□□した。	
(2) 入院中の友人を□□するため、病院へ行く。		(9) 幼い子を深く慈しむ親の□□が描かれている。	
(3) 長い作業を終えた係の人々を、会長が□□した。		(10) 故郷の景色を恋しく思い、□□に浸った。	
(4) 物語の亡霊は、死後も消えない□□を抱いていた。		(11) 招待に応じられないのは□□だと、残念さを伝えた。	
(5) 差別を強くにくみ拒む気持ちを、□□と表した。		(12) 望みがかない、本人は大変満足してご□□だ。	
(6) 金融□□が起こり、経済が大混乱した。		(13) すべき点検を怠った仕事の□□を反省した。	
(7) 幽霊の出る怖い話を集めた□□の本を読む。		(14) 初恋の相手への□□を、主人公は胸に秘めていた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この場面の「慰労」は、どの働きを表していますか。

退院した友人を訪ねて話を聞き、看病を続けた家族の苦労も慰労した。

ア　退院した友人に、回復への喜びを伝えること。
イ　家族が担ってきた苦労をねぎらうこと。
ウ　友人が安心して過ごせるように訪ねること。
エ　家族が担う看病の手順を説明すること。

（2）「遺憾」と「怨恨」の説明として適切なものを選びなさい。

出席できず遺憾だと伝えたが、だれかへの怨恨があるわけではない。

ア　出席できない残念さと、人へのうらみを分けている。
イ　招待を断ったことへの、強い怒りを伝えている。
ウ　招待を受けたことへの、感謝だけを伝えている。
エ　出席できないのは、自分の落ち度だと認めている。

（3）「恋しい」から、この文で読み取れることを選びなさい。

転校した弟は、前の学校の校庭が恋しいと言った。

ア　校庭の様子を思い出すことを避けている。
イ　前の学校の友人だけに会いたいと思っている。
ウ　前の校庭を、懐かしく思い慕っている。
エ　前の学校と今の学校を比べ、設備を批判している。

（4）「倦怠」と「怠慢」の扱いとして適切なものを選びなさい。

体に倦怠感があると聞いても、それだけで仕事の怠慢だとは決められない。

ア　体のだるさから、すべき仕事を怠っていると判断する。
イ　体のだるさを、仕事の成績が落ちた結果として扱う。
ウ　怠慢という評価を避けるため、だるさの話は聞かない。
エ　体がだるい状態と、すべきことを怠る行いは区別する。

（5）「感慨」を使い、何を見てどんな思いを深くしたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「慎重」を使い、何に注意してどう行動したかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 友との別れに、深い**ヒアイ**を感じた。	
(2) 落ち込む友人を、そばで**ナグサ**めた。	
(3) 個人的なうらみである**シエン**を判断に持ち込まない。	
(4) 好きな思いと憎む思いが入り交じる**アイゾウ**を描いた。	
(5) 暗闇で物音がして、**キョウフ**を覚えた。	
(6) 絵本に、大きな**カイブツ**が登場した。	
(7) 急な知らせを聞いて、思わず**アワ**てた。	
(8) これから進む道を、一人で**ナヤ**んでいた。	
(9) 助けてもらった人へ、**オンガエ**しをしたい。	
(10) 苦しむ人に寄せる**ジヒ**の心が描かれている。	
(11) 事故の**ヒサン**な状況を伝えた。	
(12) 幼い日の**ハツコイ**を、懐かしく思い出した。	
(13) 入院中の**カンジャ**に、家族が手紙を届けた。	
(14) 毎日の手入れを**オコタ**らず、大切に使った。	
(15) 軽率な発言を**ツツシ**み、まず相手の話を聞いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 恋愛	(17) 憤慨	(18) 怨恨	(19) 煩悩	(20) 畏怖

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ場面に、寂しさと感謝は重なりませんか。
心の動くきっかけや、気持ちの向かう相手も確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

怪獣を返す日

「借りたものは、返さなきゃ。」理央はそう言って、怪獣のぬいぐるみを机に座らせた。返すための箱は、足元にある。けれど、かばんから出した航の写真を見ているうちに、箱へ伸ばした手が止まった。

航が引っ越すのは、明日だ。

この怪獣を借りたのは六歳のときだった。病を患って入院した小さな患者を、航は慰めようとしたのだろう。初めは大きな牙が怖かった。何年も抱いて眠るうち、理央は、ほつれた足まで慈しむようになった。足の糸は、祖母に教わりながら自分で縫い直した。

航への恩は忘れていない。それでも、明日から校門で待っても会えないと思うと、返したくなくなる。まだ起きていない明日のことなのに、いつもの帰り道がもう恋しかった。

手紙には「君がいなくなると、悲惨な夏休みになる」と書いた。読み返すと、航が悪いことをしたようだ。次に「会えなくなるのは遺憾です」と書き、これは校長先生の挨拶みたいだと消した。言葉を慎重に選ぶほど、言いたいことが遠のいていく。机の上には消しゴムのくずばかり増えた。

昔のけんかには、怨みや憎しみと呼びたくなる気持ちもあった。でも今、写真を裏返したいとは思わない。理央は悩みながら、入院中に届いた怪談の絵を箱に重ねた。幽霊はひどく下手で、怖がらせるどころか、看護師まで笑わせた。

翌朝、航は怪獣を見ると「あ、まだ持ってた」と言った。理央は慌てて「返すよ」と箱を押した。航は足の縫い目を指でなぞり、「直したんだね」と満悦の顔になった。

「手入れを怠らなかったから」と言いかけて、理央はやめた。
「いなくなるの、寂しい。」
「ぼくも。」

航は少し黙り、それから「じゃあ、次に会うまで、もう一度貸す」と箱を戻した。理央は断らなかった。昨夜の自分に、少し可笑しさと感慨を覚えた。何もかも言えたわけではないが、航は箱を戻す前に、ちゃんと待ってくれた。

航が帰ったあと、怪獣はまた机に座った。明るくなった部屋で、どこか哀愁のある顔をしている。寂しさがすっかり癒えたわけではない。理央は書きかけの手紙を取り出し、となりに置いた。今度は、次に会ったときに渡そうと思った。

この物語は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）別れたあとのもの寂しい悲しさを表す語を、最後の段落から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）「癒えた」に関連し、病気や傷が治ることを表す「チユ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「満悦の顔」から読み取れる航の気持ちを選びなさい。

ア　足のほつれを隠されたことへの疑い。
イ　返すのが遅れたことへの強い怒り。
ウ　怪獣を大切に直してもらえたことへの喜び。
エ　自分の方が上手に直せるという自信。

（4）理央が初めの手紙の文を直した理由として、適切なものを選びなさい。

ア　航を責める響きや、よそよそしい言い方が、自分の思いに合わなかった。
イ　航には、難しい漢字が全く読めないと分かった。
ウ　引っ越しが中止になり、寂しさが消えた。
エ　航から、喜びの言葉だけを書くよう頼まれた。

（5）航が「もう一度貸す」と箱を戻したことが、理央の支えになったのはなぜですか。その前の会話と、貸す期限に着目し、45〜55 字で説明しなさい。

（6）最後の「怪獣」と書きかけの「手紙」は、理央にとってどんな意味を持つと読めますか。別れの寂しさにも触れ、本文の出来事を根拠に 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第一回　心のゆれをとらえる

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　「哀」「愁」はともに悲しみやうれいに関わる。静かに感じるもの悲しさに着目する。

（2）エ　相手の苦しみや苦労に心を寄せる働き。相手が必ず喜ぶという結果までは表していない。

（3）ア　受けた仕打ちなどに対して抱くうらみ。「後悔」のように自分の行いを振り返る語とは、気持ちの向かう先が違う。

（4）ウ　心が強く動くことに関わる。「慨」があるから全て怒りの意味だとは決めない。

（5）イ　「患」は病むこと、「癒」は病気などが治ること。心の苦しみがやわらぐ場面にも「癒やす」を使う。

（6）エ　十分に注意して物事に当たること。行動しないことや、必ず時間をかけることだけを指すのではない。

四　熟語を広げよう

（1）恩人　（2）慰問　（3）慰労　（4）怨念　（5）憎悪

（6）恐慌　（7）怪談　（8）苦悩　（9）慈愛　（10）郷愁

（11）遺憾　（12）満悦　（13）怠慢　（14）恋心

（2）は訪ねて慰めること、（3）は苦労をねぎらうこと。（12）は「ご満悦」として使い、大変満足している様子。（14）「恋心」は、恋い慕う気持ちを表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　慰問と慰労は、ともに相手をいたわる場面で重なることもある。この文の慰労は、家族の苦労をねぎらう働きに着目している。

（2）ア　「遺憾」は残念に思うこと。この語だけで、だれかに責任を認めたことや、相手をうらんでいることまでは決まらない。

（3）ウ　「恋しい」は人や場所などを懐かしく慕う気持ちにも使う。「恋」のある語を全て恋愛に限定しない。

（4）エ　体がだるいという情報だけで、行いは評価できない。漢字を手がかりに、熟語全体と文脈を確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

幼いころに植えた木の大きな枝を見て、年月への感慨を覚えた。

☆自分で確かめる点　心が深く動いたきっかけと、その思いが分かるか。

（6）解答例

相手の気持ちを決めつけないよう、手紙の言葉を慎重に選んだ。

☆自分で確かめる点　注意したいことと、具体的な行動がつながっているか。

六　短文で使ってみよう

（1）悲哀　（2）慰　（3）私怨　（4）愛憎　（5）恐怖

（6）怪物　（7）慌　（8）悩　（9）恩返　（10）慈悲

（11）悲惨　（12）初恋　（13）患者　（14）怠　（15）慎

（16）れんあい　（17）ふんがい　（18）えんこん　（19）ぼんのう　（20）いふ

（2）（7）（8）（14）（15）は、送り仮名を含む文全体で読み直す。（3）私怨は個人的なうらみ。（9）は「恩返し」とつながる。「怨」は私怨ではエン、怨念ではオンと読む。

七　文章の中で考えよう

（1）哀愁　最後の段落にある、もの寂しい悲しさを表す語。
（2）治癒　病気や傷が治ること。「癒」は、本文では心の苦しみがやわらぐ場面に使われている。
（3）ウ　航は怪獣の直された足をなぞっている。大切にしてもらえたことを喜んでいると読める。
（4）ア　初めの文は航を責めるように響き、次の文は形式的すぎた。寂しいという思いを伝える言葉を探している。

七　記述問題の考え方

（5）　箱を戻す行動が支えになった理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

寂しいという理央の思いを航も受け止め、次に会うまで貸すと言ったことで、離れてもまた会うつながりを示したから。

（5）別解例　54 字

航も寂しいと答えて理央の気持ちを分かち合い、次に会うまでの貸し借りにすることで、再会への見通しを渡したから。

☆（5）自分で確かめる点

① 直前に二人が寂しさを伝え合ったことを押さえたか。
② 「次に会うまで」という期限に着目したか。
③ 箱を戻す行動と、再会やつながりへの支えを結んだか。

物を再び貸したことだけでなく、その前の会話と結びつける。航が全ての気持ちを理解したとまで決めなくてよい。

（6）　怪獣と手紙の意味を読む 70〜90 字

（6）解答例　87 字

怪獣は、昔の恩を思い出させるとともに、航とまた会う約束を感じさせるものになった。手紙も次に渡すつもりで残され、別れの寂しさを抱えながら、航との関係を続けたい思いが表れている。

（6）別解例　85 字

手紙に思いを全て書けなくても、航は理央の言葉を待ってくれた。怪獣を再び借り、手紙を次に渡そうとする姿には、寂しさが消えないままでも、航との時間を大切にする気持ちが読める。

☆（6）自分で確かめる点

① 怪獣と手紙の両方を取り上げたか。
② 寂しさが全て消えたとは書かず、最後の様子と結んだか。
③ 再び借りたことや、次に手紙を渡す予定を根拠にしたか。

恩を思い出す、言葉にしきれない気持ちを託すなど、根拠のある別の読みもよい。道具一つにつき意味を一つだけに固定しない。

漢字から文章へ 第二冊

第二回

願いと意志

星を見る会への、手作りの招待状。
晴れるか分からない夜に、何を約束できるでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

志	願	望	祈
心に決めた目標	こうあってほしい	遠くを見る 願う	神仏などに願う

欲	求	頼	託
ほしいと思う	探す 手に入れる	たのむ たよる	任せる 思いを預ける

いっしょに覚える漢字

任	委	請	承	諾	誓
約	念	恵	希	懇	勧

この回で読むお話

晴れを約束しない招待状

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
志	シ こころざす こころざし	心に決めた目標へ向かう 志す・志望・意志	欲	ヨク ほしい	ほしいと思う／望む 欲求・意欲・私欲
願	ガン ねがう	こうあってほしいと思う 願う・願望・願書	求	キュウ もとめる	探す／手に入れようとする 求める・要求・追求
望	ボウ のぞむ	遠くを見る／願う 希望・展望・志望	頼	ライ たのむ たよる	たのむ／あてにする 依頼・信頼・頼る
祈	キ いのる	神仏などに願う 祈る・祈願・祈念	託	タク	人に任せる／思いを預ける 託す・委託・受託

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
任	ニン まかせる	任せる／役目を負う 任務・委任・責任	約	ヤク	取り決める／短くまとめる 約束・予約・要約
委	イ ゆだねる	任せる／預ける 委ねる・委任・委員	念	ネン	心に思う／思い続ける 信念・念願・祈念
請	セイ シン こう	願い求める 請求・申請・請願	恵	ケイ エ めぐむ	恵み／情けをかける 恵み・恩恵・知恵
承	ショウ うけたまわる	受け入れる／引き継ぐ 承知・承諾・継承	希	キ	まれだ／願う 希少・希望
諾	ダク	引き受ける返事をする 承諾・快諾・諾否	懇	コン	心をこめる／親しい 懇願・懇切・懇談
誓	セイ ちかう	固く決意し 約束する 誓う・誓約・宣誓	勧	カン すすめる	相手に働きかけて促す 勧める・勧誘・勧告

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「志望」の「志」が表すものとして適切なのはどれですか。
ア　受けた助けへのお礼　　イ　引き受ける返事
ウ　心のめざすところ　　エ　昔を思い出すこと

(2)「祈願」の説明として適切なものはどれですか。
ア　結果を既に確かめたこと　　イ　神仏などに願い求めること
ウ　役目を人に任せること　　エ　期限を取り決めること

(3)「欲求」と「要求」に共通する「求」の働きはどれですか。
ア　もとめる　　イ　引き継ぐ
ウ　まとめる　　エ　引き受ける

(4)「委託」と「受託」の関係として適切なのはどれですか。
ア　先に祈ることと、あとで願うこと　　イ　仕事を断ることと、責任を消すこと
ウ　目標を持つことと、目標を失うこと　　エ　仕事を任せることと、任されて受けること

(5)「承諾」に最も近い説明を選びなさい。
ア　内容を聞いたという記録だけ　　イ　願いをまだ伝えていないこと
ウ　申し出を受け入れる返事　　エ　今後の結果を願うこと

(6)「希望」と「希少」の「希」は、どう使われていますか。
ア　どちらも、全て任せる意味　　イ　前者は願う、後者はまれだという意味
ウ　前者は命じる、後者は断る意味　　エ　どちらも、既に実現したという意味

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　懇切　契約　意欲　受託　志望　申請　依頼
念願　祈願　委託　展望　宣誓　承諾　要求

文	解答	文	解答
(1) 進みたい学校への□□の理由を書いた。		(8) 任された同じ仕事を、その会社が□□した。	
(2) 未来の様子を見渡し、今後の□□を語った。		(9) 提出期限を延ばしてほしいと□□した。	
(3) 神社で、旅の安全を□□した。		(10) 頼みに「引き受けます」と答え、□□した。	
(4) 練習への強い□□を持ち、自分から取り組む。		(11) 選手代表が、正々堂々と競技することを□□した。	
(5) 相手に必要な改善を□□として伝えた。		(12) 店と代金や品物の条件を取り決め、□□を結んだ。	
(6) 協力を頼む□□の手紙を送った。		(13) 長年抱いてきた□□が、ついにかなった。	
(7) 仕事を外部の会社へ任せ、□□した。		(14) 分からない所を相手に合わせて□□に説明した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「願望」と「意志」の使い方として、この文脈に合う説明を選びなさい。

海をきれいにしたいという願望を持ち、毎月の清掃に参加する意志を伝えた。

ア　海をきれいにする役目を、清掃の担当者へ任せた。
イ　参加したい気持ちはあるが、行動するかは決めていない。
ウ　願う姿に加え、自分がどう行動するかも示している。
エ　自分が参加すれば、海がきれいになると保証した。

（2）「依頼」と「承諾」の関係として適切なものを選びなさい。

司会を依頼したが、本人は予定を調べてから承諾するか答えると言った。

ア　依頼は済んだが、引き受ける返事はまだである。
イ　予定の確認を終え、引き受けると返事した。
ウ　予定が合わないため、引き受けられないと返事した。
エ　前の返事を取り消したので、改めて司会を頼み直した。

（3）この文の「信頼」は、何に着目していますか。

一人に全てを任せきりにせず、互いに確認しながら信頼を育てた。

ア　相手のすることを、何も聞かずに認めること。
イ　一人が、全員の役目を引き受けること。
ウ　確認をやめたので、失敗が消えたこと。
エ　相手を頼りにできる関係を作ること。

（4）「勧める」の使い方から、この文で言えることを選びなさい。

姉は見学を勧めたが、申し込むかどうかは弟が決めた。

ア　姉が勧めたので、弟には断る余地がなかった。
イ　姉は働きかけ、最終的な選択は弟が行った。
ウ　弟が選んだので、姉の勧めは存在しなかった。
エ　姉は、見学の申込みを既に済ませていた。

（5）「託す」を使い、だれに何を預けたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「約束」を使い、自分が実行することを具体的に書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 将来、もの作りの仕事を**ココロザ**している。	
(2) 入学のための**ガンショ**を提出した。	
(3) 前向きな**キボウ**を持って歩み出した。	
(4) 平和を**キネン**する式典が開かれた。	
(5) 新しい仕組みを知りたいという**ヨッキュウ**がある。	
(6) 納得のいく説明を**ツイキュウ**した。	
(7) 互いの行動を通して**シンライ**を深めた。	
(8) 話合いの代表に、手続を任せる**イニン**状を渡した。	
(9) 新しい代表を信頼し、役目を任せる**シンニン**の意を示した。	
(10) 行事で自分が負う**ニンム**を確かめた。	
(11) 受け取った品物の代金を**セイキュウ**された。	
(12) 事情を聞いて、その内容を**ショウチ**した。	
(13) 固い決意を**セイヤク**として書いた。	
(14) 図書館の仕組みの**オンケイ**を受けている。	
(15) 友人から、合唱団への参加を**カンユウ**された。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 意志	(17) 諾否	(18) 予約	(19) 懇談	(20) 知恵

この回を終えたら もう一度確かめる

自分の願いを相手に伝えるとき、相手が選ぶ余地も残せていますか。
頼む内容と引き受ける範囲を確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

晴れを約束しない招待状

　招待状を半分に折ると、星の写真がちょうど折り目に重なった。陽太は紙を開き直した。来週、商店街の屋上で、星を見る会を開く。幼いころに父と見た夜空を、近所の人にも見てもらいたい。天文の仕事を志望しているわけではないが、その希望は強かった。

　会場の利用を申請し、商店会から承諾を得た。陽太の意欲を見た書店主の勧めで、望遠鏡を持つ大人に案内を依頼すると、快諾の返事が来た。経験に頼れるのはありがたい。あとは、この招待状を配るだけだと思っていた。

　「きっと星を見せます、か。雨なら？」
下書きを読んだ澄に聞かれ、陽太は窓の方を見た。曇っている。空に晴れてほしいと懇願したくなった。けれど、祈っても雲を動かす役目までは引き受けられない。来る人へ晴れを約束するのは違う気がした。

　澄は、紙の星を指した。「曇ったら、この写真で話せるよ。」陽太はうなずき、計画を二通り書いた。晴れれば屋上へ上がり、雨や曇りなら一階で写真を見る。窓の外の雲は変わらないのに、何を準備すればよいかは見えてきた。

　次に、受付を澄に託そうとした。すぐに返事が来ると思ったが、澄は分担表を見たままだった。「前半ならできる。でも、後半は私も空を見たい。」

　陽太は、任せれば一晩ずっと働いてもらえると思っていた自分に気づいた。話し合い、後半は交代することにする。実行委員の分担表に、二人の任務と時間を書き込んだ。澄は自分の名前の横に、小さな星も描いた。

　祖父にも招待状を見せた。「毎回、人の希望に全部応えなくてもいい。」来る人の要求に応えれば、よい会になると思っていた。だが、できる範囲を知らせることも必要なのだろう。「必ず成功させる」と誓う代わりに、「天気に合う形で、来た人を迎える準備をする」と書き直した。

　澄の知恵を借りられたことが、うれしかった。一人で全てを抱えずに済むと、次の会への展望も少し開けた。念願だった会の招待状を、もう一度折る。今度は星の写真を少しずらしたので、写真の下の開催時刻も、はっきり読めた。

会と登場人物は、本教材のために設定したものです。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）気持ちよく引き受けることを表す語を、第二段落から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）心から強く願い求める「コンガン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「託そう」の意味として、適切なものを選びなさい。

ア　受付の仕事を、なかったことにしよう。
イ　受付の仕事を、澄に任せよう。
ウ　澄の希望を、知らないことにしよう。
エ　澄に、天気を決めてもらおう。

（4）澄が「前半ならできる」と答えたことから、言えることを選びなさい。

ア　澄は会への協力を、全て断った。
イ　澄は後半も受付をすることを承諾した。
ウ　陽太は受付の準備を、全てやめた。
エ　澄は引き受ける範囲と、自分の希望を伝えた。

（5）陽太が招待状の「きっと星を見せます」を改めたのはなぜですか。自分ができることと天気との違いを踏まえ、45〜55 字で説明しなさい。

（6）澄とのやり取りを踏まえ、あなたが陽太なら、手伝う人にどのように仕事を頼みますか。「依頼」「承諾」を使い、具体的な確認内容を含めて 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第二回　願いと意志

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　「志」は心の向かう目標に関わる。「志望」は、こうなりたいと望むこと。

（2）イ　願いを祈ること。祈願したという事実だけで、望みが実現したとは言えない。

（3）ア　得たいと願うことに関わる。何を、だれにもとめるかは、語と文脈で確かめる。

（4）エ　同じ仕事について、任せる側と引き受ける側から表している。受託すれば、頼まれた範囲の役目を負う。

（5）ウ　申し出や頼みを受け入れること。聞いたという事実だけで、引き受けたと決めない。

（6）イ　「希」には、まれであることと、願うことの意味がある。一つの意味だけで全ての熟語を説明しない。

四　熟語を広げよう

（1）志望　（2）展望　（3）祈願　（4）意欲　（5）要求

（6）依頼　（7）委託　（8）受託　（9）申請　（10）承諾

（11）宣誓　（12）契約　（13）念願　（14）懇切

（7）（8）は同じ仕事を、任せる側と引き受ける側から見る。（9）は許しや認定などを求めて申し出ること、（10）は申し出を受け入れること。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　ここでは望む状態と、自分がしようとする行動に着目する。願望と意志は重なることもあり、必ず前後の段階に分かれるとは限らない。

（2）ア　頼む人と引き受ける人は別。確認中の返事を、承諾や拒否と早合点しない。

（3）エ　信頼することは、確認や相談をしないことと同じではない。役目や困った点を共有することが、頼りにできる関係につながる場面もある。

（4）イ　相手にすすめることと、相手に代わって決めることを区別する。この文では、弟が自分で選ぶ余地がある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

会に出られない私は、友人に手紙を託して感謝の気持ちを届けた。

☆自分で確かめる点　預けたものや思い、預けた相手が分かるか。

（6）解答例

結果が分からなくても、調べた内容を金曜日までに伝えると約束した。

☆自分で確かめる点　自分が行うことと、相手と取り決めた内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）志　（2）願書　（3）希望　（4）祈念　（5）欲求

（6）追求　（7）信頼　（8）委任　（9）信任　（10）任務

（11）請求　（12）承知　（13）誓約　（14）恩恵　（15）勧誘

（16）いし　（17）だくひ　（18）よやく　（19）こんだん　（20）ちえ

（1）は「志して」で「こころざして」と読む。（8）委任は仕事などを任せること、（9）信任は信頼して任せること。（15）は参加などを勧めて誘うこと。

七　文章の中で考えよう

（1）快諾　案内の依頼に、気持ちよく引き受ける返事をもらった場面。
（2）懇願　心から願い、強く頼むこと。「祈願」と字を取り違えない。
（3）イ　受付を澄に任せることを表している。
（4）エ　協力する範囲を前半とし、後半は自分も見たいと伝えている。全て断るか全て受けるかだけの返事ではない。

七　記述問題の考え方

（5）　招待状を書き直した理由 45〜55 字

（5）解答例　55 字

星を見る準備は自分で進められても、天気までは決められず、星を必ず見せることを来る人に約束できないと考えたから。

（5）別解例　53 字

自分では雲を動かせないので、晴れる結果を約束するのでなく、曇っても来る人を迎える準備をしようと考えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 自分で天気を決められないことを示したか。
② 準備する行動と、星が見える結果を分けたか。
③ 来る人に何を約束できるかという理由につないだか。

晴れを願うことを否定したのではない。願いと、相手へ約束できる行動の範囲を分けて読む。

（6）　相手の選択を残す仕事の頼み方 70〜90 字

（6）解答例　86 字

受付を依頼するときは、仕事の内容と必要な時間を伝え、引き受けられる時間帯を聞く。会を楽しみたいという希望も確かめ、途中で交代する方法を決めたうえで、その範囲への承諾を得る。

（6）別解例　85 字

会場の準備を依頼する前に、いつ何をする仕事か説明し、相手の都合や希望を聞く。できない部分は別の人と分けることも相談し、決めた仕事と時間に承諾してもらってから分担表に書く。

☆（6）自分で確かめる点

①「依頼」「承諾」の二語を使ったか。
② 仕事の内容や時間など、確認する事柄が具体的か。
③ 相手の希望や都合を聞き、引き受ける範囲を確かめたか。

受付以外の仕事でもよい。頼んだ時点で全て引き受けたと扱わず、返事を確かめる流れにする。

漢字から文章へ 第二冊

第三回

迷いと判断

貸してほしいのは、同じ青い布。
先に頼んだ友人と、条件に合う申込み。どう考えましょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

迷	択	許	否
道や考えが定まらない	選ぶ	認める ゆるす	こばむ そうでない

可	誤	是	非
よい できる	間違える	正しい よしとする	違う 正しくない

いっしょに覚える漢字

宜	妥	適	確	決	断
裁	責	義	謝	慮	了

この回で読むお話

貸出簿の余白

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
迷	メイ まよう	道や考えが定まらない 迷う・迷路・迷惑	可	カ	よい／できる／認める 可能・許可・可決
択	タク	選ぶ 選択・採択・二者択一	誤	ゴ あやまる	間違える／取り違える 誤解・誤字・錯誤
許	キョ ゆるす	認める／差し支えないとする 許可・許容・許す	是	ゼ	正しい／よしとする 是非・是正・国是
否	ヒ いな	そうでない／こばむ 否定・拒否・可否	非	ヒ	そうでない／正しくない 非難・非常・是非

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
宜	ギ	ちょうどよい／ふさわしい 適宜・便宜・時宜	裁	サイ さばく	判断し 処理する／切る 裁く・裁量・裁断
妥	ダ	適切に収まる／折り合う 妥当・妥協	責	セキ せめる	責める／役目を負う 責める・責任・責務
適	テキ	ふさわしい／かなう 適切・適応・適当	義	ギ	道理／守るべきこと／意味 正義・義務・意義
確	カク たしか	はっきりしている 確か・確認・確実	謝	シャ あやまる	わびる／ありがたく思う 謝罪・感謝・謝る
決	ケツ きめる	決める／決まる 決定・決断・解決	慮	リョ	よく考える／思いやる 考慮・配慮・遠慮
断	ダン たつ ことわる	切る／決める／断る 判断・決断・断定	了	リョウ	終える／分かる 終了・了解・了承

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「可否」の説明として、最も適切なものを選びなさい。
ア　よいか よくないか　　イ　古いか 新しいか
ウ　近いか 遠いか　　エ　早いか 遅いか

(2)「選択」と「採択」に共通する働きはどれですか。
ア　全て断る　　イ　誤りを謝る
ウ　数を増やす　　エ　選び取る

(3)「是正」の説明として、最も適切なものを選びなさい。
ア　違いを全て消すこと　　イ　何も変えず守ること
ウ　よくない点を正すこと　　エ　気持ちだけを伝えること

(4)「裁量」の説明として、最も適切なものを選びなさい。
ア　相手を強く責めること　　イ　自分の判断で処理すること
ウ　数値を正確に測ること　　エ　どんな条件もなくすこと

(5)「義務」と「意義」の「義」は、どう働いていますか。
ア　前者は果たすべきこと、後者は意味や価値　　イ　どちらも、失敗した人を責める意味
ウ　前者は許可、後者は拒否という意味　　エ　どちらも、仕事が終わったという意味

(6)「謝罪」と「感謝」に共通する字の説明として適切なのはどれですか。
ア　どちらも、過失を認めてわびる　　イ　どちらも、相手へのうらみを述べる
ウ　前者はわび、後者はありがたく思う　　エ　前者は命じ、後者は断る

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　非難　決断　妥当　確認　可否　選択　便宜
責任　拒否　正義　終了　許可　適応　誤解

文	解答	文	解答
(1) いくつかの案から、一つを□□した。		(8) 使いやすくするため、利用者の□□を図った。	
(2) 会場を使ってよいと管理者から□□を得た。		(9) 根拠に照らして、その判断は□□だと考えた。	
(3) 同意できない頼みを□□した。		(10) 転校先の環境に慣れ、次第に□□していった。	
(4) 計画を実行できるか、□□を確認した。		(11) 時刻表を見て、発車時刻を□□した。	
(5) 説明の受け取り方に□□があり、話がずれた。		(12) 迷った末に、進む道を選んで□□した。	
(6) 弱い立場の人も公平に扱う社会の□□について考えた。		(13) 自分の役目について□□を持って取り組む。	
(7) 他人を責める□□の言葉ばかり並べた。		(14) 片付けが終わり、行事の□□を知らせた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この場面で「許可」と「許容」は、何に着目していますか。

会場の使用を許可したが、大声が続く状態までは許容していない。

ア　会場を使う行為の承認と、受け入れられる状態の範囲。
イ　使用を認めたので、声の大きさは利用者に任せている。
ウ　大声の人を断るため、会場の使用自体を認めていない。
エ　大声が続いたことを理由に、既に使用許可を取り消した。

（2）「適当」が表す意味の組合せを選びなさい。

A　材料を適当な大きさに切る。
B　確認せずに適当な返事をする。

ア　A も B も、細かく正確なこと。
イ　A はふさわしい、B はいい加減。
ウ　A はいい加減、B はふさわしい。
エ　A も B も、実行できないこと。

（3）「判断」と「断定」の関係として、適切なものを選びなさい。

今ある資料で判断し、まだ確かでない点は断定を避けた。

ア　判断したので、全ての点を確定したはずだ。
イ　断定を避けると、何も考えていないことになる。
ウ　判断は感情だけ、断定は数値だけで行う。
エ　考えを示しつつ、不確かな点は言い切っていない。

（4）「了解」と「了承」の扱いとして、適切なものを選びなさい。

事情を了解したと聞いた。ただし、その変更を受け入れる返事かどうかは確かめたい。

ア　了解の一語があれば、どんな変更も認めたと決める。
イ　了解した人は、事情をまだ何も聞いていない。
ウ　二語は意味が重なることもあるため、必要な範囲を確かめる。
エ　了承は謝罪を表すので、変更とは関係がない。

（5）「考慮」を使い、どんな条件を考えに入れたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「謝罪」を使い、何についてだれにわびたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 入り組んだ**メイロ**の出口を探した。	
(2) 二つの道から選ぶ**ニシャタクイツ**を迫られた。	
(3) 使える範囲の**キョヨウ**限度を確認した。	
(4) その案には、**ヒテイ**的な意見も出た。	
(5) 改善案は多数の賛成で**カケツ**された。	
(6) 印刷物の**ゴジ**を直した。	
(7) その方法を採用することの**ゼヒ**について話し合った。	
(8) 急な**ヒジョウ**事態に備えた。	
(9) 状況に合わせて**テキギ**休憩を取る。	
(10) 互いに譲り合う**ダキョウ**の案を探した。	
(11) 相手に合った**テキセツ**な言葉を選ぶ。	
(12) 知らせを本人に届ける、**カクジツ**な方法を考えた。	
(13) 任された仕事を果たす**セキム**がある。	
(14) 判断が任される**サイリョウ**の範囲を聞いた。	
(15) 助けてもらったことに**カンシャ**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 迷信	(17) 義務	(18) 遠慮	(19) 了承	(20) 完了

この回を終えたら もう一度確かめる

その判断で守りたいのは何でしょう。
断るときも、条件と相手への配慮を結び、理由をつないで伝えましょう。

七　文章の中で考えよう

貸出簿の余白

千夏は、貸出先の欄にペンを置きかけて止めた。目の前の健は親しい友人で、申込みも一番早い。それでも、すぐには名前を書けなかった。廊下からは、掃除のバケツを引く音がしていた。

貸すのは、美術部の青い布だ。水にぬれると色が落ちる。条件は「室内で使う」「切らない」「金曜十六時までに返す」。条件を満たす組が重なったときは、申込順に貸す。担当の千夏に、条件を変える裁量まではない。

青い布の申込み

申込順	使い方	返却予定
1 健の組	木曜の放課後 校庭で撮影	金曜 15 時
2 理沙の組	木曜の放課後 教室で撮影	金曜 15 時

「外でも、晴れていれば汚さないよ。」健が言った。千夏は迷った。天気の話だけで可否を判断してよいのか。布を守る責任もある。室内という条件には合わないので、屋外での使用は許可できないと伝えた。

「ぼくを信用していないんだ。」
健の声が低くなった。千夏はペンを置いた。
「健が悪いと言っているんじゃないよ。」

申込者の是非を裁くように聞こえたことは謝った。一方で、友人の便宜だけを図るのも妥当ではない。守る義務のある条件を示し、それに適しているかを確かめたのだと説明した。

ただ拒否して話を終了させる前に、使う目的も聞いてみた。健が欲しいのは空の色に近い背景だという。「教室の壁に掛ける方法ならどうかな。」健は少し考え、「窓のそばで撮れるか、みんなに聞く」と答えた。室内で撮ると決定したわけではない。千夏は返事を待つことにした。

貸出簿の余白に「健の組は条件の変更を検討中」と書きかけ、消した。これでは条件自体を変える話だと誤解される。「使用場所を教室に変更できるか相談中」と是正した。理沙にも状況を伝えよう。健への配慮を、次に待つ人の不都合にしたくなかった。

「先に申し込んだ組に貸す」という一行だけでは足りない。その前に、どの組が条件を満たしているかを確かめる必要がある。千夏は選択の基準を読み直した。健から了承の返事が来るまでは、貸出先の欄を空けておこう。ペンには、いったんふたをした。

貸出条件と記録は、本教材のための設定です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と申込みの表を根拠にして答えなさい。

（1）不適切な表現を正しい形に直すことを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）相手の事情に心を配る「ハイリョ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）「条件を変える裁量まではない」とは、どういうことですか。

ア　千夏は、布を貸すための条件を知らされていない。
イ　健が、千夏に代わって貸出条件を決める。
ウ　千夏には、貸出条件を自分の判断で変える権限はない。
エ　申込者は、貸出条件を読まずに布を使ってよい。

（4）本文の最後の時点で、確かめられていることを選びなさい。

ア　健の組は、教室で撮ることを了承した。
イ　健は、使用場所を変えられるか組の人に聞こうとしている。
ウ　理沙の組は、申込みを取り消した。
エ　貸出条件は、屋外でも使えるものへ変更された。

（5）千夏が健の組に屋外での使用を許可しなかったのはなぜですか。申込順と、千夏の役目の両方に触れ、45〜55 字で説明しなさい。

（6）あなたが千夏なら、健にどのように伝えますか。「許可」「配慮」を使い、守る条件と、撮影したい目的への対応を含めて 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第三回　迷いと判断

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　認めるかどうか、実施できるかどうかなどを表す。何についての可否かを確かめる。

（2）エ　「択」は選ぶこと。「採択」は、案や意見などを選んで取り上げること。

（3）ウ　誤りや不適切な点を直すこと。「是非」の「是」も、よい・正しいという意味に関わる。

（4）イ　任された範囲で判断し処理すること。条件を自由に変えてよいとは限らない。

（5）ア　「義」には道理や守るべきこと、意味などの働きがある。熟語全体で確かめる。

（6）ウ　「謝」には、わびる働きとありがたく思う働きがある。一字だけで謝罪と決めない。

四　熟語を広げよう

（1）選択　（2）許可　（3）拒否　（4）可否　（5）誤解

（6）正義　（7）非難　（8）便宜　（9）妥当　（10）適応

（11）確認　（12）決断　（13）責任　（14）終了

（4）は実行できるかどうか。（6）「正義」は正しい道理に関わる語。（9）の「妥当」は根拠に照らして適切であること、（10）の「適応」は環境などに合うようになること。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　この文では、使用を認めることと、受け入れられる状態の範囲を分けている。二語の意味は重なることもあり、常に明確な制度上の区別があるとは限らない。

（2）イ　「適当」には、ふさわしいという意味と、いい加減という意味がある。字だけを見ず、何をする場面かを読む。

（3）エ　判断する際に、確かさの程度や条件を示すこともできる。判断することと、全てを断定することは同じではない。

（4）ウ　理解し認める意味で重なる場合もある。大事な変更なら、一語の機械的な違いに頼らず、何を受け入れたかを具体的に確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

帰りの電車の時刻も考慮して、見学を終える時間を決めた。

☆自分で確かめる点　何を判断するために、どんな条件を考えたかが分かるか。

（6）解答例

返却日を間違えて迷惑をかけたことを、借りた相手に謝罪した。

☆自分で確かめる点　感謝と混同せず、わびる相手と内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）迷路　（2）二者択一　（3）許容　（4）否定　（5）可決

（6）誤字　（7）是非　（8）非常　（9）適宜　（10）妥協

（11）適切　（12）確実　（13）責務　（14）裁量　（15）感謝

（16）めいしん　（17）ぎむ　（18）えんりょ　（19）りょうしょう　（20）かんりょう

（7）の「是非」は、よいか悪いかという意味で使っている。（8）「非常」は普段と異なることにも、程度が大きいことにも使う。（10）妥協を、理由もなく悪い選択と決めない。

七　文章の中で考えよう

（1）是正　誤解を招く記録を、実際の相談内容に合う表現へ直した場面。

（2）配慮　相手の事情や、ほかの人への影響も考えること。
（3）ウ　「裁量」は自分の判断で処理すること。千夏は決められた条件に合うかを確かめるが、その条件自体を変える権限までは持っていない。
（4）イ　健は組の人に聞くと答えている。了承も取消しも、まだ確かめられていない。

七　記述問題の考え方

（5）　屋外での使用を許可しなかった理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

申込順が先でも屋外での使用は室内という条件に合わず、千夏には布を守る役目があり、条件を変える権限はないから。

（5）別解例　54 字

健が先に申し込んでも条件を満たす必要があり、布を守る担当の千夏は、自分の判断で室内使用の条件を外せないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 申込順が先であることだけでは決まらないと示したか。
② 屋外使用が室内という条件に合わないことを書いたか。
③ 布を守る役目と、条件を変える裁量がないことを結んだか。

健が実際に布を汚した、信用できない人だと分かった、などの理由は本文にない。人物への評価と申込みの条件を混同しない。

（6）　条件と配慮を結ぶ伝え方 70〜90 字

（6）解答例　88 字

布を守るため室内で使う条件があり、担当の私には屋外での使用を許可できません。ただ、空の色を背景にしたい目的には配慮したいので、教室に布を掛ける方法で撮影できるか相談しませんか。

（6）別解例　87 字

先に申し込んでも、室内で使う条件に合う必要があるので、校庭での撮影は許可できません。撮りたい写真への配慮として、教室の窓辺を使えるか考えたいので、みんなにも確かめてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「許可」「配慮」を使い、健への発言として書いたか。
② 室内という条件を守り、屋外使用は認められないと伝えたか。
③ 写真を撮る目的を尊重し、条件に合う案や相談を示したか。

丁寧さだけでなく、何ができて何ができないかを伝える。健の組が代案を了承したと先取りしない。

漢字から文章へ 第二冊

第四回

調べて確かめる

二百五十グラムを載せた橋が、優勝でしょうか。
記録の隣には、四秒という数字もありました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

検	査	審	討
調べて確かめる	詳しく調べる	調べて判断する	論じる うつ

探	索	照	鑑
探す 奥まで調べる	手がかりで探す	光を当てる 比べる	見分ける 手本

いっしょに覚える漢字

録	報	告	測	計	量
程	準	標	数	料	定

この回で読むお話

四秒の橋

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
検	ケン	調べて確かめる 検査・検討・点検	探	タン さぐる さがす	探す／奥まで調べる 探索・探究・探す
査	サ	詳しく調べる 調査・審査・監査	索	サク	手がかりをたどって探す 検索・索引・思索
審	シン	詳しく調べ 判断する 審査・審議・不審	照	ショウ てる てらす	光を当てる／比べる 照明・参照・照合
討	トウ うつ	調べ論じる／うつ 検討・討論・討伐	鑑	カン かんがみる	よく見て見分ける／手本 鑑定・鑑賞・図鑑

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
録	ロク	書き記し 残す 記録・録音・登録	程	テイ ほど	程度／道筋／順序 程度・過程・日程
報	ホウ むくいる	知らせる／返す 報告・情報・報いる	準	ジュン	よりどころ／そなえる 基準・標準・準備
告	コク つげる	伝え知らせる 告げる・報告・広告	標	ヒョウ	目じるし／目当て 目標・標準・標本
測	ソク はかる	程度や長さを調べる 測定・観測・予測	数	スウ かず かぞえる	数／数える 数字・数値・多数
計	ケイ はかる	数える／見積もる／企てる 計算・合計・計画	料	リョウ	もとになる物／代金 材料・資料・料金
量	リョウ はかる	かさや重さ／程度 数量・分量・計量	定	テイ さだめる	決める／落ち着く 定める・決定・安定

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「検討」の説明として適切なものはどれですか。
ア　結論を知らせること　　イ　よく調べ 考えること
ウ　重さだけを量ること　　エ　資料を印刷すること

(2)「審査」に含まれる働きとして適切なものはどれですか。
ア　資料を全て保管する　　イ　物の数だけを書き出す
ウ　図を大きく描き直す　　エ　内容を調べ 判断する

(3)「検索」と「探索」の「索」に共通する意味はどれですか。
ア　さがし求める　　イ　数を合わせる
ウ　明るく照らす　　エ　終わりを決める

(4)「照合」の説明として適切なものはどれですか。
ア　光を消して暗くする　　イ　記録を作らず覚える
ウ　突き合わせて確かめる　　エ　結論だけを人に伝える

(5)「数量」と「分量」に共通する「量」の意味はどれですか。
ア　知らせる内容　　イ　ものの多さや程度
ウ　調べる順番　　エ　判断する人の役目

(6)「基準」と「標準」に共通する働きはどれですか。
ア　全ての違いをなくすこと　　イ　最も新しい案を選ぶこと
ウ　一度の結果を保存すること　　エ　判断や比較のよりどころ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　検索　報告　計画　審査　鑑賞　標準　探究
登録　索引　参照　測定　討論　点検　調査

文	解答	文	解答
(1) 使う前に、器具に故障が ないか□□した。		(8) 説明書の図を□□し、 部品を組み立てた。	
(2) 町の人口や世帯数を 詳しく□□した。		(9) 絵を眺め、色や構図の 美しさを□□した。	
(3) 応募作品が基準に合うか、 選考委員が□□した。		(10) 参加者の氏名を名簿に □□し、受付を済ませた。	
(4) 異なる意見を出し合い、 問題について□□した。		(11) 調べた結果を、全員に □□して知らせた。	
(5) なぜそうなるかという 問いを、深く□□した。		(12) 橋の長さを、ものさしで □□した。	
(6) 語句を入力し、必要な 情報を□□した。		(13) 作業の順序を、始める 前に□□としてまとめた。	
(7) 本の末尾の□□で、 語句のあるページを探した。		(14) 比較するときのよりどころ となる□□を決めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「検査」と「調査」の関係として、適切なものを選びなさい。

部品の検査を行い、不良が起きた経緯も調査した。

ア　二語とも、部品の合否だけを決める作業を表す。
イ　両方とも調べる働きがあり、この文では対象や目的が違う。
ウ　検査は経緯、調査は部品の状態を見ることを表す。
エ　検査したので、経緯は調べずに説明している。

（2）「探究」と「探索」は、この場面で何に着目していますか。

森を探索して植物を探し、その育ち方の理由を探究した。

ア　前者は理由、後者は場所を探すこと。
イ　どちらも、植物の名前を決めることだけ。
ウ　前者は現地で探すこと、後者は理由を深く調べること。
エ　探索したので、育ち方の理由も既に分かっている。

（3）「測る」「量る」「計る」の使い分けとして、適切なものを選びなさい。

橋の長さを測る。材料の重さを量る。試験の時間を計る。

ア　対象に合わせて表記を選び、何を調べるか示している。
イ　三つの表記は、いつでも全く同じように交換できる。
ウ　「計る」は、計画を立てる場面以外には使えない。
エ　「量る」は、数値で表せないものだけに使う。

（4）「記録」と「報告」の説明として、適切なものを選びなさい。

観察を記録したが、結果の報告はまだ行っていない。

ア　記録があるなら、全員に結果が伝わっている。
イ　報告していなければ、観察は行われていない。
ウ　記録と報告は、別々には行えない。
エ　観察を残したことと、相手に知らせたことを分けている。

（5）「照合」を使い、何と何を突き合わせたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「基準」を使い、何をよりどころに判断するかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 部品に不具合がないか、出荷前に**ケンサ**した。	
(2) 別の案も**ケントウ**する。	
(3) 会議で課題を取り上げ、**トウギ**を重ねた。	
(4) 問いの意味を考え、深い**シサク**を重ねた。	
(5) 手がかりを求め、周辺を**タンサク**した。	
(6) 古い絵が本物かどうか、専門家に**カンテイ**を頼んだ。	
(7) 部屋の**ショウメイ**をつけた。	
(8) 話の内容を**ロクオン**して残した。	
(9) 集めた**ジョウホウ**の出所を確かめた。	
(10) 新しい催しの**コウコク**を作った。	
(11) 時間を**ケイソク**した。	
(12) 使う水の**ブンリョウ**を決めた。	
(13) 結果だけでなく、決まるまでの**カテイ**も調べた。	
(14) 人数を表す**スウジ**を、表に書き込んだ。	
(15) 数値のもとになった**シリョウ**を確かめた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 観測	(17) 標本	(18) 数量	(19) 予定	(20) 材料

この回を終えたら もう一度確かめる

数字だけでなく、単位、調べた条件、判定の基準を確かめましょう。
ほかの人が同じ方法で調べられる記録になっていますか。

七　文章の中で考えよう

四秒の橋

「四秒だよ。」友人が、千尋の書いた見出しの横に指を置いた。「B、二百五十グラムで一位」。紙の橋の展示に付ける報告だ。机には、さっき折れたBの模型が残っている。二人で探し、図鑑の橋の形をまねて作ったものだった。

科学クラブでは、見た目を鑑賞するだけでなく、重りを支える力も比べようと討論した。審査の基準は「十秒間支えた重さ」と定めていた。千尋は、計画のノートへ目を戻した。

材料は同じ分量の紙。机の間は三十センチ。道具を点検し、中央に重りを静かに載せ、五十グラムずつ増やす。重さと時間をそれぞれ測定し、数値だけでなく、折れた時点も記録する。

三つの模型の試験記録

模型	10 秒間支えた重さ	その次の試験
A	200g	250g で 3 秒後に折れた
B	200g	250g で 4 秒後に折れた
C	150g	200g で 6 秒後に折れた

Bに二百五十グラムを載せたのは本当だ。でも、四秒で折れたことも本当だった。決めた基準と照合すると、十秒間支えた重さの最高の値は、AもBも二百グラムになる。

「三秒より四秒なら、Bが上じゃない？」
千尋は、まだ消しゴムを持たなかった。
「それは別の比べ方だね。」

何を比べるかによって、順位は変わりうる。この記録から、Bの形がいつでも強いとまでは言えない。同じ形を作り直した試験も、まだしていない。千尋は最初の見出しをノートに残してから、展示用の紙に「AとB、十秒の記録は同じ」と書いた。

準備を片付けながら、記録用紙の空欄が気になった。重りを載せた場所は毎回中央だったか。検索した資料には写真が多いのに、自分たちの試験の写真はない。調査の過程をたどれるよう、次は位置と、そのときの様子も残そう。目標の欄に書き足すと、友人が折れた橋を箱へ移した。

模型と試験記録は、本教材のために設定したものです。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と試験記録の両方を根拠にして答えなさい。

（1）調べた事実などを書き残すことを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本文のように、結果や方法が正しいか確かめる「ケンショウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「過程」の意味として、適切なものを選びなさい。

ア　調べて分かった最後の答えだけ。
イ　実際には行わなかった予定だけ。
ウ　使った材料を買うための金額。
エ　調査が進んだ道筋や、その間の様子。

（4）決めた審査基準と表から言えることを選びなさい。

ア　Ｂだけが、二百五十グラムを十秒支えた。
イ　ＡとＢは、十秒支えた重さの最高値が同じだった。
ウ　Ｃは、二百グラムを十秒支えた。
エ　ＡとＢは、どの条件でも同じ強さになる。

（5）千尋の最初の見出しが決めた基準と合わないのはなぜですか。二百五十グラムと四秒が何を表すかに触れ、45〜55 字で説明しなさい。

（6）次に同じ試験を行う班へ、記録の取り方を提案しなさい。基準、残す項目、その理由を含め、本文の課題を踏まえて 70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第四回　調べて確かめる

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　物事をよく調べ、よいかどうかなどを考えること。既に結論を決めたという意味ではない。

（2）エ　詳しく調べて、基準に照らして判断すること。審査の目的や基準も確かめる。

（3）ア　情報や物などを探し求める働きがある。何を手がかりに、何を探すのかに着目する。

（4）ウ　資料や記録を突き合わせ、合うかどうか確かめる。ここでは、光を当てる働きとは違う。

（5）イ　かさ・重さ・多さなどの程度に関わる。何の量かは、単位や対象と一緒に読む。

（6）エ　何をよりどころに判断するかに関わる。基準の内容が違えば、同じ数値でも評価が変わることがある。

四　熟語を広げよう

（1）点検　（2）調査　（3）審査　（4）討論　（5）探究

（6）検索　（7）索引　（8）参照　（9）鑑賞　（10）登録

（11）報告　（12）測定　（13）計画　（14）標準

（5）の「探究」は、物事を深く調べて明らかにしようとすること。（8）「参照」は照らし合わせて参考にすること、（9）の「鑑賞」は作品などを味わうことに着目する。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　検査と調査は意味が重なることもある。この文では、部品の状態を確かめることと、起きた経緯を調べることに着目している。

（2）ウ　ここでは、物を探す行動と、理由を深めて調べる行動を分けている。実際の活動では、この二つがつながることもある。

（3）ア　ここでは長さ・重さ・時間に応じた一般的な書き分けを確かめる。実際の表記には慣用もあるので、熟語や対象に応じて確かめる。

（4）エ　報告に記録を使うことはあるが、記録を残すだけで必要な人へ届いたとは限らない。残すことと伝えることを分けて確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

借りた本の一覧と本棚の本を照合し、返し忘れがないか調べた。

☆自分で確かめる点　二つの対象と、確かめる目的が分かるか。

（6）解答例

読みやすさを基準に、文字の大きさと行の間隔を確かめた。

☆自分で確かめる点　判断する対象と、よりどころの内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）検査　（2）検討　（3）討議　（4）思索　（5）探索

（6）鑑定　（7）照明　（8）録音　（9）情報　（10）広告

（11）計測　（12）分量　（13）過程　（14）数字　（15）資料

（16）かんそく　（17）ひょうほん　（18）すうりょう　（19）よてい　（20）ざいりょう

（3）討議は、問題について意見を述べ合い、論じること。（4）思索は、筋道を立てて深く考えること。（13）は「過程」。授業の内容や学ぶ順序を表す「課程」と区別する。

七　文章の中で考えよう

（1）記録　重さ・時間・折れた時点など、調べた事実を書き残すこと。

（2）検証　事実に照らし、正しいかどうかを確かめること。本文では、結果の数値だけでなく、基準や試験の条件も確かめ直している。

（3）エ　調査が進む道筋に着目している。結果だけを表す語ではない。

（4）イ　表の「10 秒間支えた重さ」はＡもＢも 200g。次の試験の秒数を、決めた基準での記録と取り違えない。

七　記述問題の考え方

（5）　見出しと基準が合わない理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

二百五十グラムはＢに載せた重さだが、四秒で折れており、十秒間支えた重さを比べる基準を満たした値ではないから。

（5）別解例　54 字

Ｂは二百五十グラムを載せても四秒で折れたので、十秒間支えるという審査基準では、その重さを記録にできないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 二百五十グラムを載せたことと、支えた時間を分けたか。

② 四秒で折れたという記録に触れたか。

③ 十秒間支えた重さという基準に合わないと説明したか。

Ａより一秒長かったことは事実だが、この審査の基準とは違う。何を比べる数字かを確かめる。

（6）　次の班への記録方法の提案 70〜90 字

（6）解答例　87 字

十秒間支えた重さを比べるため、載せた重さと支えた時間を別々に記録し、重りの位置や折れた様子も写真で残す。決めた基準に合う結果か、同じ条件で調べたかを後から確かめられるからだ。

（6）別解例　87 字

基準を十秒間支えた重さと用紙に書き、各試験の重さ、支えた秒数、載せた位置を記録する。中央に載せた写真も残せば、結果だけでなく試験の条件をほかの班が確かめ、比べることができる。

☆（6）自分で確かめる点

① 十秒間支えた重さという基準を示したか。

② 重さと時間に加え、位置や様子など残す項目が具体的か。

③ 基準や条件を後から確かめられるという理由を結んだか。

記録用紙の改善、写真の追加、同じ形を作り直す試験など、本文の課題に結びつく提案を認める。項目を増やすだけでなく、何を確かめるためかを書く。

漢字から文章へ 第二冊

第五回

言葉で伝える

舞台のオオカミが、急に声を小さくしました。
その理由を、校内誌ではどう伝えましょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

伝	陳	申	訴
伝える 受け継ぐ	並べる 述べる 古い	申し上げる	事情を述べ 求める
唱	詠	謡	語
声に出す 主張する	詩歌を作る 声に出す	歌う 歌	言葉 話す

いっしょに覚える漢字

談	誌	謀	詰	誇	謙
謹	講	訟	叫	喚	吟

この回で読むお話

オオカミの小さな声

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
伝	デン つたえる つたわる	伝える／受け継ぐ 伝達・伝言・伝統	唱	ショウ となえる	声に出す／主張する 唱える・合唱・主唱
陳	チン	並べる／述べる／古い 陳列・陳述・陳腐	詠	エイ よむ	詩歌を作る／声に出す 詠む・詠歌・朗詠
申	シン もうす	申し上げる／申し出る 申す・申請・申告	謡	ヨウ	歌う／歌 民謡・童謡・歌謡
訴	ソ うったえる	事情を述べて求める 訴える・訴訟・告訴	語	ゴ かたる	言葉／話す 言語・物語・語る

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
談	ダン	話す／話し合う 相談・対談・談話	謹	キン つつしむ	言動を控えめにする 謹む・謹慎・謹賀
誌	シ	書き記す／記したもの 日誌・雑誌・記念誌	講	コウ	説き聞かせる／話し合う 講義・講演・講評
謀	ボウ はかる	計画をめぐらす 謀る・謀略・参謀	訟	ショウ	訴え争う 訴訟・争訟
詰	キツ つめる つまる	詰める／厳しく問う 詰める・詰問・難詰	叫	キョウ さけぶ	大声を出す 叫ぶ・絶叫・叫声
誇	コ ほこる	誇る／大きく言う 誇る・誇張・誇示	喚	カン	呼び出す／大声を出す 喚起・召喚・叫喚
謙	ケン	へりくだる 謙虚・謙遜・謙譲	吟	ギン	詩歌を口ずさむ／味わう 吟詠・詩吟・吟味

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「陳列」と「陳述」の「陳」は、どう使われていますか。
ア　どちらも、古くなる　　イ　前者は歌う、後者は叫ぶ
ウ　どちらも、相手を責める　　エ　前者は並べる、後者は述べる

(2)「申告」の説明として適切なものはどれですか。
ア　既にある物を並べる　　イ　自分から申し出て知らせる
ウ　相手の言葉を暗記する　　エ　うわさを事実と決める

(3)「合唱」と「主唱」の「唱」は、どう使われていますか。
ア　前者は声を合わせ歌い、後者は中心となって唱える　　イ　どちらも、小声で秘密を伝える
ウ　前者は文字を記し、後者は物を並べる　　エ　どちらも、裁判で争う

(4)「詠む」と「読む」の説明として適切なものはどれですか。
ア　どちらも、必ず詩を作る　　イ　どちらも、音を出さない
ウ　前者は詩歌の創作や朗詠、後者は文字を読む　　エ　前者は相談、後者は申込み

(5)「謙虚」と「誇示」の違いとして、近いものを選びなさい。
ア　前者は相手を責め、後者は謝る　　イ　前者は控えめで、後者は得意なものを見せる
ウ　前者は事実、後者は必ずうそ　　エ　前者は大声、後者は小声

(6)「吟味」の意味として適切なものはどれですか。
ア　詩を必ず歌にすること　　イ　情報を大声で知らせること
ウ　言葉を短く切ること　　エ　よく確かめて検討すること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　日誌　童謡　絶叫　陳列　瓶詰め　伝言　訴訟
談話　謙遜　合唱　謀略　朗詠　申請　陳腐

文	解答	文	解答
(1) 預かった言葉を本人へ届ける□□を頼まれた。		(8) 幼い子どもに親しまれる□□を、皆で歌った。	
(2) 作品を棚に並べて□□する。		(9) 会長が考えを語った□□が、新聞に載った。	
(3) ありふれて新しさがない□□な表現を見直した。		(10) 活動の様子を毎日□□に書き残した。	
(4) 利用したい理由を書き、使用を□□した。		(11) 悪い計画をめぐらせる人物の□□を防いだ。	
(5) 対立を裁判で争う□□について調べた。		(12) ジャムを容器に入れて□□□にし、ふたを閉めた。	
(6) 皆で声を合わせて歌う□□を練習した。		(13) 自分の成果を控えめに語る□□の言葉を述べた。	
(7) 詩歌を声に出して味わう□□の会を開いた。		(14) お化け屋敷から、驚いた人の大きな□□が聞こえた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「訴える」は、この二文でどう使われていますか。

A　住民が困っている状況を訴えた。
B　裁判所に訴えを起こした。

ア　A も B も、必ず裁判の手続を始めた。
イ　A は歌うこと、B は歌を作ること。
ウ　A は切実に知らせ求め、B は裁判による解決を求める。
エ　A も B も、相手が必ず要求を認めた。

（2）「誇張」と「誇示」は、この文で何を表していますか。

売上げを実際より大きく誇張した。／受賞歴を並べて実力を誇示した。

ア　前者は内容を大きく表し、後者は得意な点を人に示す。
イ　どちらも、示した内容が事実でないことを表す。
ウ　前者は人の成果をほめ、後者は自分の成果を控えめに述べる。
エ　前者は過去の成果、後者は将来の希望を語る。

（3）「謙虚」と「謙遜」は、この文でどう関わっていますか。

受賞者は成果を謙遜して話し、仲間の助言を謙虚に聞いた。

ア　どちらも、自分の成果を事実と違う数値に変えること。
イ　前者は助言を断ること、後者は自分をほめること。
ウ　謙遜する人は、他人の話を必ず聞かない。
エ　前者は自分を控えめに述べ、後者は素直に受け止める態度。

（4）「喚起」の意味として、この文に合うものを選びなさい。

記事の写真が、町の歴史への関心を喚起した。

ア　写真を見た全員が、同じ意見に決まった。
イ　町の歴史へ、関心を呼び起こした。
ウ　昔の出来事を、実際にもう一度起こした。
エ　写真を、大声で読み上げた。

（5）「誇張」を使い、話を大きくせず伝えた場面を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「相談」を使い、何を考えるためにだれと話したかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 祭りの由来を次の世代へ**デンタツ**する。	
(2) 自分の意見を順に**チンジュツ**した。	
(3) 見たことを正しく**シンコク**した。	
(4) 苦しい現状を**ウッタ**えた。	
(5) 新しい考えを自ら**トナ**えた。	
(6) 異なる**ゲンゴ**でも、伝え方を工夫して話し合った。	
(7) ふるさとの**ミンヨウ**を聞いた。	
(8) 二人の**タイダン**を記事にした。	
(9) 活動をまとめた**キネンシ**を作った。	
(10) 計画を立てる役の**サンボウ**として支えた。	
(11) 相手を問いただす**キツモン**を受けた。	
(12) 自分の力を必要以上に**コジ**した。	
(13) 助言を**ケンキョ**に受け止めた。	
(14) 言動を控える**キンシン**を命じられた。	
(15) 作品についての**コウヒョウ**を聞いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 告訴	(17) 叫声	(18) 召喚	(19) 吟詠	(20) 歌謡

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ言葉でも、記事、詩、劇の台詞では働きが変わります。
だれの言葉か、自分はどう受け取ったかも確かめて書きましょう。

七　文章の中で考えよう

オオカミの小さな声

　「ぼくの話も、聞いてほしかった。」
舞台のオオカミが、急に声を小さくした。校内誌の記者として来た美空は、鉛筆を止めた。

　演劇部の新作は「オオカミの訴訟」。いつも泥棒だと決めつけられるオオカミが、村人を訴える物語だ。村人の合唱で幕が開き、月を詠む歌には民謡の節も使われていた。オオカミ役の陸は、大きな身ぶりで村人を問い詰め、叫んでいた。

　それなのに、最後の陳述だけ、声が落ちた。美空には、そのとき初めて、オオカミの顔が村人の方を向いたように見えた。幕が下りると、陸の大きな耳だけが、布の向こうで少し揺れた。

　終演後、先生の講評を聞きながら「大声で勝利を訴えたオオカミ」という見出しを考えた。だが、それでは、一番気になった小さな声が消えてしまう。美空は取材の申込みをし、陸と相談して、話を聞く時間をもらった。

　「最後に声を小さくしたのは、弱くなったから？」
陸は首を振った。
「勝ったことより、話を聞いてもらえた感じにしたかった。」

　陸は謙遜しながら、最初の稽古ではずっと大声だったことも話した。演出日誌には、その日の練習で変えたところが書いてある。美空が顔を上げると、陸はまだ片方の耳を付けていた。

　脚本には、村人の謀略や、相手を厳しく詰問する場面もある。友人は「オオカミも少しずるい」と言い、美空は「寂しそうだった」と感じた。陸の説明を聞いても、観客の読み方が一つになるわけではない。

　原稿を吟味していて、「オオカミの本当の気持ちが分かった」という一文で手が止まった。これでは、舞台の人物の心まで決めたようになる。陸が意図を話したことと、自分がどう見たかを分けて伝えたい。誇張を避けると、書きたい場面の輪郭が、かえってはっきりした。

　仮の題名は「声を落としたオオカミ」にした。「謹んで発表します」とふざけて差し出すと、陸に「そこまで固くしなくていいよ」と笑われた。読む人の関心を喚起するのは、強い言葉ばかりではない。あの一言を、今度は紙の上に置いてみよう。

物語、劇、台詞は本教材のための創作で、劇中の裁判も架空の設定です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）内容をよく確かめて検討することを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本文で、関心を呼び起こすことを表す「カンキ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「最後の陳述」は、オオカミが何をする場面ですか。

ア　自分の持っている品物を、村人の前に並べる場面。
イ　劇の出来について、観客に講評する場面。
ウ　自分の思いや事情を、言葉で述べる場面。
エ　観客がどう感じたかを、本人に代わって決める場面。

（4）本文で確かめられた内容として、適切なものを選びなさい。

ア　観客は全員、オオカミを寂しい人物だと読んだ。
イ　小声の場面では、陸が台詞を忘れていた。
ウ　美空の友人も、陸と全く同じ意図で劇を作った。
エ　陸は、話を聞いてもらえた感じにしたかったと話した。

（5）美空が最初の見出しをそのまま使わなかったのはなぜですか。見出しで強調したことと、気になった場面を比べ、45〜55 字で説明しなさい。

（6）美空の立場で、校内誌の記事の一節を 70〜90 字で書きなさい。小さな声の場面を取り上げ、陸が話した意図と、自分の受け取り方を区別して伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第五回　言葉で伝える

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　品物を並べることと、考えや事情を述べること。「陳」には古いという意味もあり、陳腐などに使う。

（2）イ　自分の状態や事実などを、申し出て知らせること。内容や手続は、場面によって違う。

（3）ア　歌うことにも、考えを唱えることにも使う。主唱は、中心となって主張すること。

（4）ウ　「詠む」は詩歌の創作や朗詠。「読む」と同じ音でも、文脈に合う字を選ぶ。

（5）イ　謙虚はへりくだり、素直に受け止める態度。誇示は得意な点などを人に見せること。誇示した内容が必ず虚偽とは限らない。

（6）エ　もとは詩歌などを味わう意味に関わり、内容をよく調べて考えることにも使う。この回では言葉を吟味する。

四　熟語を広げよう

（1）伝言　（2）陳列　（3）陳腐　（4）申請　（5）訴訟

（6）合唱　（7）朗詠　（8）童謡　（9）談話　（10）日誌

（11）謀略　（12）瓶詰め　（13）謙遜　（14）絶叫

（2）は品物を並べること、（3）はありふれて新しさがないこと。（11）の「謀」は計画をめぐらす働き。（12）は「瓶詰め」と、送り仮名も含めて書く。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　「訴える」は日常の切実な働きかけにも、裁判に関わる行為にも使う。語が出ただけで訴訟を起こしたと決めない。

（2）ア　誇張は、実際より大きく表すこと。誇示は、得意な点を人に示すこと。誇示したというだけで、その内容がうそだとは決まらない。

（3）エ　意味は重なることもあるが、この文では自分の成果を控えめに述べる行為と、助言を受け止める姿勢に着目している。

（4）イ　注意や関心などを呼び起こすこと。「喚」に大声の意味があっても、この文が叫ぶ行為を述べているとは限らない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

皆が来たと誇張せず、集まった人数を確かめて記事に書いた。

☆自分で確かめる点　何を実際より大きく言いそうになり、どう伝えたかが分かるか。

（6）解答例

読み手に伝わる見出しにするため、取材した友人と相談した。

☆自分で確かめる点　単に話したことだけでなく、相談の目的が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）伝達　（2）陳述　（3）申告　（4）訴　（5）唱

（6）言語　（7）民謡　（8）対談　（9）記念誌　（10）参謀

（11）詰問　（12）誇示　（13）謙虚　（14）謹慎　（15）講評

（16）こくそ　（17）きょうせい　（18）しょうかん　（19）ぎんえい　（20）かよう

（4）は「訴えた」、（5）は「唱えた」とつながる。（6）は言葉を表す「言語」。（10）の参謀は、計画や作戦を立てる役。悪い計画を立てる人と決めつけない。

七　文章の中で考えよう

（1）吟味　自分の原稿の内容をよく確かめている。
（2）喚起　注意や関心などを呼び起こすこと。ここでは、読者の関心を引く働き。
（3）ウ　「陳述」は、自分の考えや事情などを述べること。ここでは、オオカミが村人に自分の思いを語っている。
（4）エ　陸が語った意図である。観客の感じ方や、人物の心が一つに決まったわけではない。

七　記述問題の考え方

（5）　最初の見出しを改めた理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

大声で勝利を訴えたとする見出しでは、美空が最も気になった、最後に声を落として話す場面の印象が伝わらないから。

（5）別解例　54 字

最初の見出しは大声と勝利に注目しており、美空が心を引かれた、相手に小さな声で語る場面を取り上げていないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めの見出しが大声や勝利を強調したことを示したか。
② 最後に小さな声で語った場面に触れたか。
③ 美空が伝えたい印象と見出しのずれを説明したか。

見出しが文法的に誤っていたのではない。取材者が何を伝えたいかという目的との関係で読む。

（6）　役者の意図と自分の読みを分けた記事 70〜90 字

（6）解答例　88 字

最後に声を落とした理由を、陸さんは「話を聞いてもらえた感じにしたかった」と語った。私はその場面で、オオカミが村人の方を初めて向いたように感じ、相手と話そうとする姿が心に残った。

（6）別解例　88 字

陸さんは、勝利より話を聞いてもらえた感じを出したくて、最後の声を小さくしたと話した。私には、その声が寂しさも含んで聞こえた。意図を知ったうえで、ほかの人の読み方も聞いてみたい。

☆（6）自分で確かめる点

① 最後に声を小さくした場面を取り上げたか。
② 陸が話した意図だと分かるように書いたか。
③ 自分の受け取り方は「私は」「感じた」などで区別したか。

自分の読みは別でもよい。本文の場面を根拠にし、観客全員の感じ方とは決めない。

漢字から文章へ 第二冊

第六回

変化と改まり

映画館が、小さくなりました。
席は減ったのに、久しぶりに来られた人もいるようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

増	減	盛	衰
増える 増やす	減る 減らす	盛ん 高く盛る	衰える 弱くなる

拡	縮	改	革
広げる 広がる	縮む 小さくする	変える 直す	大きく改める 皮

いっしょに覚える漢字

化	旧	新	長	短	広
狭	遅	速	降	換	枯

この回で読むお話

小さくなった映画館

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
増	ゾウ ふえる ます	増える／増やす 増加・増減・増幅	拡	カク	広げる／広がる 拡大・拡張・拡散
減	ゲン へる へらす	減る／減らす 減少・削減・軽減	縮	シュク ちぢむ	縮む／小さくする 縮小・短縮・収縮
盛	セイ ジョウ もる	盛んになる／高く盛る 盛況・繁盛・全盛	改	カイ あらためる	変える／直す 改善・改正・改良
衰	スイ おとろえる	衰える／弱くなる 衰退・衰弱・盛衰	革	カク かわ	大きく改める／動物の皮 改革・革新・革製

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
化	カ ケ ばける	変わる／変える 変化・文化・化粧	狭	キョウ せまい	狭い／限られる 狭い・狭小・広狭
旧	キュウ	古い／以前の 旧式・旧友・新旧	遅	チ おそい おくれる	遅い／遅れる 遅刻・遅延・遅速
新	シン あたらしい	新しい／新しくする 新しい・一新・新旧	速	ソク はやい	速い／速める 速度・迅速・加速
長	チョウ ながい	長い／優れた点 成長・長所・長期	降	コウ ふる おりる	降りる／下がる／降る 降下・下降・降雨
短	タン みじかい	短い／足りない点 短縮・短所・短期	換	カン かえる	取り替える／入れ替わる 交換・変換・転換
広	コウ ひろい	広い／広げる 広大・広場・広報	枯	コ かれる	枯れる／尽きる 枯れる・枯渇・枯木

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「増減」が表すこととして適切なのはどれですか。
ア　新しくすることだけ　　イ　古くなることだけ
ウ　増えることと減ること　　エ　速度を上げることだけ

(2)「盛衰」が表すこととして適切なのはどれですか。
ア　栄えることと衰えること　　イ　近づくことと離れること
ウ　広げることと縮めること　　エ　古い物と新しい物

(3)「拡張」と「縮小」の説明として適切なのはどれですか。
ア　どちらも、数を数え直す　　イ　前者は減らし、後者は増やす
ウ　どちらも、速く進める　　エ　前者は広げ、後者は小さくする

(4)「改良」と「改革」に共通する働きはどれですか。
ア　名前だけを残す　　イ　変えたり直したりする
ウ　古い形を必ず捨てる　　エ　全てを小さくする

(5)「長所」と「短所」は、何に着目していますか。
ア　時間の長さだけ　　イ　形の広さだけ
ウ　優れた点と足りない点　　エ　時期の新しさだけ

(6)「交換」と「枯渇」の説明として適切なのはどれですか。
ア　前者は取り替え、後者は尽きること　　イ　前者は遅れ、後者は速くなること
ウ　どちらも、古い物を飾ること　　エ　どちらも、植物を育てること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　革新　短所　増減　交換　変化　収縮　全盛
改善　旧式　削減　狭小　新旧　衰退　拡大

文	解答	文	解答
(1) 人数が増えた月と減った月の記録を比べ、□□を調べた。		(8) 今までにない技術を生む□□に取り組んだ。	
(2) 不要な印刷をやめ、紙の使用量の□□を図った。		(9) 季節が進むと、景色に□□が見られた。	
(3) その作家が最も活躍した□□の時代の作品を読む。		(10) 古い物と新しい物を並べ、□□を比べた。	
(4) 町の産業は勢いを失い、徐々に□□した。		(11) □□な土地でも使える建物の間取りを考えた。	
(5) 展示する区域を、隣の部屋まで□□した。		(12) 音が大きいという□□を直す方法を考えた。	
(6) 伸ばしたゴムが戻るときの□□の様子を観察した。		(13) 使えない部品を外し、新しい部品と□□した。	
(7) 使いにくい部分を直し、操作性の□□を図った。		(14) 古い形式の機械を、□□の機械と呼んだ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「増加」と「拡大」は、この文で何に着目していますか。

配る冊数が増加し、配布する地域も拡大した。

ア　前者は地域、後者は冊数。
イ　前者は冊数の多さ、後者は地域の広がり。
ウ　どちらも、読む速度。
エ　どちらも、本の発行時刻。

（2）「改善」と「改革」の説明として、この文脈に合うものを選びなさい。

受付の説明を改善した。さらに、担当を固定する制度自体の改革も提案した。

ア　担当を交代させることを、説明の改善と呼んでいる。
イ　制度の変更は実施済みで、その結果を説明に反映した。
ウ　説明と制度の両方を、現状のまま維持しようとしている。
エ　説明の直し方と、担当制度の変え方に着目している。

（3）「新旧」と「長短」の捉え方として適切なものを選びなさい。

新旧の道具には、それぞれ長所と短所があった。

ア　古い道具にも、新しい道具にも、よい点と足りない点がある。
イ　新しい物はよい点だけ、古い物は足りない点だけを持つ。
ウ　長所と短所は、道具の縦の長さだけを表す。
エ　新旧を比べるときは、使う目的を考えなくてよい。

（4）「速い」と「早い」の使い方として適切なものを選びなさい。

前より速く走れるが、朝は早い時刻に出発して余裕を持つ。

ア　どちらも、出発する時刻だけを表す。
イ　どちらも、走る速度だけを表す。
ウ　前者は動きの速度、後者は時刻に着目している。
エ　二語は音が同じなので、どちらを使っても同じだ。

（5）「改める」を使い、何をどんな理由で変えたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「長所」を使い、何に使うときに役立つ特徴かを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 作業に必要な人数が**ゾウカ**した。	
(2) 失敗の回数が**ゲンショウ**した。	
(3) 催しは大変な**セイキョウ**だった。	
(4) 商店の**ハンジョウ**を願った。	
(5) 長い病気で体が**スイジャク**した。	
(6) 規模の**シュクショウ**を決めた。	
(7) 対象となる地域を**カクチョウ**した。	
(8) 待ち時間を**タンシュク**した。	
(9) 道具の使いやすさを**カイリョウ**した。	
(10) 制度の**カイカク**に取り組んだ。	
(11) 入力したひらがなを、漢字に**ヘンカン**した。	
(12) 商品の知らせを**コウホウ**に載せた。	
(13) 電車の**チエン**を知らせた。	
(14) 場面の変化に**ジンソク**に対応した。	
(15) 飛行機がゆっくり**コウカ**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 文化	(17) 旧友	(18) 長期	(19) 広狭	(20) 降雨

この回を終えたら もう一度確かめる

増えたものと減ったものを、同じ一つの評価にまとめていませんか。
変化した対象と、その目的や残る課題を確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

小さくなった映画館

「ずいぶん小さくなったな。」祖父は、新しい映画館の入口で立ち止まった。旧館は二階に百五十席。上映後、階段を降りる人が長い列を作った。今の館は一階で、席は六十。通路は広くなったが、スクリーンも小さい。

私は町の新聞に記事を書くため、館長から新旧の記録を借りた。移転前後の、同じ季節の通常営業の一週間を比べている。紙の端には、昔の館名の印が、薄く残っていた。

映画館の一週間の記録

項目	旧館	今の館
座席数	150 席	60 席
上映回数	12 回	6 回
入場した延べ人数	360 人	300 人
1 回当たりの平均人数	30 人	50 人

「客が増えたんですね。」
平均を見て言うと、館長はうなずきかけて、別の欄を指した。
「一回ではね。一週間全体では減っている。」

減少した上映回数と、増加した一回の人数を同じことにはできない。盛況な一回があっても、館の盛衰をそれだけで決められなかった。私は「客が増えた」と書いた横に、「一回の平均は」と付け足した。

資金の枯渇を避けるため、館長は規模の縮小を決めたという。遅い時間の上映を減らし、運営する人数も見直す改革だ。一方で、車いすの人の場所を広く取り、狭かった入口も改めた。来られる人の範囲を拡大したいと話してくれた。

「昔の大きな画面は長所だったな。」祖父はそう言ってから、隣で車いすを使う友人が入場するのを見て、少し笑った。友人は何年も旧館に来ていなかった。座席や画面を一新した話より、二人が一緒に席を選ぶ様子を書きたくなった。

短所が消えたわけではない。夜の上映がなくなり、仕事帰りには来にくいという手紙も届く。変化の速さについていけない人もいるだろう。館長は時間帯を交換する案も考えているが、実行はまだだ。私の記事にも、そのことを残しておこう。

帰り際、祖父は財布から古い半券を見せてくれた。「これは取っておく。」今の半券と、紙の色も文字も違う。変わったものを紹介する記事に、この半券も添えたい。私は祖父たちを先に見送り、小さくなった館の入口を、もう少し眺めることにした。

映画館と数値は本教材のための設定です。人数は一回ごとに数えた延べ人数です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と一週間の記録を根拠にして答えなさい。

（1）栄えることと衰えることを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）資金などが尽きる「コカツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「一新」の意味として、適切なものを選びなさい。

ア　全ての古い記録を消すこと。
イ　新しい物は必ずよいとすること。
ウ　以前と同じ形のまま保存すること。
エ　すっかり新しくすること。

（4）表から言えることとして、適切なものを選びなさい。

ア　一週間の延べ人数も、一回の平均人数も増えた。
イ　一週間の延べ人数は減ったが、一回の平均人数は増えた。
ウ　一回の平均人数が増えたので、売上げも必ず増えた。
エ　同じ人が来ているので、来場者の範囲は変わらない。

（5）祖父が「昔の大きな画面は長所だった」と言ったあと、友人を見て笑った様子をどう読みますか。二つの館の違いを踏まえ、45〜55 字で書きなさい。

（6）町の新聞に載せる紹介文を、「縮小」「拡大」を使って 70〜90 字で書きなさい。変えた規模と、目指すことを区別し、残る課題にも触れます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第六回　変化と改まり

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　数や量が増えることと減ること。何が、いつと比べて変わったかを確かめる。

（2）ア　盛んになることと衰えること。「盛」には物を高く盛る働きもあるが、この熟語では勢いに着目する。

（3）エ　何の範囲や規模が変わるかに着目する。拡張はよく、縮小は悪いと一律には決められない。

（4）イ　今あるものを改める働きに関わる。どこを、何のために変えるかは文脈で確かめる。

（5）ウ　長さや短さの字を使うが、ここでは特徴のよい点と足りない点に着目している。

（6）ア　「換」は取り替えること。「枯渇」は水や資金などが尽きることにも使う。植物の見た目だけの話ではない。

四　熟語を広げよう

（1）増減　（2）削減　（3）全盛　（4）衰退　（5）拡大

（6）収縮　（7）改善　（8）革新　（9）変化　（10）新旧

（11）狭小　（12）短所　（13）交換　（14）旧式

（2）削減は、必要でない分などを削って減らすこと。（6）収縮は縮まること、（8）革新は古い仕組みなどを新しく改めること。（11）狭小は、狭く小さいことを表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　この文では、数と範囲に着目して使い分けている。二語は「規模が増す」など、近い働きをする場面もある。

（2）エ　この文では説明の改善と制度の改革を別々の対象としている。小さい変更は必ず改善、大きい変更は必ず改革という数値的な境界があるわけではない。

（3）ア　作られた時期と、目的に合う特徴は分けて確かめる。何に使うかによって、長所となる点も変わりうる。

（4）ウ　この文では、速度が大きいことと、時刻が早いことを分けている。速く走ることと、早く到着することは、条件によって関わるが同じ意味ではない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

初めての人にも伝わるよう、専門用語の多かった案内文を改めた。

☆自分で確かめる点　変えた対象と、変える目的が分かるか。

（6）解答例

軽くて持ち運びやすい長所を生かし、見学には小さな辞書を選んだ。

☆自分で確かめる点　よい点だけでなく、用途とのつながりが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）増加　（2）減少　（3）盛況　（4）繁盛　（5）衰弱

（6）縮小　（7）拡張　（8）短縮　（9）改良　（10）改革

（11）変換　（12）広報　（13）遅延　（14）迅速　（15）降下

（16）ぶんか　（17）きゅうゆう　（18）ちょうき　（19）こうきょう　（20）こうう

（4）は「はんじょう」。「盛」は語によって読みが違う。（5）衰弱は、体や勢いが衰えて弱くなること。（11）は、文字の表し方を別の形に変えている。

七　文章の中で考えよう

（1）盛衰　館が栄えることと衰えること。客数の一つの値だけでは、館の状況全体は捉えきれない。
（2）枯渇　水がなくなる場合だけでなく、資金などが尽きる場合にも使う。
（3）エ　以前のものを、すっかり新しくすること。必ずよくなったという評価まで含めて決めない。
（4）イ　延べ人数は 360 人から 300 人、平均は 30 人から 50 人。料金や費用の記録はなく、売上げの増減は表だけでは分からない。

七　記述問題の考え方

（5）　祖父が友人を見て笑った気持ち 45〜55 字

（5）解答例　54 字

旧館の大きな画面を惜しみつつ、一階で入口も広くなった今の館に、久しぶりに友人と来られることを喜んだと読める。

（5）別解例　54 字

大きな画面が小さくなった寂しさはあっても、車いすの友人が入りやすくなり、一緒に映画を見られるうれしさもある。

☆（5）自分で確かめる点

① 旧館の大きな画面をよい点としていたことに触れたか。
② 今の館に友人が入場できたことを根拠にしたか。
③ 古さや新しさだけで一方を否定しない読みになっているか。

笑った理由を一つに固定する必要はない。友人の入場を見た行動や、旧館には何年も来ていなかった事実を根拠にする。

（6）　規模と目指すことを分けた紹介文 70〜90 字

（6）解答例　88 字

映画館は規模を縮小し、上映回数や座席を減らした。一方、一階へ移り入口を広くして、来られる人の範囲の拡大を目指す。車いすの友人と来られた人もいるが、夜に来たい人への対応は課題だ。

（6）別解例　88 字

新しい映画館は、資金が尽きないよう規模を縮小した。入口や通路を広くし、利用できる人の範囲の拡大を図っている。ただし夜の上映がなくなり、仕事帰りの人には来にくいという課題が残る。

☆（6）自分で確かめる点

①「縮小」「拡大」を使い、それぞれ何の変化かを示したか。
② 来られる人の範囲の拡大は目標であり、全員が来やすくなったと断定しないか。
③ 夜に来たい人や仕事帰りの人への課題に触れたか。

一回の平均人数や週の延べ人数を加えてもよい。数を入れるなら、何を数えた値かを明らかにする。

漢字から文章へ 第二冊

第七回

進む・導く

帰りも、同じバスで戻れるでしょうか。
地図の矢印を、もう一度たどってみましょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

導	誘	迎	迫
方向を示す	誘う 引き入れる	来る人を迎える	強く近づく

到	越	遣	赴
目的地に届く	境を越える	行かせる 気を配る	目的の場所へ向かう

いっしょに覚える漢字

運	送	追	戻	返	通
往	復	輸	航	巡	渡

この回で読むお話

帰りの矢印

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
導	ドウ みちびく	進む方向を示す／導く 指導・誘導・導入	到	トウ	目的地や段階に届く 到着・到達・到来
誘	ユウ さそう	誘う／ある方向へ引き入れる 誘導・勧誘・誘惑	越	エツ こえる こす	境などを越える 越境・超越・引越し
迎	ゲイ むかえる	来る人などを迎える 歓迎・送迎・迎春	遣	ケン つかう つかわす	人を行かせる／気を配る 派遣・気遣い・遣う
迫	ハク せまる	迫る／強く近づく 緊迫・迫力・圧迫	赴	フ おもむく	目的の場所へ向かう 赴く・赴任

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
運	ウン はこぶ	運ぶ／動く／巡り合わせ 運送・運動・幸運	往	オウ	行く／過ぎ去った時 往路・往復・往年
送	ソウ おくる	人や物を先へ送る 送迎・送信・輸送	復	フク	元に戻る／繰り返す 復路・回復・復習
追	ツイ おう	後を追う／求め続ける 追跡・追求・追加	輸	ユ	物を運ぶ／外へ送る 輸送・輸出・輸入
戻	レイ もどる もどす	元の場所や状態に戻る 戻る・戻す・返戻	航	コウ	船や飛行機で進む 航路・航海・航空
返	ヘン かえす かえる	返す／元へ返る 返却・返事・返信	巡	ジュン めぐる	順に回る／巡る 巡回・一巡・巡る
通	ツウ とおる かよう	通る／通じる／通う 通行・交通・通学	渡	ト わたる わたす	向こう側へ渡る／渡す 渡船・渡航・譲渡

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「誘導」の二字の働きとして適切なのはどれですか。
ア　誘い、進む方向を示す　　イ　迎えてから送り返す
ウ　先を争って追い越す　　エ　通った道を引き返す

(2)「送迎」は、どの二つの動きをまとめた語ですか。
ア　到着と出発を禁止する　　イ　行き帰りを一人で歩く
ウ　人を送り、迎える　　エ　同じ所を何度も巡る

(3)「緊迫」の「迫」に近い働きはどれですか。
ア　古い物を返す　　イ　強く近づき、差し迫る
ウ　遠くへ荷物を運ぶ　　エ　道を順に回る

(4)「到達」は、場所のほかにどんな対象に使えますか。
ア　荷物の置き場所だけ　　イ　戻るための道だけ
ウ　船が進む海だけ　　エ　目標やある段階にも使う

(5)「派遣」の説明として適切なのはどれですか。
ア　必要な場所へ人を行かせる　　イ　元の持ち主へ物を返す
ウ　物資を国外から運び入れる　　エ　予定より早く到着する

(6)「往路」と「復路」は何に着目した語ですか。
ア　荷物の重さの違い　　イ　乗り物の速さの違い
ウ　行く道と帰る道　　エ　出発する季節の違い

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　歓迎　到達　巡回　運動　渡航　誘導　赴任
迫力　越境　勧誘　輸送　送迎　到着　緊迫

文	解答	文	解答
(1) 初めての人を、案内係が出口まで□□した。		(8) 練習を重ね、目標の記録に□□した。	
(2) 新しい会員を集める□□の知らせを配った。		(9) 国の境を越える□□の手続きを調べた。	
(3) 遠くから来た客を喜び、心から□□した。		(10) 体を動かす□□を、毎朝の習慣にしている。	
(4) 車で駅まで送り迎えする□□の担当を決めた。		(11) 新しい任地へ向かう□□の日が決まった。	
(5) 対立が深まり、会場には□□した空気が漂った。		(12) 船で海外へ向かう□□の準備を進めた。	
(6) 目の前で聞く太鼓の音に強い□□を感じた。		(13) 荷物を鉄道で運ぶ□□の計画を立てた。	
(7) 列車が目的の駅に□□した。		(14) 係員が順に見て回る□□を続けた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この文の「誘う」と「導く」の働きに合うものを選びなさい。

友人を見学に誘い、来た友人を展示室へ導いた。

ア　前者も後者も、見学を断るよう求める。
イ　前者は参加を促し、後者は行く方向を示す。
ウ　前者は場所を示し、後者は参加を促す。
エ　前者も後者も、展示の感想を述べる。

（2）「迎える」と「送る」の向きを、誰から見て捉えていますか。

駅の係員は客を迎え、出発する列車を見送った。

ア　客が係員を迎え、列車が係員を送る。
イ　どちらも、係員が列車に乗る動きだ。
ウ　どちらも、客が駅を出ていく動きだ。
エ　係員が来た客を受け入れ、出る列車を見送る。

（3）「到着」と「到達」の使い方として適切なものを選びなさい。

山小屋に到着した。次の訓練では、目標の水準への到達を目指す。

ア　前者は場所、後者は目標の水準に着くこと。
イ　前者は目標の水準、後者は場所に着くこと。
ウ　どちらも、山小屋を出発すること。
エ　どちらも、帰る道を探すこと。

（4）この「迫る」の意味に最も近いものを選びなさい。

出発の時刻が迫り、まだ終わらない荷造りを急いだ。

ア　出発する場所が、遠くなった。
イ　列車が予定より遅くなった。
ウ　出発までに残る時間が、短くなった。
エ　荷物の量が、予定より減った。

（5）「往復」を使い、行きと帰りの経路について一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「導く」を使い、誰をどこへ導いたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 先生の**シドウ**を受け、道具の使い方を学んだ。	
(2) 遊びの**ユウワク**に負けず、宿題を終えた。	
(3) 正月の**ゲイシュン**の飾りを、店先に掛けた。	
(4) 連絡のメールを**ソウシン**した。	
(5) 期限が近づき、事態は**セッパク**していた。	
(6) 強く押し付けられ、胸が**アッパク**される感じがした。	
(7) 暖かな春の**トウライ**を待つ。	
(8) 国や世代の違いを**チョウエツ**して親しまれる作品だ。	
(9) 慣れない場所に来た人への**キヅカ**いを忘れない。	
(10) 仕事のため、新しい支店へ**オモム**く。	
(11) 道を間違えたので、入口まで**モド**って確かめた。	
(12) 残された足跡をたどり、動きを**ツイセキ**した。	
(13) 飛行機を使う**コウクウ**輸送について調べた。	
(14) 道路の工事中は、車の**ツウコウ**を止めた。	
(15) 借りていた道具の**ヘンキャク**日を確かめた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 巡礼	(17) 越冬	(18) 往路	(19) 復路	(20) 渡船

この回を終えたら もう一度確かめる

進む向きと、誰を基準にした動きかを確かめましょう。
行きの案内を、そのまま帰りにも使えるでしょうか。

七　文章の中で考えよう

帰りの矢印

旅行者の腕時計を見て、真帆は地図へ伸ばした手を止めた。午後二時十分。「三時の船で帰ります。港へは、バスで戻れますか。」港へ到着する期限は、二時五十分だ。

真帆は島の資料館で、案内の仕事を体験していた。本土の案内所から派遣された先輩に導かれて、この島へ赴いた。入口には港から来る道を描き、来館者を迎える。往路のバスが十分だったことは、よく覚えていた。

「もちろん」と返事をしかけ、時刻表の次の便を見た。紙の端は風で丸まり、文鎮の下から少しずれていた。真帆はそれを押さえ直した。

巡回バスの時刻表

停留所と発着	一つ前の便	次の便
港 発	13 時 50 分	14 時 20 分
資料館 発	14 時 00 分	14 時 30 分
灯台 発	14 時 10 分	14 時 40 分
港 着	14 時 25 分	14 時 55 分

先輩が、地図の小さな矢印を指した。バスは港、資料館、灯台、港の順に巡り、逆向きには走らない。資料館から港への復路は二十五分だ。しかも、次の便まで二十分待つ。真帆は、指で資料館から先をたどった。港着は二時五十五分になる。

「港まで二十五分です」だけでは、足りなかった。

歩道の案内図には、徒歩二十五分とある。低い坂を一つ越える道だ。真帆が歩けるか尋ねると、旅行者は「ええ。荷物も軽いし」と答えた。今出れば、二時三十五分ごろに着く。真帆は港へ通じる道を、別の紙に写した。

外には、灯台見学へ誘う看板があった。旅行者はそちらを少し見たが、船の時間が迫っていることを確かめ、今日は港へ向かうと決めた。真帆は道順の紙を渡し、港の窓口にも到着予定を伝えた。気遣いのつもりで何でも勧めると、かえって迷わせることもある。

旅行者を送って展示室へ戻ると、昔の航路と、島の物を本土へ運ぶ輸送の写真が目に入った。海を渡る船には、今日も出発を待つ人がいる。真帆は地図を追った。行きに描いた太い線は残し、帰りの矢印の横に、待つ時間も書き足した。

島・時刻・所要時間は本教材のための設定です。バスは時刻表どおりに走り、歩道は利用できるものとします。

七　文章の中で考えよう 問い

本文・時刻表・乗船に必要な到着時刻を根拠にして答えなさい。

（1）人を役割のために行かせることを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）船が通る道を表す「コウロ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「復路」の意味として適切なものを選びなさい。

ア　バスを修理するための道。
イ　資料館から港へ帰る道。
ウ　港から資料館へ行く道。
エ　船で本土へ渡る航路。

（4）旅行者が次のバスに乗る場合、本文の条件から何が言えますか。

ア　14 時 35 分に港に着き、乗船の時刻に間に合う。
イ　港から資料館まで 10 分なので、逆向きも 10 分で着く。
ウ　14 時 55 分に着き、14 時 50 分までという条件に間に合わない。
エ　14 時 30 分に資料館を出るので、港にも同じ時刻に着く。

（5）「港まで二十五分です」だけでは、案内が足りないのはなぜですか。待ち時間と必要な到着時刻を含め、45〜55 字で説明しなさい。

（6）あなたが真帆なら、旅行者にどう案内しますか。「到着」「徒歩」を使い、二つの移動手段と相手への確認を含め、70〜90 字で書きなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第七回　進む・導く

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　人や物をある方向へ導くこと。「誘」は誘い入れ、「導」は進む方向を示す。

（2）ウ　送ることと迎えることをまとめた語。誰が、誰を、どこへ送迎するかは文で確かめる。

（3）イ　危険や対立などが差し迫り、張りつめた状況に関わる。単に距離が短いだけではない。

（4）エ　場所に限らず、目標の水準や段階に届く場合にも使う。「到着」と重なる場面もある。

（5）ア　用事や役割のために人を行かせること。物を運ぶ輸送とは、ここで着目する対象が違う。

（6）ウ　目的地へ行く道と、そこから帰る道。往復でも、同じ経路を通れるとは限らない。

四　熟語を広げよう

（1）誘導　（2）勧誘　（3）歓迎　（4）送迎　（5）緊迫

（6）迫力　（7）到着　（8）到達　（9）越境　（10）運動

（11）赴任　（12）渡航　（13）輸送　（14）巡回

（1）は進む方向を示すこと、（2）は入会などを勧めて誘うこと。（7）は駅に着くこと、（8）は目標の記録に届くこと。（10）は体を動かすこと、（12）は外国へ渡ることを表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　この文では、誘うのは参加してもらうため、導くのは来た人に行く方向を示すため。「導く」は考え方などにも使う。

（2）エ　係員を基準に、来る客と出ていく列車を捉える。送るは荷物を発送する場合などにも使う。

（3）ア　この文では、具体的な場所に着くことと、目標の水準に達することを分けている。到達は目的地に着くことにも使える。

（4）ウ　ここでは時間が差し迫ること。「近づく」と意味が重なるが、残り時間を意識した切迫感も表れている。

五　自分で書く問題

（5）解答例

海辺の道を往復し、帰りには行きと違う色の空を見た。

☆自分で確かめる点　行きと帰りの両方があることが分かるか。経路は違ってもよい。

（6）解答例

入口で迷っていた来場者を、受付のある二階へ導いた。

☆自分で確かめる点　導く人、導かれる人、進む先の関係が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）指導　（2）誘惑　（3）迎春　（4）送信　（5）切迫

（6）圧迫　（7）到来　（8）超越　（9）気遣　（10）赴

（11）戻　（12）追跡　（13）航空　（14）通行　（15）返却

（16）じゅんれい　（17）えっとう　（18）おうろ　（19）ふくろ　（20）とせん

（9）は「気遣い」、（10）は「赴く」、（11）は「戻って」とつながる。（17）越冬は冬を越すこと。（20）渡船は、人や物を向こう岸などへ渡す船を表す。

七　文章の中で考えよう

（1）派遣　先輩が本土の案内所から行かされたこと。真帆自身の体験とは分けて読む。

（2）航路　船が通る道。バスが走る経路とは区別する。

（3）イ　ここでは資料館から港へ帰る道。往路と同じ道を逆に走るわけではない。
（4）ウ　資料館を 14 時 30 分に出て、港には 14 時 55 分着。船の出発 15 時ではなく、港に着く期限 14 時 50 分と比べる。

七　記述問題の考え方

（5）　待つ時間も含めた案内 45〜55 字

（5）解答例　54 字

次の便まで二十分待ち、港への到着は二時五十五分になるため、二時五十分までに着く必要があることを伝えていない。

（5）別解例　51 字

二十五分は乗っている時間だけで、次の便までの二十分を含まず、必要な二時五十分の到着に間に合わないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 二十五分は、バスに乗っている時間だと捉えたか。
② 次の便まで二十分待つことを含めたか。
③ 港に着く期限の二時五十分と結びつけたか。

「三時の船だから間に合う」としない。乗船に必要な到着時刻と、船の出発時刻は異なる。

（6）　条件を確かめて伝える案内 70〜90 字

（6）解答例　85 字

次のバスでは到着が二時五十五分になり、二時五十分の期限に間に合いません。徒歩なら今出て二時三十五分ごろに着きますが、途中に低い坂があります。二十五分歩くことはできますか。

（6）別解例　84 字

次のバスは二時三十分発で、港への到着は二時五十五分です。必要な時刻に間に合いません。徒歩では今から二十五分です。低い坂も越えますが、この道を歩いて行くことはできますか。

☆（6）自分で確かめる点

① バスの到着が乗船の条件に間に合わないと伝えたか。
② 徒歩なら二十五分で着くことを示したか。
③ 歩くことができるかを、相手に確かめる形にしたか。

道順を詳しく書く必要はない。本文の所要時間と道の様子をもとに、歩けるかを相手に確認する。

漢字から文章へ 第二冊

第八回

受ける・与える

同じ舞台に並ぶ楽器にも、違う来歴があります。
借りた音と、贈られた音に、耳を澄ませてみましょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

授	受	賜	供
教えや役目を与える	受け取る	いただいたもの	差し出す 供える

給	貸	借	預
必要な物を与える	後で返してもらう	後で返す前提で使う	任せる 引き受ける

いっしょに覚える漢字

配	贈	貢	献	奉	納
収	益	損	得	負	担

この回で読むお話

借りものの音

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
授	ジュ さずける さずかる	教えや役目などを与える 授業・授与・授かる	給	キュウ	必要なものを与える 支給・補給・給食
受	ジュ うける うかる	受け取る／受け止める 受賞・受信・受験	貸	タイ かす	後で返してもらう前提で渡す 貸出・貸与・賃貸
賜	シ たまわる	いただく／いただいたもの 賜る・賜物・賜杯	借	シャク かりる	後で返す前提で使う 借用・借金・貸借
供	キョウ ク そなえる	差し出す／供える 提供・供給・供養	預	ヨ あずける あずかる	一時的に任せる／引き受ける 預金・預託・預かる

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
配	ハイ くばる	配る／分けて置く 配布・配達・配置	収	シュウ おさめる おさまる	集める／取り入れる 収入・収益・回収
贈	ゾウ おくる	人に物などを贈る 寄贈・贈答・贈呈	益	エキ ヤク	役に立つ／もうけ 利益・有益・損益
貢	コウ ク みつぐ	差し出す／役立つ力を尽くす 貢献・年貢・貢ぐ	損	ソン そこなう そこねる	失う／傷つける 損失・破損・損害
献	ケン コン	差し出す／力を尽くす 献身・献立・貢献	得	トク える うる	手に入れる／できる 取得・所得・得意
奉	ホウ たてまつる	慎んで差し上げる／尽くす 奉納・奉仕・奉公	負	フ おう まける	背負う／引き受ける／負ける 負担・負傷・勝負
納	ノウ おさめる おさまる	中へ入れる／納める 納入・収納・奉納	担	タン かつぐ になう	担ぐ／役目を引き受ける 担当・分担・負担

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1) 賞を渡す側と受ける側の語として、適切な組合せはどれですか。
ア　渡す側は受賞、受ける側は授与　　イ　どちらの側も受賞
ウ　どちらの側も借用　　エ　渡す側は授与、受ける側は受賞

(2) 「賜物」の説明として適切なのはどれですか。
ア　返す日を過ぎた借り物　　イ　いただいた物や、よい結果として生じたもの
ウ　代金を分割して払う品物　　エ　使わずに捨てた物

(3) 「供給」の二字に共通する働きはどれですか。
ア　必要なものを差し出し、与える　　イ　壊れた物を元に戻す
ウ　借りた物を返す　　エ　余った物を捨てる

(4) 「貸借」の二字は、何をまとめていますか。
ア　受け取る人と受け取らない人　　イ　買うことと売ること
ウ　貸すことと借りること　　エ　捨てることと拾うこと

(5) 「寄贈」と「預かる」の説明として適切なのはどれですか。
ア　どちらも、必ず代金を取って渡す　　イ　前者は返却、後者は販売を表す
ウ　どちらも、壊れた品を直す　　エ　前者は贈り、後者は一時的に保管などを引き受ける

(6) 「負担」の二字から捉えられる働きはどれですか。
ア　贈り物を飾っておく　　イ　費用や役目などを引き受ける
ウ　相手から賞をもらう　　エ　貸した物を回収する

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　借用　授与　預金　供給　配布　回収　支給
寄贈　受賞　授業　補給　貸与　提供　受信

文	解答	文	解答
(1) 先生が生徒に教える□□が始まった。		(8) 活動に必要な交通費が参加者に□□された。	
(2) 功労者に表彰状を□□した。		(9) 足りなくなった水を途中の拠点で□□した。	
(3) 大会で賞を受け、初めての□□を喜んだ。		(10) 施設が利用者に道具を□□した。	
(4) 端末で電波を□□する場所を探した。		(11) 隣の教室から机を一日だけ□□した。	
(5) 会場の入口で、参加者に資料を一枚ずつ□□した。		(12) お金を銀行に□□した。	
(6) 会場として使えるよう部屋を□□した。		(13) 学校へ本を贈る□□の申し出があった。	
(7) 必要な水を各地区へ安定して□□する。		(14) 使い終えた用紙を集める□□箱を置いた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「授与」と「受賞」の関係に合うものを選びなさい。

主催者が賞を授与し、受賞した選手が感想を述べた。

ア　選手が主催者へ賞を貸した。
イ　主催者が選手から賞を受けた。
ウ　同じ賞のやりとりを、渡す側と受ける側から表す。
エ　選手が主催者から賞を借りた。

（2）この文で「貸す」と「預かる」を分ける点は何ですか。

受付は客の傘を預かった。別の客には、施設の傘を貸した。

ア　前者は保管を引き受け、後者は使わせて後で返してもらう。
イ　前者は売り、後者は買い取る。
ウ　前者は使う許可を与え、後者は保管を引き受ける。
エ　どちらの傘も、受付が自由に持ち帰れる。

（3）「提供」と「供給」の説明として、この文脈に合うものを選びなさい。

工場見学のための資料を提供し、工場では地域へ電力を供給した。

ア　資料は後で返し、電力は贈り物として保存する。
イ　資料と電力を、どちらも銀行に預ける。
ウ　前者は電力、後者は資料を差し出すこと。
エ　前者は資料を使えるようにし、後者は電力を送り出すこと。

（4）この「負担」の捉え方に合うものを選びなさい。

材料を寄贈してもらったが、運ぶ時間と費用の負担は残った。

ア　材料を無料で得たので、費用は一切かからない。
イ　材料を受け取ることと、運ぶための時間や費用は別に確かめる。
ウ　寄贈とは、受け取った材料を必ず返すことだ。
エ　負担は気持ちだけを表し、費用には使えない。

（5）「借りる」を使い、何をいつ返すかも分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「貢献」を使い、何をして何に役立ったかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 大学で植物を研究する**キョウジュ**に、話を聞いた。	
(2) 入学試験を**ジュケン**する。	
(3) 使った道具を、棚の中に**シュウノウ**した。	
(4) 先祖の**クヨウ**のため、寺を訪れた。	
(5) 昼休みに、教室で**キュウショク**を食べた。	
(6) 家主が家を貸す**チンタイ**の条件を確かめた。	
(7) 借りたお金である**シャッキン**を返した。	
(8) 大事な資料の管理を、専門の施設に**ヨタク**した。	
(9) 品物を贈り合う**ゾウトウ**の習慣を調べた。	
(10) 明日の食事の**コンダテ**を考えた。	
(11) 地域のために働く**ホウシ**活動に参加した。	
(12) 音楽会で得た**シュウエキ**の一部を、楽器の手入れに回した。	
(13) 品物が壊れたことによる**ソンシツ**を調べた。	
(14) 作業を円滑に進めるために**ブンタン**を決めた。	
(15) 競技中に腕を**フショウ**し、手当てを受けた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 賜る	(17) 献身	(18) 奉納	(19) 有益	(20) 破損

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ物の移動でも、誰が渡し、誰が受けるのでしょうか。
返す約束があるか、保管や費用を誰が引き受けるかも確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

借りものの音

古い木琴の板を一本たたくと、澄んだ音がした。音楽会の朝、透はばちを置き、楽器を運ぶ箱を探した。似たような箱が並ぶが、受け取った経緯は違うらしい。透は札の文字を読み比べた。

太鼓の箱に「寄贈」の札を貼ろうとして、先生に止められた。
「それは、借りた太鼓だよ。」

神社に奉納された古い品を、今回だけ貸してもらったのだという。先生は借用の期間を確かめ、「貸与・日曜に返却」と書いた。学校が預かっているからといって、別の人に贈れるわけではない。透は、運び出す前に札を読む役を担当した。

さっき鳴らした木琴は、演奏をやめた町の人からの寄贈だ。授業で使ってほしいという手紙がある。板のつやを見て、先生は「これは手入れの賜物だね」と言った。透は箱の底に布を敷いた。その人も何年もの間、この音を聞いていたのだろうか。

楽器店は予備のばちを提供し、修理用の部品も供給してくれた。楽譜を配る人、楽器を調べる人。音楽会への貢献には、いろいろな形がある。先生は燃料代を支給する封筒を用意し、車を出す人へ渡した。

奉仕だからと、誰か一人が準備を抱え続けるのは困る。運ぶ役も分け、負担が偏らないようにした。音楽会で得た収益の一部は、楽器の手入れに回すという。修理や運搬には費用がかかる。損失を大きくせずに続けるには、物が増えたあと、誰が世話を担うかも考えなければならない。

本番の前、木琴を贈った人が客席に来た。透は「前と同じ音がしますか」と聞いた。その人は首をかしげた。
「私がたたくと、いつも少し急いでいたな。」

昔の音のことを聞いたつもりだったが、返ってきたのは演奏していた人の思い出だった。透は少し笑い、木琴の前に座った。幕のすき間から、客席のその人が見える。最初の一音を、さっきよりゆっくり待った。

終演後、太鼓の箱を閉じて、返す日をもう一度確かめた。木琴の箱には、次に手入れする担当者の名を書く。贈り主はもう帰っていた。透の手には、まだばちを握った感触が残っていた。

音楽会・楽器の来歴・貸与の条件は本教材のための設定です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文で、手入れが生んだよい結果を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）何かを手に入れることを表す「シュトク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）太鼓について、本文に合う説明を選びなさい。

ア　学校が寄贈を受けたので、自由に人へ贈れる。
イ　神社へ売るために、一時的に保管している。
ウ　学校が使い終えたあと、木琴の贈り主へ返す。
エ　今回だけ借りており、日曜に返す予定である。

（4）木琴の贈り主の返事を、どう捉えるのが適切ですか。

ア　昔と同じ音かを断定せず、自分の演奏の思い出を話している。
イ　透の演奏が自分より遅いと批判している。
ウ　木琴は全く音が変わらないと証明している。
エ　寄贈をやめ、木琴をすぐ返すよう求めている。

（5）透は終演後、太鼓と木琴の箱で違うことを確かめています。その違いを、受け取った経緯と結びつけて 45〜55 字で説明しなさい。

（6）準備係への引継ぎを、「貸与」「寄贈」を使って 70〜90 字で書きなさい。楽器の区別と、その後の扱いや負担を含めます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第八回　受ける・与える

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　授与は賞などを授けること、受賞は賞を受けること。同じ出来事でも、どちらの側から見るかが異なる。

（2）イ　「努力の賜物」のように、ある働きによって得られたよい結果にも使う。必ず誰かから手渡された品物とは限らない。

（3）ア　必要な物を相手へ送り出し、使えるようにすることに関わる。電力や食料などにも使う。

（4）ウ　貸す側と借りる側の動きをまとめた語。同じ本でも、所有者が貸し、利用者が借りる。

（5）エ　寄贈は学校や施設などへ品物を贈ること。預かることだけで、その物が自分の所有物になるわけではない。

（6）イ　費用や仕事などを背負い、引き受けること。気持ちの重さを表す場合もある。

四　熟語を広げよう

（1）授業　（2）授与　（3）受賞　（4）受信　（5）配布

（6）提供　（7）供給　（8）支給　（9）補給　（10）貸与

（11）借用　（12）預金　（13）寄贈　（14）回収

（5）は資料を配ること。（10）は施設が貸す側、（11）は机を借りる側。（6）は使えるように差し出すこと、（7）は必要な水を送り出すことに着目している。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　主催者が授け、選手が受ける。同じ出来事を、立場を変えて捉えている。

（2）ア　ここでは保管するための預かりと、使わせるための貸出を分ける。借りた物も大切に扱う必要はあるが、二語の焦点は同じではない。

（3）エ　この文では対象と目的に着目する。「供給」は必ず有料、「提供」は必ず無料と決まるわけではない。

（4）イ　材料を得るほかに、運ぶ人の時間や費用も考えている。負担はお金だけとは限らない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

週末の観察のために双眼鏡を借りるので、月曜日に返す。

☆自分で確かめる点　借りる物と返す予定が分かるか。

（6）解答例

古い写真に写る人を調べ、町の記録を残す活動に貢献した。

☆自分で確かめる点　具体的な働きと、それが役立つ対象を結びつけたか。

六　短文で使ってみよう

（1）教授　（2）受験　（3）収納　（4）供養　（5）給食

（6）賃貸　（7）借金　（8）預託　（9）贈答　（10）献立

（11）奉仕　（12）収益　（13）損失　（14）分担　（15）負傷

（16）たまわる　（17）けんしん　（18）ほうのう　（19）ゆうえき　（20）はそん

（1）は大学などで教え、研究する人の職名としての「教授」。（3）収納は中へ入れて納めること。

（8）預託は、管理などを人や機関に任せること。（16）賜るは、ここでは改まっていただくこと。

七　文章の中で考えよう

（1）賜物　ここでは手入れを続けたことが生んだ、よい結果を表す。音のよさを、物の新しさだけで捉えていない。

（2）取得　物や資格などを手に入れること。「得」は本文の「得た収益」にも使われ、手に入れる働きを表す。

（3）エ　太鼓の札には「貸与・日曜に返却」とある。寄贈された木琴との区別が必要。

（4）ア　「前と同じ音」という質問に、演奏していた自分の速さを思い出して答えた。透への批判や寄贈の取消しとは読めない。

七　記述問題の考え方

（5）　受け取り方に合う扱い 45〜55 字

（5）解答例　53 字

太鼓は今回だけ借りた品なので返す日を確かめ、寄贈された木琴は学校で使い続けるため、手入れの担当者を記した。

（5）別解例　52 字

貸してもらった太鼓には返却の約束があり、贈られた木琴は学校で使う品なので、次に手入れする人の名を書いた。

☆（5）自分で確かめる点

① 太鼓は借りた品、木琴は寄贈された品だと区別したか。

② 太鼓の返却日と、木琴の手入れの担当者を対応させたか。

③ 太鼓の保管を、学校の所有だと取り違えていないか。

木琴の手入れまで、贈り主が引き受けると決めない。本文では、次の担当者を学校側で記している。

（6）　次の準備係への引継ぎ 70〜90 字

（6）解答例　87 字

太鼓は貸与された品なので、日曜に返す約束を確認してください。木琴は寄贈された品で、授業でも使います。どちらも札を読み、運ぶ役や手入れの担当を分け、費用の負担も確かめましょう。

（6）別解例　87 字

貸与の太鼓と寄贈の木琴を、分けて扱ってください。太鼓は日曜に返し、木琴は学校で使えるよう手入れを続けます。運搬や修理の費用もあり、担当を分けて一人に負担を集めないでください。

☆（6）自分で確かめる点

①「貸与」「寄贈」を使い、二つの楽器と対応させたか。

② 太鼓の返却と、木琴を使い続ける扱いを示したか。

③ 運搬・手入れ・費用などの負担に触れたか。

本文にはない修理費や使用料を付け足さない。すでに決まった返却日と、今後も必要な手入れや分担を分けて書く。

漢字から文章へ 第二冊

第九回

争いと勝敗

中央の旗を取った。そのとき、ほかの島では何が。
一局のあとに残った、作戦帳を開いてみましょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

争	戦	競	勝
取り合う 意見を争う	戦う 力を尽くす	比べ合い勝とうとする	勝つ 優れている

敗	攻	撃	敵
負ける 成功しない	攻める 取り組む	打つ 攻める	対立する相手

いっしょに覚える漢字

闘	勇	武	兵	隊	軍
将	旗	陣	略	占	領

この回で読むお話

二枚目の作戦図

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
争	ソウ あらそう	取り合う／意見を戦わせる 争点・競争・論争	敗	ハイ やぶれる	負ける／うまくいかない 敗北・勝敗・失敗
戦	セン たたかう	戦う／力を尽くして競う 対戦・作戦・戦争	攻	コウ せめる	攻める／取り組む 攻撃・攻略・専攻
競	キョウ ケイ きそう せる	比べ合い、勝とうとする 競技・競争・競馬	撃	ゲキ うつ	打つ／攻める 攻撃・反撃・打撃
勝	ショウ かつ まさる	勝つ／優れている 勝利・優勝・勝敗	敵	テキ かたき	対立する相手／匹敵する 敵軍・強敵・好敵手

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
闘	トウ たたかう	力を尽くして争う 闘争・奮闘・闘う	将	ショウ	率いる人／これから先 主将・将軍・将来
勇	ユウ いさむ	恐れずに進む気持ち 勇気・勇敢・勇者	旗	キ はた	目印となる布 国旗・旗手・旗印
武	ブ	戦いの力や技 武器・武力・武道	陣	ジン	戦うための構えや配置 陣地・陣営・布陣
兵	ヘイ	戦う人／戦いの道具 兵士・兵隊・兵器	略	リャク	計画や手立て／省く 戦略・略図・省略
隊	タイ	役目などのために集まる組 部隊・隊列・救助隊	占	セン しめる うらなう	自分のものにする／占う 占領・独占・占い
軍	グン	戦うための集団 軍隊・軍事・敵軍	領	リョウ	治める範囲／受け取る 領地・領域・受領

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「勝敗」の二字は、どんな関係ですか。
ア　同じ意味を重ねる　　イ　反対の結果をまとめる
ウ　前の字が後ろの字を否定する　　エ　物を運ぶ順番を示す

(2)「争点」の説明として適切なのはどれですか。
ア　得点を集める場所　　イ　競技が終わる時刻
ウ　論じたり争ったりする中心の事柄　　エ　同じ意見の人数

(3)「反撃」の「反」の働きに合うものはどれですか。
ア　受けた攻撃に対して攻め返す　　イ　攻めることを全てやめる
ウ　相手の旗を元に戻す　　エ　競技の規則を書き直す

(4)「強敵」と「好敵手」の説明として適切なのはどれですか。
ア　どちらも、必ず憎む相手　　イ　前者は味方、後者は審判
ウ　どちらも、勝負を避ける相手　　エ　手ごわい相手と、力量が合うよい競争相手

(5)「戦略」の説明として適切なのはどれですか。
ア　終わった試合の得点だけ　　イ　目標に向けた全体の計画や方針
ウ　味方が並ぶ場所だけ　　エ　相手の名前を隠すこと

(6)「占領」の「占」に近い働きはどれですか。
ア　後で返すために借りる　　イ　未来の運勢を占う
ウ　場所などを自分の支配下に置く　　エ　使わない部分を省く

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　反撃　国旗　対戦　戦略　奮闘　優勝　陣地
競技　攻撃　勝敗　隊列　勇気　敗北　軍隊

文	解答	文	解答
(1) 二つの班が決勝で□□することになった。		(8) 攻められたあと、こちらから□□した。	
(2) 陸軍・海軍などの組織をまとめて□□という。		(9) 大きな困難に負けず□□し、仕事をやり遂げた。	
(3) 速さや技を比べる□□に出場した。		(10) 恐れずに行動する□□を振り絞った。	
(4) 最後の試合にも勝ち、大会で□□した。		(11) 役割を持つ一団が□□を組んで進んだ。	
(5) 試合に敗れた□□の悔しさを語った。		(12) 国のしるしとなる□□を、式典で掲げた。	
(6) 終了まで結果が読めず、□□の行方を見守った。		(13) 味方の守る□□を地図に記した。	
(7) 相手が守る場所へ□□を仕掛けた。		(14) 目標に向けた全体の□□を立て直した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「競う」と「争う」の対象に合うものを選びなさい。

二人は走る速さを競ったあと、判定のどこに問題があったかを争った。

ア　前者は判定の問題、後者は走る速さ。
イ　どちらも、相手の持ち物を奪うこと。
ウ　どちらも、判定をそのまま受け入れること。
エ　前者は速さ、後者は判定への見解。

（2）「勝利」と「成功」をどう分けて読めますか。

試合では勝利したが、試していた連係の成功は一度だけだった。

ア　連係に成功したので、試合にも必ず勝てるということ。
イ　試合の勝敗と、連係がうまくいった回数を分けている。
ウ　試合に負けたことを、勝利と言い換えている。
エ　試合全体の結果を、連係の回数だけで決めている。

（3）この「攻撃」と「批判」の説明として適切なものを選びなさい。

相手の人格を攻撃せず、提案の費用が不足している点を批判した。

ア　人柄を傷つけず、提案の問題点を根拠とともに指摘する。
イ　提案を検討せず、相手の人柄を責める。
ウ　提案への賛成を、相手に強く迫る。
エ　費用を検討する代わりに、相手を試合に誘う。

（4）この「略図」と「戦略」の「略」は、どんな働きですか。

細部を省いた略図に、全体の戦略を書き込んだ。

ア　どちらも、場所を奪う働き。
イ　前者は計画、後者は省く働き。
ウ　前者は省くこと、後者は計画や手立て。
エ　どちらも、勝った結果だけを指す。

（5）「争点」を使い、何について意見が分かれているかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「好敵手」を使い、相手をどう捉えているかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 物語に、二つの国が**コウセン**する場面がある。	
(2) 作品の評価をめぐり、長く**ロンソウ**が続いた。	
(3) 同じ条件で速さを比べる**キョウソウ**をした。	
(4) 試合の**ショウリ**を、仲間と喜んだ。	
(5) 一度の**シッパイ**から、方法を見直した。	
(6) 大学では歴史を**センコウ**している。	
(7) ボールを打つ**ダゲキ**の練習をした。	
(8) 実力のある**キョウテキ**と、決勝で競った。	
(9) 危険を前にしても、**ユウカン**に行動した。	
(10) 柔道などの**ブドウ**を学んだ。	
(11) 物語の**ヘイシ**は、重い荷物を背負っていた。	
(12) 救助に向かう**ブタイ**の人員を確かめた。	
(13) これから先の**ショウライ**について話した。	
(14) 試合での守りの配置を、**フジン**の図に表した。	
(15) 細部を省いた**リャクズ**に、進む道を示した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 格闘	(17) 兵隊	(18) 軍事	(19) 占い	(20) 領域

この回を終えたら もう一度確かめる

途中でうまくいったことと、最後の勝敗を分けましょう。
何を争い、どの条件で勝敗が決まるのかが手がかりです。

七　文章の中で考えよう

二枚目の作戦図

「中央では勝ったのに。」晴人は、作戦帳を閉じかけた。盤の中央には赤い旗が残り、北と南には青い旗が立っている。青軍の蒼は、まだ駒を片付けずに晴人を見ていた。

盤上競技「島の旗」は、三つの島を兵隊の駒で取り合う遊びだ。自軍の兵だけがいる島に旗を立てられ、旗は相手に取られるまで残る。終了時に二つ以上の島を占領している軍が勝つ。赤軍の主将になった晴人は、中央へ攻め込む作戦を選んでいた。

何度も対戦した蒼の守りは、固かった。それでも、部隊を集めて敵の陣地を攻撃すると、模型の武器を持つ駒が次々に橋を渡った。今日は、この攻め方で勝利したい。晴人は中央に大きな矢印を描いていた。

旗が立っていた島の記録

時点	北の島	中央の島	南の島
残り三分	赤	青	青
残り一分	赤	赤	青
終了時	青	赤	青

残り一分で中央を取ると、思わず拳を握った。勇ましく立つ赤い旗を守ろうと、北の駒まで中央へ寄せる。だが、蒼は中央へ反撃しなかった。青の駒は北へ向かい、終了直前に赤い旗を倒した。

中央の争いが終わっても、競技は終わっていなかった。一つの島を見つめる間に、蒼は別の領地を狙っていた。結果は敗北だ。帳面の「これで勝てる」が、急に大きく見えた。

「でも、どうやってあんなに早く中央へ来たの。」
蒼に聞かれ、晴人は少し驚いた。駒をまとめる順番を話すと、蒼は何度もうなずいた。自分も、中央を守りきれなかった動きを調べたいという。

晴人は「これで勝てる」を消した。中央へ進む手順は残し、次のページに三つの島を描く。
「北を空けてくれるとは思わなかった。」
蒼の言葉に、悔しくて少し笑った。「次は、そうはいかないよ。」

もう一度闘うための戦略を、二人は別々の紙に書き始めた。晴人の消しゴムは、片側だけ黒くなっていた。中央への攻め方を残した紙には、まだ名前のない小さな矢印が、北へも伸びていた。

「島の旗」は本教材のための架空の競技です。記録の赤・青は、その時点で旗を立てていた側を示します。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と、三つの島の旗の記録を根拠にして答えなさい。

（1）本文で、チームを率いる人を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）場所を自分の支配下に置く「センリョウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「反撃」の意味として適切なものを選びなさい。

ア　受けた攻撃に対し、攻め返すこと。
イ　勝敗を決める時刻を延ばすこと。
ウ　味方の旗を自分で下ろすこと。
エ　作戦図を全て書き直すこと。

（4）競技の勝敗について、適切な説明を選びなさい。

ア　残り一分で二島を取ったので、赤が勝った。
イ　中央を守り続けたので、赤が勝った。
ウ　両軍とも一度は二島を取ったので、引き分けた。
エ　終了時に北と南の二島を取っていたので、青が勝った。

（5）晴人が「これで勝てる」は消し、中央へ進む手順は残したのはなぜだと読みますか。勝敗と蒼の言葉を踏まえ、45〜55 字で書きなさい。

（6）次の対戦に向け、晴人の作戦帳に助言を 70〜90 字で書きなさい。「攻撃」「戦略」を使い、残す工夫と見直す点を含めます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第九回　争いと勝敗

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　勝つことと敗れることをまとめた語。一つの競技の途中と、最後の勝敗は区別して捉える。

（2）ウ　意見の対立や議論の中心となっている事柄。単に言い合いの激しさを指す語ではない。

（3）ア　攻撃を受け、それに対して攻め返すこと。「撃」は打つことや攻めることに関わる。

（4）エ　敵は対立する相手を表すが、強敵や好敵手には、相手の力量を認める見方も含まれる。

（5）イ　目標を達成するための大きな計画や方針。目の前の動きだけでなく、全体をどう進めるかにも着目する。

（6）ウ　ここでは場所などを占めて支配すること。「占」には占う働きもあるが、この熟語ではその意味ではない。

四　熟語を広げよう

（1）対戦　（2）軍隊　（3）競技　（4）優勝　（5）敗北

（6）勝敗　（7）攻撃　（8）反撃　（9）奮闘　（10）勇気

（11）隊列　（12）国旗　（13）陣地　（14）戦略

（2）は陸軍や海軍などの組織。（9）奮闘は力いっぱい取り組むこと。（12）は国のしるしとなる旗。（14）戦略は、目標に向けた全体の計画や方針に着目する。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　ここでは、成果を比べる場面と、見解が対立する場面を分ける。競うと争うを、いつもよい行為と悪い行為に分けられるわけではない。

（2）イ　試合に勝つことと、試した連係がうまくいくことは別の結果。全体の勝利が、全ての動きの成功を意味するわけではない。

（3）ア　ここで批判する対象は提案の費用。批判には、物事を検討して評価する働きがあり、悪口と同じではない。

（4）ウ　同じ字でも、略図では細部を省く働き、戦略では計画や手立ての働きが表れている。字の意味を一つだけで固定しない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

費用を抑えるか広い会場を選ぶかが、今回の会議の争点だ。

☆自分で確かめる点　対立している考えの中心が、具体的に分かるか。

（6）解答例

互いの弱点を見つけ合う好敵手として、次の対戦を楽しみにしている。

☆自分で確かめる点　手ごわさや、競い合えるよさが伝わるか。憎しみに限定しない。

六　短文で使ってみよう

（1）交戦　（2）論争　（3）競争　（4）勝利　（5）失敗

（6）専攻　（7）打撃　（8）強敵　（9）勇敢　（10）武道

（11）兵士　（12）部隊　（13）将来　（14）布陣　（15）略図

（16）かくとう　（17）へいたい　（18）ぐんじ　（19）うらない　（20）りょういき

（6）専攻は、ある分野を専門に学んだり研究したりすること。（14）布陣は、戦いや試合などに備えた配置。（19）の占いと「占領」では、「占」の読みも働きも異なる。

七　文章の中で考えよう

（1）主将　赤軍を率いる晴人の役目を表す。軍を率いる「将」の働きが、この語にもある。
（2）占領　この競技では、島に自軍の兵だけがいると旗を立てられるという設定で使われる。
（3）ア　赤は中央を取り、その後に攻め返されることを防ごうとした。青が実際に中央へ戻ったという意味ではない。
（4）エ　残り一分では赤が二島、終了時には青が二島を取っている。勝敗は終了時に決める。

七　記述問題の考え方

（5）　消した言葉と残した手順 45〜55 字

（5）解答例　52 字

中央を取れば勝てるという考えは敗北で見直したが、蒼も認めた中央へ進む工夫は、次にも生かせると思ったから。

（5）別解例　52 字

試合には敗れたものの、蒼が中央への攻め方に関心を示したため、勝利の断定は消しても、手順は残したと読める。

☆（5）自分で確かめる点

① 中央を取ることだけでは勝利できなかった点を捉えたか。
② 蒼が攻め方に関心を示したことを根拠にしたか。
③ 敗北を理由に全ての工夫を捨てたとは読んでいないか。

悔しさや、自分の工夫を認められた気持ちに着目してもよい。蒼の言葉と、残した手順に結びつける。

（6）　工夫を残して全体を見直す助言 70〜90 字

（6）解答例　86 字

中央への攻撃を速く進める手順は残そう。ただし勝敗は、終了時に二つ以上の島を取っているかで決まる。中央を取ったあとも北や南の動きを確かめ、必要な島を守れる戦略を立て直したい。

（6）別解例　87 字

中央を取る攻撃には蒼も注目したので、その工夫は次にも生かせる。一方、最後に北の島を失って敗れた。中央だけで満足せず、三島の旗と相手の動きを見て、守る場所を選ぶ戦略を考えよう。

☆（6）自分で確かめる点

①「攻撃」「戦略」を使い、残す工夫を具体的に示したか。
② 終了時の二島という勝敗の条件を踏まえたか。
③ 中央以外の島や、相手の動きも見る助言にしたか。

駒の詳しい能力は本文にないため、必ず勝つ手順を作る必要はない。北へ全ての駒を送れば必ず勝てる、とも断定しない。

漢字から文章へ 第二冊

第十回

社会ときまり

紙で作った国に、新しいきまりができました。
その紙は、前からあるきまりと、どうつながるでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

法	律	制	規
きまり やり方	きまり 整った調子	仕組みを決める	きまり 基準

則	条	憲	令
きまり 従う	分けた項目 条件	基本となるきまり	命じる きまりを出す

いっしょに覚える漢字

府	省	官	政	治	党
議	票	民	国	市	郡

この回で読むお話

紙の国の第一条

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
法	ホウ	きまり／やり方 法律・方法・法則	則	ソク	きまり／基準として従う 規則・法則・原則
律	リツ	きまり／整った調子 法律・規律・旋律	条	ジョウ	一つずつに分けた項目や条件 条文・条件・条例
制	セイ	仕組みを決める／抑える 制度・制限・制御	憲	ケン	基本となるきまり 憲法・憲章・立憲
規	キ	きまり／基準 規則・規模・規範	令	レイ	命じる／きまりとして出す 命令・法令・号令

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
府	フ	政治を行うところ／地域の名 政府・府庁・府県	議	ギ	話し合って考える 議論・会議・議会
省	セイ ショウ かえりみる はぶく	役所／振り返る／省く 省庁・反省・省略	票	ヒョウ	意思や選択を示す札や数 投票・票数・得票
官	カン	公の仕事をする人や機関 官庁・官民・警官	民	ミン たみ	人々／住民 国民・市民・民間
政	セイ	世の中を治める働き 政治・政府・政策	国	コク くに	国／国のまとまり 国民・国家・外国
治	ジ チ おさめる なおす	治める／整える／直す 政治・自治・治療	市	シ いち	町／人や品が集まる場 市民・市場・市役所
党	トウ	考えや目的を同じくする仲間 政党・党員・党派	郡	グン	いくつかの町村を含む地域 郡・郡部・郡名

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「法律」と「方法」に共通する「法」の捉え方に合うものはどれですか。
ア　全て、人を罰すること　　イ　全て、役所の名前
ウ　きまりや、物事を行うやり方　　エ　話し合いを省くこと

(2)「規則」の二字は、どんな意味を重ねていますか。
ア　きまりや基準　　イ　品物や代金
ウ　声や音楽　　エ　町や村

(3)「制限」の「制」に近い働きはどれですか。
ア　票を数える　　イ　外へ運ぶ
ウ　意見を述べる　　エ　程度や範囲を抑える

(4)「条文」の「条」は何を表していますか。
ア　国の名前　　イ　項目ごとに分けたきまり
ウ　投票する人の年齢　　エ　政府の建物

(5)「憲法」の「憲」に近い働きはどれですか。
ア　基本となるきまり　　イ　少しずつ省くこと
ウ　人を集める声　　エ　出席する人数

(6)「自治」の説明として適切なのはどれですか。
ア　他の人の意見を全てなくす　　イ　決まったことを一切変えない
ウ　自分たちの事柄を自ら治める　　エ　決定を全て遠くへ任せる

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　条例　官庁　規則　方法　投票　制限　命令
政党　法律　憲法　規律　国民　条文　制度

文	解答	文	解答
(1) 国会が定める □□の内容を調べた。		(8) 地方公共団体が定める □□について学んだ。	
(2) 手順を示す□□を 図と文章で説明した。		(9) 国の最も基本となる 法である□□を学んだ。	
(3) 順序や秩序を保つ □□を大切にした。		(10) 上司から仕事をするよう □□を受けた。	
(4) 支援の仕組みとなる □□を見直した。		(11) 公の仕事をする □□の窓口を調べた。	
(5) 使える時間に □□を設けた。		(12) 一人の□□として、 自分の国の社会を考えた。	
(6) 施設を使うときの □□を読み直した。		(13) 同じ方針で政治に関わる 人々が、□□を結成した。	
(7) 一つ一つの□□を 分けて読み、内容を比べた。		(14) 用紙で意思を示す □□に参加した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「制度」と「規則」の説明に合うものを選びなさい。

本を借りられる制度を設け、返却期限などの規則を決めた。

ア　前者は期限だけ、後者は本の種類だけを指す。
イ　前者は仕組み、後者はその利用のきまりに着目する。
ウ　前者は利用者、後者は係員を指す。
エ　どちらも、借りた本の名前を指す。

（2）この「原則」と「例外」の関係として適切なものを選びなさい。

原則として十七時に閉めるが、年に一度の夜間公開は例外とする。

ア　毎日、十七時以降に自由に入れる。
イ　夜間公開の日にも、必ず十七時に閉める。
ウ　閉める時刻は、まだ一度も決めていない。
エ　通常の扱いと、その扱いを外れる特定の場合を分ける。

（3）「議論」と「決定」の違いを踏まえた読みを選びなさい。

会場の変更を議論したが、決定は来週に持ち越した。

ア　会場の変更は決まり、来週は結果を知らせるだけだ。
イ　会場について話すこと自体を、来週までしなかった。
ウ　変更について話し合ったが、結論はまだ出していない。
エ　変更しないと決めたので、来週の話合いもなくなった。

（4）「省庁」と「省略」の「省」は、どんな働きですか。

省庁の資料から、細かな数字を省略した要約を作った。

ア　前者は役所、後者は省くこと。
イ　前者は省くこと、後者は役所。
ウ　どちらも、反省すること。
エ　どちらも、票を数えること。

（5）「条件」を使い、何をするには何が必要かを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「議論」を使い、話し合った事柄とその後を一文で書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 物事の成り立ちを説明する**ホウソク**を探した。	
(2) 歌の美しい**センリツ**を口ずさんだ。	
(3) 機械の動きを、装置で**セイギョ**した。	
(4) 催しの**キボ**を、参加者数に合わせた。	
(5) 普段の扱いである**ゲンソク**と、例外を分けた。	
(6) 契約書を、項目ごとの**ジョウコウ**に分けて読んだ。	
(7) 活動の基本原則を定めた**ケンショウ**を読み直した。	
(8) 法律や命令などの**ホウレイ**を調べた。	
(9) 国の政治を行う**セイフ**の仕組みを学んだ。	
(10) 自分の行動を振り返り、**ハンセイ**した。	
(11) 町を運営する**セイサク**を比べた。	
(12) 来週の**カイギ**で、会場について話し合う。	
(13) 候補者ごとの**ヒョウスウ**を表にまとめた。	
(14) 朝早く、魚の集まる**イチバ**を見学した。	
(15) 郡に属する地域を表す**グンブ**という語を調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 府県	(17) 省庁	(18) 官民	(19) 市民	(20) 郡名

この回を終えたら もう一度確かめる

話し合ったこと、決めたこと、すでにあるきまりを分けましょう。
新しい決定は、どのきまりをもとに確かめるのでしょうか。

七　文章の中で考えよう

紙の国の第一条

私たちの青空国は、机六つ分の広さしかない。法律や制度を学ぶ授業で作った、架空の国だ。地図には市や郡、机には政府、省、官庁の看板がある。住民であり国民でもある私、紬は、二人だけの川党に入った。政治の方針を出す政党は、ほかに二つある。

初めに皆で決めたのは、「全ての住民は、会議で自分の意見を言える」という一文だった。青空国憲法の第一条だ。この条は、通常の多数決では変えられないことにも同意した。私は条文を書いた紙を、机の手前に置いた。

会議は、思ったより長かった。川党の提案を聞く前に、授業の終わりが来てしまう。次の時間、政府役の生徒が新しい規則を出した。
「発言する党は、選挙で得票の多かった上位二党に限る。」

採決では、賛成が反対を上回った。私も、時間は短くしたい。けれど、この規則では、川党は一度も話せない。
「多数決で決まったから、明日からその命令に従って。」
政府役の声を聞き、私は手を上げかけた。机の紙の角に、まだ乾かないインクが付いていた。

「この一文は、どうなるの。」
紙を差し出すと、隣の党の生徒が読んだ。誰もが意見を言えるという第一条と、上位二党だけが話すという規則。二つの紙は、内容が食い違っていた。

「じゃあ、第一条を消そう。」
誰かの言葉に、今度は川党ではない生徒が答えた。
「でも、ふだんの多数決では変えられないと決めたよね。」
自分の党だけの不満だと思っていたので、私はその人の方を見た。

会議を短くしたいのは同じでも、方法はもう一度考える必要がある。私は、各党の持ち時間を同じにする案を書いた。別の党からは、前もって意見を紙で配る案も出た。採用する案は、まだ議論の途中だ。

私も長く話しがちだから、次に言うことを二行にまとめてみた。二人で作った川党の看板を片付けるとき、仲間が持つ端と、私が持つ端が少し曲がった。そっと伸ばし、箱へ戻した。

第一条の紙は、折らずに片付けた。小さな国の自治は、まだ始まったばかりだ。次の会議までに、どこを短く話そうか。私はさっきの二行を、もう一度読んだ。

青空国の仕組みは授業内の架空の設定です。実際の国や地方公共団体の制度とは異なります。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）選挙で得た票の数を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）自分たちの事柄を自ら治める「ジチ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）この本文の「条文」は、どのような文章ですか。

ア　党の人気を調べた感想文。
イ　紙の地図に書いた市や郡の名。
ウ　一つの条として分けて書いたきまりの文。
エ　次の会議で発言する人の名簿。

（4）新しい規則を確かめる読み方として、本文に合うものを選びなさい。

ア　賛成が多かったので、第一条との関係は確かめなくてよい。
イ　時間短縮という目的と、第一条に反しない方法を分けて考える。
ウ　川党の人数が少ないので、住民としての扱いもなくす。
エ　同じ持ち時間にする案は、すでに全員が採用を決めた。

（5）紬とは別の党の生徒も、新しい規則を見直す必要を示しました。その根拠を、第一条と変更の条件に触れて 45〜55 字で説明しなさい。

（6）会議を短くするための提案を、「規則」「条文」を使って 70〜90 字で書きなさい。第一条を守りながら、具体的な方法と理由を示します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　社会ときまり

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　法には、社会のきまりだけでなく、物事を行うやり方という働きもある。熟語全体でどちらに着目するかを確かめる。

（2）ア　どちらもきまりや基準に関わる。「規模」など、別の熟語での働きも確かめる。

（3）エ　人数や時間などに範囲を設け、抑える働き。「制度」では仕組みを定める働きに着目する。

（4）イ　法令などを項目ごとに分けた文に使う。第一条、第二条のように、条ごとの内容を読む。

（5）ア　国のあり方を定める、最も基本となる法に関わる。「憲章」も基本原則を定めるもの。

（6）ウ　自分たちの事柄を自ら扱い、治めること。誰か一人の勝手な決定と同じ意味ではない。

四　熟語を広げよう

（1）法律　（2）方法　（3）規律　（4）制度　（5）制限

（6）規則　（7）条文　（8）条例　（9）憲法　（10）命令

（11）官庁　（12）国民　（13）政党　（14）投票

（4）は社会などの仕組み、（5）は範囲を設けて抑えること。（7）は項目に分けた文章。（12）は国を構成する人々、（13）は同じ政治上の目的や方針を持つ人々の団体を表す。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　この文では貸出の仕組みと、期限などの決まりを分けている。制度と規則は互いに関わり、単純な大小だけでは分けきれない。

（2）エ　原則は基本の扱い、例外はその扱いから外れる特定の場合。この文では、年に一度の夜間公開だけを例外としている。

（3）ウ　話し合うことと、結論を決めることは同じではない。「持ち越した」ことから、決定は未了だと分かる。

（4）ア　省庁は行政の機関、省略は細部を省くこと。同じ字でも熟語の中で確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

雨の日も実施できることを条件に、体験会の会場を探している。

☆自分で確かめる点　必要な事柄と、その条件を使う場面が分かるか。

（6）解答例

展示の順番を議論し、来場者の動きを見てから決めることにした。

☆自分で確かめる点　何を話し合い、何が決まり、何がまだなのかを区別したか。

六　短文で使ってみよう

（1）法則　（2）旋律　（3）制御　（4）規模　（5）原則

（6）条項　（7）憲章　（8）法令　（9）政府　（10）反省

（11）政策　（12）会議　（13）票数　（14）市場　（15）郡部

（16）ふけん　（17）しょうちょう　（18）かんみん　（19）しみん　（20）ぐんめい

（2）旋律は、音のつながりで作られる曲の節。（7）憲章は基本原則を定めたもの。（10）の「省」は振り返る働きで、（17）の省庁では役所の意味になる。

七　文章の中で考えよう

（1）得票　本文では、選挙で各党が得た票の数に着目している。広い意味での「票数」ではなく、本文中の語を抜き出す。

（2）自治　本文では、架空の国をクラスで運営することに関わる。

（3）ウ　「全ての住民は、会議で自分の意見を言える」という、第一条のきまりの文を指す。

（4）イ　本文の設定では、第一条は通常の多数決では変えられない。時間短縮に賛成することと、特定の党の発言をなくすことは同じではない。

七　記述問題の考え方

（5）　見直しの根拠となるきまり 45〜55 字

（5）解答例　54 字

第一条は全住民の発言を認め、通常の多数決では変えられないため、川党の発言をなくす規則はそのまま採用できない。

（5）別解例　52 字

誰もが意見を言える第一条は、ふだんの多数決では変更できず、採決で多数になっても川党の発言を奪えないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 全ての住民に発言を認める第一条の内容を示したか。

② 通常の多数決では変更できない、本文の設定を含めたか。

③ 新しい規則が川党の発言をなくす点と結びつけたか。

川党への賛成だけが根拠ではない。ほかの党の生徒も、共有したきまりをもとに考えている。

（6）　基本のきまりを守る時間短縮案 70〜90 字

（6）解答例　86 字

全住民が意見を言える条文を守り、各党の持ち時間を同じ長さにする規則を提案します。人数や得票で発言をなくさず、話す長さをそろえれば、川党の意見も聞きながら会議を短くできます。

（6）別解例　86 字

会議の前に各党が意見を紙で配り、当日は補足と質問の時間を同じだけ設ける規則を提案します。全住民の発言を認める条文を守りつつ、説明の重複を減らして、会議を短くしたいからです。

☆（6）自分で確かめる点

①「規則」「条文」を使い、第一条との関係を示したか。

② 川党を含む全ての党が意見を言える方法にしたか。

③ 持ち時間や事前配布など、時間短縮の具体策と理由を示したか。

本文の二案以外でも、条件に合う具体案ならよい。多数決そのものを否定したり、別の党なら発言をなくしてよいとしたりしない。

漢字から文章へ 第二冊

第十一回

責任と約束

古い時計のガラスに、細いひびを見つけました。
「私が壊しました」と書く前に、何を確かめられるでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

務	権	契	雇
果たす仕事 役目	認められた力や範囲	約束を結ぶ	報酬を払って働かせる

罪	罰	償	賠
法などに背く行い	行いへのこらしめ	損害を埋め合わせる	与えた損害を埋める

いっしょに覚える漢字

役	司	監	督	管	営
職	労	税	債	勤	署

この回で読むお話

時計のひびと報告書

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
務	ム つとめる つとまる	役目として行う／果たす仕事 任務・義務・業務	罪	ザイ つみ	法などに背く行い／その責任 犯罪・罪悪・謝罪
権	ケン	認められた力や範囲 権利・権限・権力	罰	バツ バチ	悪い行いへのこらしめ 処罰・罰則・刑罰
契	ケイ ちぎる	約束を結ぶ／きっかけ 契約・契機・契る	償	ショウ つぐなう	損害などを埋め合わせる 弁償・補償・無償
雇	コ やとう	報酬を払って人を働かせる 雇用・雇う・解雇	賠	バイ	与えた損害を埋め合わせる 賠償・損害賠償

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
役	ヤク	受け持つ仕事／役目 役割・役員・役所	職	ショク	仕事／受け持つ役目 職業・職員・職務
司	シ つかさどる	仕事を取り仕切る 司会・司書・司令	労	ロウ	働く／骨を折る 労働・労力・苦労
監	カン	見張る／取り締まる 監督・監視・監査	税	ゼイ	公の仕事のために納める金 税金・納税・税務署
督	トク	見て促す／取り締まる 監督・督促・督励	債	サイ	金銭などを返す義務や貸し 債務・債権・負債
管	カン くだ	細長い管／受け持って扱う 管楽器・管理・保管	勤	キン つとめる	仕事に励む／仕事に就く 勤務・通勤・勤勉
営	エイ いとなむ	計画して仕事などを続ける 営業・経営・運営	署	ショ	役所／名を書き記す 署名・警察署・税務署

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「職務」の説明として適切なのはどれですか。
ア　仕事を離れて休むこと　　イ　相手から賞を受けること
ウ　役所の建物を建てること　　エ　その職や立場で受け持つ仕事

(2)「権限」の「限」は、何に着目する手がかりですか。
ア　働く時間の長さだけ　　イ　役目に応じて行える範囲
ウ　受け取る報酬の額だけ　　エ　仕事を始める年齢だけ

(3)「雇用」は、どんな関係を表す語ですか。
ア　報酬を払い、人を働かせる関係　　イ　物を買って売り直す関係
ウ　互いに贈り物をする関係　　エ　賞を渡して受け取る関係

(4)「賠償」の二字に関わる働きはどれですか。
ア　会議の時間を延ばす　　イ　役目を引き継ぐ
ウ　与えた損害を埋め合わせる　　エ　物を貸して後で返してもらう

(5)「監督」の二字に関わる働きはどれですか。
ア　受け取った物を自分の物にする　　イ　費用を全て一人で払う
ウ　悪い行いを必ず処罰する　　エ　仕事などを見守り、指示や取り締まりをする

(6)「署名」の「署」に近い働きはどれですか。
ア　仕事を休む　　イ　名を書き記す
ウ　物を保管する　　エ　借金を返す

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　納税　権利　業務　賠償　管理　契約　処罰
債務　運営　雇用　謝罪　監督　司会　労力

文	解答	文	解答
(1) 借りた金を返す義務である□□の内容を確かめた。		(8) きまりに違反した人への□□の内容を確かめた。	
(2) 窓口の日常的な□□を引き継いだ。		(9) 重い荷物を運ぶため、多くの□□を費やした。	
(3) 誰にも学ぶ□□があることを確かめた。		(10) 相手に与えた損害の□□について話し合った。	
(4) 会議の進行を取り仕切る□□を担当した。		(11) 仕事を見て指示する□□の役目を引き受けた。	
(5) 双方で約束の内容を確認し、□□を結んだ。		(12) 借りた品の所在を確かめ、□□を続けた。	
(6) 報酬を払って人に働いてもらう□□を行う。		(13) 催しを計画して進める□□の仕事を担った。	
(7) 悪かったことを認め、相手に□□した。		(14) 決められた税金を納める□□の手続を確かめた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この文の「権利」と「権限」の説明に合うものを選びなさい。

生徒には学ぶ権利がある。受付係には、施設の貸出条件を変える権限はない。

ア　どちらも、受付の勤務時間のこと。
イ　どちらも、貸した品の代金のこと。
ウ　前者は認められた利益や自由、後者は役目上できる範囲。
エ　前者は果たす仕事、後者は違反への罰。

（2）「謝罪」と「弁償」の関係として適切なものを選びなさい。

自分の不注意で割った皿について謝罪し、新しい皿の代金を弁償した。

ア　非を認めて謝ることと、金品で損害を埋めることを行った。
イ　代金を払ったので、最初の謝罪は事実ではなくなった。
ウ　謝罪したことだけで、割れた皿が元に戻った。
エ　代金を払うことを、処罰と呼んでいる。

（3）この「職務」と「勤務」の違いに合うものを選びなさい。

資料を保管する職務を担当し、今週は午前中に勤務する。

ア　前者は働く時刻、後者は保管する品の種類。
イ　どちらも、報酬の支払方法だけを指す。
ウ　どちらも、資料を借りる期間だけを指す。
エ　前者は受け持つ仕事、後者は仕事に就いて働くこと。

（4）「確認」と「推測」を分けた記録として適切なものを選びなさい。

運んだあとに傷を見つけたが、傷がいつできたかは調べていない。

ア　運んだ自分が、確実に傷をつけた。
イ　運搬後に傷を見つけた。できた時期は未確認だ。
ウ　傷は運ぶ前からあったので、調査は不要だ。
エ　傷があると分かったので、修理費も確定した。

（5）「役割」を使い、自分や係が何をするかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「確認」を使い、何をどの資料で確かめるかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 任された**ニンム**を果たした。	
(2) 資料を保管する**ショクム**を担当した。	
(3) 人を従わせる**ケンリョク**を、一人に集めない。	
(4) その出会いが、学び始める**ケイキ**になった。	
(5) 店で働く人を、新たに**ヤト**うことになった。	
(6) 法に背く**ハンザイ**を防ぐための方法を考えた。	
(7) 違反に対する**バッソク**の内容を確かめた。	
(8) 自分の不注意で割った皿の代金を**ベンショウ**した。	
(9) 工事で休業した店へ、損失の**ホショウ**が行われた。	
(10) 図書館の**シショ**に、調べたい本を尋ねた。	
(11) 係員が、装置の状態を**カンシ**した。	
(12) 大切な資料を、箱に入れて**ホカン**した。	
(13) 店の**エイギョウ**を、午前十時に始める。	
(14) 今週の**キンム**の予定を確かめた。	
(15) 返却期限を過ぎたので、返すよう**トクソク**の連絡をした。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 職業	(17) 労働	(18) 税金	(19) 債権	(20) 監査

この回を終えたら もう一度確かめる

自分の役目と、その役目で決められる範囲を確かめましょう。
原因を推測するときも、見た事実と分けて伝えられるでしょうか。

七　文章の中で考えよう

時計のひびと報告書

時計のガラスに、細いひびがある。紗季は箱を持った手を見つめた。さっき持ち上げたとき、何かしたのだろうか。文化館の職場体験で、借りた品の状態を記録しているところだった。

担当職員の監督のもとで、箱を開け、品名と傷の有無を書く。それが今日の任務だ。紗季は報告書の欄に「私が壊しました」と書きかけた。

「何を見たの。」
職員に聞かれ、紗季は顔を上げた。箱から出した時計にひびがあったこと。箱を落としてはいないこと。話すうちに、したことと、見たことが少し分かれてきた。職員は、それを順に書いてほしいと言った。

品を貸した人への対応は、担当職員が行う。紗季に弁償の方法や金額を決める権限はない。貸出の契約書には、破損の賠償は状況を確認して協議する、とある。謝罪や損害の扱いも、何が起きたかを確かめてから考えるのだという。

受け入れ時の写真を開くと、同じひびが写っていた。撮影は、紗季が箱を運ぶより前だった。思わず、肩の力が少し抜けた。

ただ、時計の内部に別の不具合がないかは、まだ調べていない。
「ひびは運ぶ前からあった。それと、状態の確認が全部終わった、とは別だね。」
紗季はうなずき、写真を報告書の横へ置いた。

記録を「箱から出した時点で、ガラスにひびを確認」に直した。受け入れ時の写真にも同じひびがある、と続け、確認者の欄に署名する。自分の役割は、急いで罪を認めることや、誰かへの罰を決めることではなかった。

昼休みには、勤務する職員のほかの仕事も聞いた。雇用の契約や労働条件を確かめ、税務署へ出す書類を作る。運営費のために借りた金の債務を管理する人もいる。展示の裏には、まだ知らない仕事がたくさんあった。

司書が、古い時計の使われ方を調べた本を持ってきた。紗季はまだ少し緊張しながら、写真のページを開いた。余白に、前に読んだ人が挟んだらしい細い紙がある。午後、次の箱を開ける前には、品の写真の撮影時刻も見ることにした。

文化館・時計・記録・契約書の内容は、本教材のための架空の設定です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）本文で、役目上できる範囲を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）自分の名を書き記す「ショメイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「協議」の意味として適切なものを選びなさい。

ア　相手に知らせず、金額を先に確定すること。
イ　関係する人が話し合って検討すること。
ウ　一人の推測を、そのまま事実にすること。
エ　品の記録を全て消すこと。

（4）本文の記録だけで確かめられることを選びなさい。

ア　時計は内部も含め、全て正常に動く。
イ　ひびの修理費は、紗季が全て負担する。
ウ　紗季が運ぶ前の写真にも、同じひびがある。
エ　時計を貸した人が、ひびを入れた。

（5）職員が「何を見たの」と尋ねたのは、紗季にどんな記録を書いてほしかったからですか。最初の文との違いを含め、45〜55 字で説明しなさい。

（6）担当者への報告を、「確認」「未確認」を使って 70〜90 字で書きなさい。ひびが分かった時点、写真の内容、残る調査を含めます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十一回　責任と約束

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　職として受け持ち、果たすべき仕事に着目する。任務や業務と意味が重なる場合もある。

（2）イ　役目や立場に応じて、決めたり行ったりできる範囲に着目する。権限があることと、何でもできることは違う。

（3）ア　人を雇い、仕事に用いることに関わる。働く内容や条件は、別に確かめる必要がある。

（4）ウ　他に与えた損害を埋め合わせること。誰にどのような責任があるかは、語の意味だけでは決められない。

（5）エ　活動や仕事を見て、指示や取り締まりをすること。監督の役目は場面によって異なる。

（6）イ　署名は自分の名を書き記すこと。「税務署」などでは役所の意味になる。

四　熟語を広げよう

（1）債務　（2）業務　（3）権利　（4）司会　（5）契約

（6）雇用　（7）謝罪　（8）処罰　（9）労力　（10）賠償

（11）監督　（12）管理　（13）運営　（14）納税

（1）債務は、金銭を返すことなど、特定の相手に対して果たすべき法律上の義務。（4）は会議などの進行を取り仕切ること。（8）の処罰と（10）の賠償は、同じことではない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　学ぶ権利と、役目上できる行為の範囲を分けている。権利は、役目や成果の有無だけで決まるものではない。

（2）ア　この文では、謝ることと、物の損害を金品で埋めることを別々に行っている。二つが同時に必要となる場面もある。

（3）エ　何を受け持つかと、仕事に就いて働くことを分けて捉える。この文では勤務する時間も示されている。

（4）イ　見つけた時点と、傷ができた時点は同じとは限らない。確かめていない原因を、事実として書き加えない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

受付係の役割は、来場した人に会場の場所と開始時刻を伝えることだ。

☆自分で確かめる点　受け持つ仕事の内容を、具体的に示したか。

（6）解答例

提出前に見積書を読み、修理する箇所と費用の内訳を確認した。

☆自分で確かめる点　対象と、確かめる手がかりが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）任務　（2）職務　（3）権力　（4）契機　（5）雇

（6）犯罪　（7）罰則　（8）弁償　（9）補償　（10）司書

（11）監視　（12）保管　（13）営業　（14）勤務　（15）督促

（16）しょくぎょう　（17）ろうどう　（18）ぜいきん　（19）さいけん　（20）かんさ

（4）契機は、きっかけ。（5）は「雇う」とつながる。（8）（9）は損害などの埋め合わせに関わるが、語だけで責任や金額が決まるわけではない。（15）督促は、早く果たすよう促すこと。

七　文章の中で考えよう

（1）権限　紗季が記録する役目を持つことと、賠償の方法や金額を決められることは異なる。

（2）署名　本文では、報告書の確認者として自分の名を書いている。署名しただけで原因まで確定するわけではない。

（3）イ　関係者が話し合って検討すること。本文の契約書では、状況確認後に行うとしている。

（4）ウ　写真の撮影が運搬前だったため、ひびの存在はそれより前にさかのぼる。内部の状態、ひびを入れた人、責任や金額までは記録から決められない。

七　記述問題の考え方

（5）　見た事実と推測を分ける記録 45〜55 字

（5）解答例　54 字

自分が壊したという未確認の原因を決めつけず、箱から出した時にひびを見つけたなど、見た事実を書いてほしかった。

（5）別解例　54 字

最初の文は自分が原因だと推測しているため、何をしたかと何を見たかを分け、確かめた状態を順に記してほしかった。

☆（5）自分で確かめる点

① 「私が壊しました」は原因まで決めた文だと捉えたか。

② ひびを見た時点など、確認できた事実との違いを示したか。

③ 事実を書く役目を、責任逃れと取り違えていないか。

写真を見る前の問いなので、職員がすでにひびの原因を知っていたとは書かない。事実を記すことが、その後の確認の手がかりになる。

（6）　次の調査につながる報告 70〜90 字

（6）解答例　88 字

時計を箱から出した時点で、ガラスのひびを確認しました。箱は落としていません。運搬前に撮影された受け入れ時の写真にも、同じひびがあります。ただし、内部の不具合の有無は未確認です。

（6）別解例　87 字

箱から出した時計に、ガラスのひびを確認しました。受け入れ時の写真にも同じひびが写っており、撮影は私が箱を運ぶ前でした。内部に別の不具合がないかは未確認なので、調査が必要です。

☆（6）自分で確かめる点

① 「確認」「未確認」を使い、確かなことと残ることを分けたか。

② 箱から出した時点のひびと、運搬前の写真を結びつけたか。

③ 時計内部の状態は、まだ調べていないと示したか。

ひびが運搬前からあったことを、時計全体に問題がないという結論へ広げない。本文にない原因や賠償額も付け足さない。

漢字から文章へ 第二冊

第十二回

人と集団

古い集合写真に、おばあさんの姿がありません。
けれど、その一枚には、おばあさんの仕事が残っていました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

個	群	衆	族
一つ一つ 一人一人	多く集まる	多くの人々	共通点でつながる

盟	派	閥	僚
約束して協力する	考えや立場のまとまり	出身や利害の結びつき	同じ仕事の仲間

いっしょに覚える漢字

皆	他	己	我	互	彼
夫	妻	婦	祖	孫	兄

この回で読むお話

写真の外の名前

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
個	コ	一つ一つ／一人一人 個人・個性・個別	盟	メイ	約束を結んで協力する 同盟・連盟・盟友
群	グン むれる むれ	多く集まる／集まり 群衆・群集・群島	派	ハ	考えや立場の近いまとまり 流派・学派・党派
衆	シュウ	多くの人々 群衆・大衆・公衆	閥	バツ	出身や利害などによる結びつき 派閥・学閥・門閥
族	ゾク	血縁や共通点でつながる集まり 家族・親族・民族	僚	リョウ	同じ仕事や役目の仲間 同僚・官僚・閣僚

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
皆	カイ みな	みんな／全て 皆・皆勤・皆無	夫	フ フウ おっと	夫／成人の男性 夫・夫婦・夫妻
他	タ ほか	ほか／別のもの 他人・他者・他校	妻	サイ つま	妻 妻・夫妻・妻子
己	コ キ おのれ	自分自身 自己・利己・克己	婦	フ	成人の女性／妻 婦人・夫婦・新婦
我	ガ われ わ	自分／自分たち 自我・我々・我が家	祖	ソ	先の世代／物事の始まり 祖父・祖母・祖先
互	ゴ たがい	互い／双方がそうする 相互・互助・互い	孫	ソン まご	子の子／後の世代 孫・子孫・孫弟子
彼	ヒ かれ かの	あの人／あちら 彼・彼女・彼方	兄	ケイ キョウ あに	年上の男きょうだい 兄・兄弟・父兄

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「個人」と「個性」は、何に着目していますか。
ア　前者は家族、後者は同僚　　イ　どちらも、人の集まる場所
ウ　どちらも、年上のきょうだい　　エ　前者は一人の人、後者はその人らしい特徴

(2)「群衆」が表すものとして適切なのはどれですか。
ア　決まった会員だけで働く一つの会社　　イ　一か所に集まった多くの人々
ウ　一人の人が考えた意見　　エ　親から子へ受け継ぐ品

(3)「同盟」の説明として適切なのはどれですか。
ア　共通の目的のために約束して協力する結びつき　　イ　同じ時刻に偶然通りかかった人々
ウ　同じ家で暮らす人だけの集まり　　エ　意見を全て一つにする方法

(4)「派閥」の「閥」に近い働きはどれですか。
ア　たまたま同じ場所を通る　　イ　遠くの景色を眺める
ウ　出身や利害などで結びつく　　エ　一つずつ別に数える

(5)「同僚」は、どんな関係に着目した語ですか。
ア　同じ趣味で知り合った　　イ　親子やきょうだいである
ウ　同じ場所に偶然集まった　　エ　同じ職場や仕事の仲間である

(6)「相互」の「互」に近い働きはどれですか。
ア　一方だけが行う　　イ　双方が互いにそうする
ウ　ほかの人を全て除く　　エ　自分の前の世代へ戻る

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　派閥　個性　親族　他者　大衆　学派　相互
同盟　皆勤　群衆　個人　連盟　民族　個別

文	解答	文	解答
(1) 集団の一員である□□の意見も聞いた。		(8) 共通の目的のため、約束して□□を結んだ。	
(2) その人らしい特徴である□□を作品に生かした。		(9) 複数の団体が協力し、一つの□□を作った。	
(3) 一人ずつ対応を変える□□の相談を行った。		(10) 同じ考え方を基に研究する□□の説を比べた。	
(4) 駅前に集まった□□が道を空けた。		(11) 組織の中で利害などにより結びついた□□を調べる。	
(5) 一般の多くの人々という□□に向けた雑誌を作る。		(12) 一年間一日も休まない□□の記録を続けた。	
(6) 血縁や結婚などのつながりを持つ□□だ。		(13) 互いを知ろうとする□□の理解を深めた。	
(7) 言語や文化などに共通点を持つ□□について学ぶ。		(14) 自分以外の人である□□の立場も考えた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「家族」と「同僚」の使い方に合うものを選びなさい。

家族として暮らす二人は、同じ会社の同僚でもある。

ア　二人には、暮らしと仕事に関わる二つの関係がある。
イ　家族になると、同僚という関係は必ずなくなる。
ウ　同僚なら、必ず同じ家に住む。
エ　仕事の話をするときだけ、家族と呼ぶ。

（2）この「群衆」と「大衆」の説明に合うものを選びなさい。

広場の群衆を撮った写真を、大衆向けの雑誌に載せた。

ア　前者は雑誌の全読者、後者は写真の中の家族。
イ　どちらも、同じ会社に勤める人だけ。
ウ　前者はその場の集まり、後者は一般の多くの人々。
エ　どちらも、撮影した一人の人だけ。

（3）「皆」がどの範囲を指すか、適切に読んだものを選びなさい。

当日会場にいた五人は、皆その写真に写っている。

ア　町に住む人が、全員写っている。
イ　会場に来られなかった人も、写っている。
ウ　写真に写った人は、全員同じ意見だ。
エ　当日会場にいた五人の、全員が写っている。

（4）「我々」と「彼ら」の読み方として適切なものを選びなさい。

一組の生徒が「我々は教室に残り、彼らは校庭へ行く」と話した。

ア　我々はどの文でも全校生徒を指す。
イ　話す人が含まれる側と、話す人が区別した相手側を表す。
ウ　彼らは、必ず話す人の敵を表す。
エ　二語は、人数が多いか少ないかだけで分かれる。

（5）「同僚」を使い、どんな仕事上の関係かが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「互い」を使い、双方が何をするかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 父の父である**ソフ**に、昔の話を聞いた。	
(2) 年の違う**キョウダイ**で、交代しながら道具を使った。	
(3) 夫と妻の二人を、改まって**フサイ**と呼んだ。	
(4) 多くの島が集まる**グントウ**の地図を開いた。	
(5) 広く一般の人々が使う**コウシュウ**電話を調べた。	
(6) 一緒に暮らす**カゾク**と、夕食の準備をした。	
(7) 同じ志で結ばれた**メイユウ**と、長く協力した。	
(8) 書道の異なる**リュウハ**の作品を比べた。	
(9) 同じ学校の出身者で結びつく**ガクバツ**について読んだ。	
(10) 遠く向こうの**カナタ**に、山が見えた。	
(11) 話している自分たちを、**ワレワレ**と呼んだ。	
(12) 自分の利益だけを優先する**リコ**的な判断を見直した。	
(13) 新入生の前で**ジコ**紹介をした。	
(14) 地域の人が助け合う**ゴジョ**の仕組みを作った。	
(15) 別の学校である**タコウ**の生徒とも、意見を交わした。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 皆無	(17) 婦人	(18) 祖先	(19) 孫弟子	(20) 父兄

この回を終えたら もう一度確かめる

人をまとめる言葉が、どの範囲を指すかを確かめましょう。
同じ集団の人にも、複数の関係や一人ずつの名前があります。

七　文章の中で考えよう

写真の外の名前

台紙の角は、何度も触ったせいか丸くなっていた。直人は祖父の古い写真を、学校の展示に使おうとしていた。祭りの群衆、店先の人たち。その中に、祖父が大勢と並んだ一枚がある。

「家族写真かな。」
祖母は笑った。「夫の兄はいるけれど、ほかは職場の同僚や写真の仲間だよ。」

台紙には「白波写真連盟・夏の会」とある。二つの写真会が協力して作った連盟だ。夫婦で来た人もいて、祖父の隣の女性は同僚の妻だという。直人は、皆親族だと書いたメモを消した。

祖父は白黒写真を好み、友人はカラー派だった。違う好みでも、一緒に撮っていたのだ。写真の好みと、出身や利害で結びつく派閥は同じではない。この一枚で、仲間の関係を全て決めることはできなかった。

当時の会報を開くと、太い文字があった。
「我々の写真を大衆へ。」

誰が書いたのかは分からない。会報が「彼ら」と呼ぶ人も、別の写真では撮る側に回っている。自己と他者を分ける言葉も、話す人や場面によって指す人が変わった。直人は会報を閉じ、写真の下に「皆で並んだ記念写真」と書いた。

「私は、そこにいないね。」
言われて端まで見たが、祖母の顔はない。孫の直人は、その日、家で待っていたのかと聞いた。祖母は台紙を裏返した。

「この写真を撮ったのは私。」
裏に「撮影・佐原静江」とある。表には参加した「婦人たち」とまとめた古い説明もあるのに、撮影者の個人名は裏側に小さく記されていた。祖父は「あの日、三脚を支えたのは僕」と言った。二人は互いを見て、少し笑った。

直人は、自分が書いた「皆」に線を引いた。祖母は、祖父の妻で撮影者でもある。
「名前も載せていい？」
「いいよ。名前の字は、こう書くの。」
祖母は、一字ずつ指でなぞって見せた。

展示には、台紙の裏の写真も添えよう。祖父たちが笑う一枚の横に、今まで見えなかった小さな文字が並ぶ。直人は、説明を書く紙をもう一枚出した。

写真・人物・連盟・会報は本教材のための創作です。「婦人たち」は、物語内の古い説明の表現です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）夫と妻の二人を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）子や孫など、後の世代の人々を表す「シソン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「親族」の意味として適切なものを選びなさい。

ア　同じ写真を好む人だけ。
イ　同じ職場で働く人だけ。
ウ　同じ会場にいた人だけ。
エ　血縁や結婚などでつながる人々。

（4）写真と台紙から言えることを選びなさい。

ア　祖母が写らないのは、撮影した側にいたためだ。
イ　祖母は家で待っていたので、裏に名だけ書いた。
ウ　写っている人は、全員が祖父の親族である。
エ　祖母は撮影者なので、祖父の妻という関係はない。

（5）直人が「皆」に線を引いたことをどう読みますか。
祖母の言葉と台紙の裏を根拠に、45〜55 字で書きなさい。

（6）展示に添える説明を、「個人」「同僚」を使って 70〜90 字で書きなさい。写る人々の関係と、写真の外にいた撮影者を紹介します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十二回　人と集団

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　個人は一人の人そのもの、個性はその人に特有の性質や特徴に着目する。集団の中にも一人一人の個人がいる。

（2）イ　一か所に集まった多くの人々。集まる人の目的や関係まで、同じとは限らない。

（3）ア　共通の目的のために約束して協力すること。ほかの考えや立場も同じとは限らない。

（4）ウ　出身や利害、立場などによる結びつきに関わる。好みが一つ違うだけで、必ず派閥があるとは言えない。

（5）エ　同じ職場や仕事の仲間。仕事が同じでも、全ての意見や暮らしまで同じとは限らない。

（6）イ　互いに関わること。相互理解なら、一方だけが理解するのでなく、互いの理解に着目する。

四　熟語を広げよう

（1）個人　（2）個性　（3）個別　（4）群衆　（5）大衆

（6）親族　（7）民族　（8）同盟　（9）連盟　（10）学派

（11）派閥　（12）皆勤　（13）相互　（14）他者

（4）はその場に集まった人々、（5）は社会の多くの一般の人々。（8）（9）は共通の目的で協力する結びつきに関わる。（12）の皆勤は、一定の期間、一日も休まず出席すること。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　同じ人どうしにも、複数の関係がある。一人を一つの関係だけに固定しない。

（2）ウ　実際に広場に集まる人々と、広く一般の読者を分けている。大衆はそのとき同じ場所にいなくてもよい。

（3）エ　この文の皆は、当日会場にいた五人を指す。全てを表す語も、何の全てなのかを確かめる。

（4）イ　誰が話すかによって指す範囲は変わる。我々・彼らという呼び分けだけから、賛否や人間関係まで決められない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

同じ窓口を担当する同僚と、来週の勤務予定を確かめた。

☆自分で確かめる点　同じ職場や仕事の仲間という関係を示したか。

（6）解答例

互いの説明を読み合い、分かりにくかった部分を質問した。

☆自分で確かめる点　一方だけでなく、双方の関わりが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）祖父　（2）兄弟　（3）夫妻　（4）群島　（5）公衆

（6）家族　（7）盟友　（8）流派　（9）学閥　（10）彼方

（11）我々　（12）利己　（13）自己　（14）互助　（15）他校

（16）かいむ　（17）ふじん　（18）そせん　（19）まごでし　（20）ふけい

（3）夫妻は、夫と妻の二人を表す改まった語。（11）我々は、話す人を含む自分たち。（13）は下線の「ジコ」だけを書く。（20）父兄は、父や兄、また保護者を指す語として使われる。

七　文章の中で考えよう

（1）夫婦　夏の会に夫婦で来た人もいたことが語られている。写真に写る人の関係は、親族や同僚、写真仲間など、一種類ではない。

（2）子孫　子や孫、さらにその後の世代の人々。「孫」は本文で、直人と祖母たちとの関係にも使われている。

（3）エ　血縁や結婚などによるつながり。写真に並ぶことだけで、親族とは決められない。

（4）ア　祖母自身の言葉と、台紙の裏の撮影者名が根拠。撮影者と妻は両立する関係であり、一方になれば他方が消えるわけではない。

七　記述問題の考え方

（5）　写真の「皆」を見直す 45〜55 字

（5）解答例　53 字

祖母は写真に写らず撮影した側にいて、裏に名も残っており、並んだ人だけを皆とすると、その働きを見落とすから。

（5）別解例　53 字

皆が並んだという説明では、写真を撮った祖母を含められず、裏に記された名前や、その人の役目が伝わらないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 祖母は写る側でなく、撮影する側にいたと捉えたか。

② 台紙の裏の名前を、根拠として含めたか。

③ 参加した人を、写真に写る人だけに限る説明を見直しているか。

祖母が意図的に仲間外れにされたとは、本文だけでは言えない。直人の驚きや、撮影者も紹介したい気持ちを含めてもよい。

（6）　関係と撮影者を伝える展示文 70〜90 字

（6）解答例　86 字

白波写真連盟の夏の会で撮った一枚です。祖父の兄や同僚、写真仲間が並び、全員が親族ではありません。撮影者の個人名は台紙の裏にあります。写る人の外にいた佐原静江が撮影しました。

（6）別解例　84 字

祖父の兄、職場の同僚、写真の仲間などが並ぶ、白波写真連盟の夏の会の記念写真です。撮ったのは祖父の妻、佐原静江でした。裏に小さく残る個人の名前も、写真と一緒に紹介します。

☆（6）自分で確かめる点

①「個人」「同僚」を使い、人々の関係を伝えたか。

② 集合写真を、全員が親族だと説明していないか。

③ 写っていない撮影者、佐原静江の名や役目を示したか。

並んだ全員の名前は不明なので、推測して足さない。「祖父の妻」と「撮影者」は同じ人の異なる関係や役目として両方示せる。

漢字から文章へ 第二冊

第十三回

時間と時期

一分の映画に、誰も話さない七秒があります。
短く切ってしまうか。それとも、このまま残すか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

秒	暦	頃	暫
時間を測る単位	日や月を数える	ある時期	しばらくの間

瞬	旬	晩	暁
ごく短い時	月の区切りや盛り	夜や遅い時期	夜明けや実現した時

いっしょに覚える漢字

春	夏	秋	冬	季	昨
翌	未	既	昔	暗	明

この回で読むお話

消さなかった七秒

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
秒	ビョウ	時間の単位／一分の六十分の一 秒・秒針・秒速	瞬	シュン またたく	またたくほど短い時 瞬間・一瞬・瞬時
暦	レキ こよみ	日や月や年を数え、示すもの 暦・西暦・旧暦	旬	ジュン シュン	月を三つに分けた期間／盛りの時期 上旬・中旬・旬
頃	ころ	ある時期／ちょうどよい時 頃・日頃・頃合い	晩	バン	夜／時期の遅い頃 今晩・晩秋・晩年
暫	ザン	しばらく／一時的に 暫時・暫定・暫定的	暁	ギョウ あかつき	夜明け／実現した時 暁・暁天・成功の暁

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
春	シュン はる	はる 春・春分・青春	翌	ヨク	ある時の次の時 翌日・翌年・翌朝
夏	カ なつ	なつ 夏・夏季・初夏	未	ミ	まだそうでない 未定・未来・未完成
秋	シュウ あき	あき 秋・秋分・晩秋	既	キ すでに	もうそうなっている 既に・既定・既読
冬	トウ ふゆ	ふゆ 冬・冬季・越冬	昔	セキ むかし	以前の時 昔・昔話・昔日
季	キ	時期の区切り 季節・四季・季語	暗	アン くらい	くらい／はっきり見えない 暗い・暗記・暗示
昨	サク	現在より一つ前の時 昨日・昨年・昨夜	明	メイ ミョウ あかるい	明るい／はっきりする 明るい・夜明け・説明

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「秒」が表すものを選びなさい。
ア　一年を分ける季節　　イ　時間を測る単位
ウ　まだ決まらない予定　　エ　日付を並べた表

(2)「西暦」の「暦」に関わる説明を選びなさい。
ア　日や月や年を数え、示す　　イ　必ず夜だけを表す
ウ　時間を速く進める　　エ　季節をなくす

(3)「暫定」の説明を選びなさい。
ア　永久に変更しないこと　　イ　何も決めていないこと
ウ　昔のことだけを指すこと　　エ　ひとまず仮に決めておくこと

(4)「一瞬」の「瞬」に近い意味を選びなさい。
ア　毎年同じ季節　　イ　月の最後の期間
ウ　またたくほど短い時　　エ　夜明けまでの全時間

(5)「旬」の意味がほかと違うものを選びなさい。
ア　四月上旬　　イ　魚が旬を迎える
ウ　六月中旬　　エ　九月下旬

(6)「翌朝」が指す時を選びなさい。
ア　必ず今朝のこと　　イ　必ず昨日の朝
ウ　全ての年の最初の朝　　エ　話題になっている日の次の朝

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　早春　翌朝　上旬　日頃　晩年　未定　秒針
下旬　暗転　頃合い　西暦　昨年　晩秋　冬季

文	解答	文	解答
(1) 時計の□□が一周すると、一分が過ぎる。		(8) 冬の時期を指す□□の催しを調べた。	
(2) 年を数える方法の一つ、□□で書かれた年表だ。		(9) 二十一日から月末までの□□に仕上げる。	
(3) □□からの積み重ねが、本番で力になった。		(10) 秋も終わりに近い□□の景色を描いた。	
(4) 湯の温度を確かめ、飲む□□□を見計らう。		(11) 長い人生の終わりに近い□□の作品を調べる。	
(5) 舞台が暗くなる□□の間に、次の場面の道具を替えた。		(12) 今年の一つ前の年、□□の記録を読む。	
(6) 春の初めである□□の花を探した。		(13) 話題にした日の次の朝である□□に届く。	
(7) 一か月の一日から十日までを□□という。		(14) まだ決まっていない□□の部分を残した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「暫定」と「未定」を正しく読んだものを選びなさい。

会場は体育館で暫定とし、開始時刻は未定とする。

ア　会場も時刻も正式に決まった。
イ　会場は何も決まらず、時刻だけ仮に決まった。
ウ　会場は仮に決めたが、時刻はまだ決まっていない。
エ　体育館は会場の候補から外れた。

（2）「昨年」と「翌年」の基準に合うものを選びなさい。

二〇二六年に「昨年の会で決め、翌年に実施した」と、二〇二五年の会について話した。

ア　会は二〇二五年、実施は二〇二六年。
イ　会も実施も二〇二五年。
ウ　会は二〇二六年、実施は二〇二七年。
エ　昨年も翌年も、常に二〇二四年。

（3）この二つの「暁」の使い方に合うものを選びなさい。

暁の空を撮影し、作品が完成した暁には上映会を開く。

ア　どちらも日没だけを表す。
イ　どちらも昨日だけを表す。
ウ　前者は完成、後者は日付の未定。
エ　前者は夜明け、後者は実現した時。

（4）「頃」の働きを適切に読んだものを選びなさい。

三時頃に集まり、三時五分ちょうどに録音を始める。

ア　どちらも一秒まで正確な同じ時刻。
イ　集合はおよその時刻、録音開始は特定の時刻。
ウ　集合時刻は全く決まっていない。
エ　録音は必ず三時より前に始まる。

（5）「翌日」を使い、何の日を基準にするかが分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「暫定」を使い、ひとまず何を決めたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 一秒間に進む距離で示す速さを、**ビョウソク**という。	
(2) 日付を確かめるため、壁の**コヨミ**を見た。	
(3) 今日の一日前を、**サクジツ**と呼んだ。	
(4) 今日の夜、**コンバン**は星を見よう。	
(5) 花火の光が、**イッシュン**だけ空を照らした。	
(6) 夏の真っ盛りである**マナツ**の暑さだ。	
(7) まだ仕上がっていない**ミカンセイ**の模型を見せた。	
(8) 相手が読んだことを示す**キドク**の印が付いた。	
(9) 春夏秋冬という**シキ**の移り変わりを描く。	
(10) 祖母から、地域に伝わる**ムカシバナシ**を聞いた。	
(11) 夜が明ける**アカツキ**の空を描いた。	
(12) 画面の明るい所と暗い所の**メイアン**を比べた。	
(13) 二〇二五年に植えた木が、その**ヨクネン**に花を付けた。	
(14) しばらくの間という意味の**ザンジ**という語を学んだ。	
(15) 春の終わりに近い**バンシュン**の風景を描いた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 旧暦	(17) 日暮れ	(18) 初夏	(19) 晩夏	(20) 未明

この回を終えたら もう一度確かめる

時期の幅や、基準になる日を確かめましょう。
仮に決めたことと、まだ決まっていないことも分けて読みます。

七　文章の中で考えよう

消さなかった七秒

　陸が最後の場面を外すと、画面の端に「五十三秒」と出た。指が再生のキーへ移る。
「これで完成でもよくない？」
千帆は「一回、止めて」と言った。見直すために持ってきたお茶は、もう冷めていた。

　町の映画会に出す、一分の作品だった。題は「バス停の四季」。同じベンチから、春の花、夏の夕立、秋の落ち葉、冬の白い息を撮った。昨年の冬から集めた素材をつなぎ、季節が一瞬で変わるようにする。暁の暗い空が明るくなる映像だけは、町の撮影スタッフから借りた。

　壁の暦には十月二十日に丸がある。募集の紙にある「十月中旬まで」の、最後の日だ。上映順は未定ではなく、既に仮の順番がある暫定だと聞いた。正式な順番は翌日知らせるという。その晩、二人は仕上げの編集をしていた。

　外したのは、子どもがバスを待つ場面だ。七秒間、誰も話さない。風の音だけがする。
「何も起きないから、短くしてもよくない？」

　千帆も初めはそう思った。残りの場面は合わせて五十三秒。七秒を残せば、ちょうど一分になる。けれど、長さを合わせるためだけに残すのも違う気がした。

　もう一度、再生した。子どもは靴の先を揺らし、音のした方を見て、また道路へ目を戻す。千帆も、つられて道路の先を見た。バスの来る頃を待っているのだろう。昔からある停留所の屋根には、影がゆっくり動いていた。

　「ここまで速く切り替えると、待っている感じも消えるね。」
千帆の言葉に、陸は七秒を残した版と、切った版を続けて見せた。短い方が見やすい人もいそうだ。二人は、すぐには決められなかった。

　それでも、今回は待つ人の時間も映したい。七秒は、残すことにした。

　上映前、小学生の弟に見てもらった。風の音の途中で、弟が「バス、まだ？」と言う。陸の指が、机の上で止まった。最後まで見た弟は、今度は二人に尋ねた。
「この続き、撮ってないの？」

人物・映画会・作品は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）一か月の十一日から二十日までの期間を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ごく短い時を表す「シュンカン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）「季節が一瞬で変わるようにする」の読み方として適切なものを選びなさい。

ア　一年の季節が、実際に一秒で全部過ぎた。
イ　別の時期の映像をつなぎ、季節が短い間に変わって見える。
ウ　七秒間、バスが速く走る場面を撮った。
エ　季節の変化を見せるため、弟の声を録音した。

（4）二人の判断を適切に読んだものを選びなさい。

ア　どんな映画も、一分にしなければ面白くないと決めた。
イ　七秒には人が映らないので、全て切ることにした。
ウ　弟の発言を聞いてから、初めて編集の二つの版を作った。
エ　二つの版を比べ、今回は待つ感じを残すことを選んだ。

（5）七秒を残した映像について、弟の「バス、まだ？」という言葉をどう読みますか。本文を根拠に、45〜55 字で書きなさい。

（6）上映前に読む作品紹介を、「時期」「瞬間」を使って 70〜90 字で書きなさい。作品の内容と、七秒を残した意図を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十三回　時間と時期

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　一分の六十分の一という時間の単位。
長いと感じるか短いと感じるかとは別に、長さを測る。

（2）ア　日や月や年を数えて示すことに関わる。
どの年を起点とするかなど、数え方にも違いがある。

（3）エ　正式に決めるまでなどの間、ひとまず決めておくこと。
まだ決まっていない未定とは異なる。

（4）ウ　またたくほど短い時間を表す。いつの時期かよりも、その短さに着目する。

（5）イ　魚の旬は、味などが最もよい盛りの時期。
上旬・中旬・下旬は、月を三つに分けた期間を表す。

（6）エ　ある日の次の朝。どの日が基準になっているか、前後の文から確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）秒針　（2）西暦　（3）日頃　（4）頃合い　（5）暗転
（6）早春　（7）上旬　（8）冬季　（9）下旬　（10）晩秋
（11）晩年　（12）昨年　（13）翌朝　（14）未定

（4）は「頃合い」の送り仮名も書く。（5）は舞台を暗くして場面を替えること。（6）は春の初め、（8）は冬の時期。（9）の下旬は二十一日から月末までで、月によって日数が違う。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　会場にはひとまずの決定がある。
開始時刻はまだ決まっていない。正式決定済みだと読み替えない。

（2）ア　昨年は話している二〇二六年の前年。
ここで翌年の基準になるのは、その二〇二五年の会である。

（3）エ　暁には夜明けのほか、物事が実現した時という使い方もある。前後の語から確かめる。

（4）イ　頃は、およその時刻や時期を表す。ここでは集合と開始の指定の細かさが違う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

映画を見に行った翌日、心に残った場面を友達と話した。

☆自分で確かめる点　基準になる日と、その次の日の出来事を結んだか。

（6）解答例

参加人数が決まるまで、座席の配置を暫定の案として示した。

☆自分で確かめる点　正式決定ではなく、仮の決定だと分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）秒速　（2）暦　（3）昨日　（4）今晩　（5）一瞬
（6）真夏　（7）未完成　（8）既読　（9）四季　（10）昔話
（11）暁　（12）明暗　（13）翌年　（14）暫時　（15）晩春
（16）きゅうれき　（17）ひぐれ　（18）しょか　（19）ばんか　（20）みめい

（2）の暦は「こよみ」、（11）の暁は「あかつき」。（14）暫時は、しばらくの間。（15）晩春は春の終わりに近い時期で、夜のことではない。（20）未明は夜が明けきらない頃。

七　文章の中で考えよう

（1）中旬　十一日から二十日までを指す。提出日の十月二十日は、その最後の日に当たる。

（2）瞬間　とても短い一つの時。作品では、季節が一瞬で変わる編集とも対比されている。

（3）イ　異なる時期の映像をつなぐ編集で、短い間に季節が変わって見える。実際の一年が一瞬で過ぎたわけではない。

（4）エ　短い版にもよさがあるかもしれないと考えた上で、今回の目的に合わせて選んだ。弟の発言はその後である。

七　記述問題の考え方

（5）　弟の言葉を読む 45〜55 字

（5）解答例　49 字

子どもが道路を見ながら待つ七秒が残ったことで、弟も映像の子と一緒にバスを待つように感じたと読める。

（5）別解例　50 字

何も起きないように見えた七秒にも、子どもの動きや風の音があり、弟に待つ時間を感じさせたと考えられる。

☆（5）自分で確かめる点

① 弟の言葉を、バスを待つ映像と結びつけたか。

② 七秒の動きや音、待つ時間などを根拠にしたか。

③ 弟の気持ちを、本文から考えられる読みとして述べたか。

続きが気になった、バスが早く来てほしいと感じたなどの読みもよい。「何も起きない」という陸の最初の見方を見直してもよい。

（6）　上映前の作品紹介 70〜90 字

（6）解答例　87 字

同じバス停を、春から冬まで異なる時期に撮った一分の映画です。季節が変わる瞬間のほかに、子どもがバスを待つ七秒も残しました。風の音を聞きながら、待つ時間も一緒に感じてください。

（6）別解例　83 字

異なる時期に、同じベンチから撮った四季の映像をつなぎました。季節が変わる瞬間もありますが、最後は七秒をかけてバスを待ちます。子どもの小さな動きにも目を向けてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「時期」「瞬間」を使ったか。「一瞬」への置き換えだけにはしない。

② 同じバス停の四季を撮った作品だと伝えたか。

③ 待つ感じも映したいという、七秒を残した意図を説明したか。

紹介の呼びかけ方は自由。実際には本文中の弟にだけ試写しており、全ての人が同じように感じるとは言い切らない。

漢字から文章へ 第二冊

第十四回

自然の変化

白くかすんだ町の写真に、説明をつけることになりました。
霧でしょうか。煙でしょうか。写真の外にも手がかりはありそうです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

雲	霧	露	雷
空の水滴や氷	地表近くの水滴	表面につく水滴	放電による光や音

震	凍	凝	乾
揺れ動く	氷になる	固まる 集める	水分が少なくなる

いっしょに覚える漢字

湿	暖	寒	暑	涼	煙
炎	災	害	砂	粉	泥

この回で読むお話

白い写真に足りないもの

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
雲	ウン くも	空に浮かぶ細かな水滴や氷の集まり 雲・雲海・暗雲	震	シン ふるえる ふるう	揺れ動く／揺り動かす 震える・地震・震動
霧	ム きり	地表近くに細かな水滴が浮かぶ現象 霧・濃霧・霧雨	凍	トウ こおる こごえる	氷になる／ひどく冷える 凍る・凍結・冷凍
露	ロ ロウ つゆ	水滴として物の表面につく水分／表す 露・朝露・結露	凝	ギョウ こる こらす	固まる／一つに集める 凝固・凝結・凝視
雷	ライ かみなり	雲の中などの放電による光や音 雷・雷鳴・落雷	乾	カン かわく かわかす	水分が少なくなる／なくする 乾く・乾燥・乾季

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
湿	シツ しめる しめす	水分を含む／水分を含ませる 湿る・湿気・湿度	炎	エン ほのお	燃え上がる火 炎・火炎・炎上
暖	ダン あたたかい	暖かい 暖かい・暖気・暖房	災	サイ わざわい	人を苦しめる出来事 災い・災害・防災
寒	カン さむい	さむい 寒い・寒気・寒波	害	ガイ	傷つける／損なう 害・被害・有害
暑	ショ あつい	気温が高い 暑い・猛暑・残暑	砂	サ すな	細かな石の粒 砂・砂浜・砂漠
涼	リョウ すずしい	ほどよく冷たい 涼しい・涼風・清涼	粉	フン こ こな	細かな粒／細かくする 粉・粉末・花粉
煙	エン けむり けむる	燃焼などで生じ、空気中に漂うもの 煙・煙突・白煙	泥	デイ どろ	水を含んだ土 泥・泥水・泥沼

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「霧」の説明に合うものを選びなさい。
ア　物の表面だけに付く水滴　　イ　燃えて立ち上る炎
ウ　地表近くの空気中に浮かぶ細かな水滴　　エ　地面を覆う乾いた砂だけ

(2)「結露」の「露」が関わるものを選びなさい。
ア　物の表面に付いた水滴　　イ　雲の中の放電
ウ　地面の揺れ　　エ　燃え上がる火

(3)「地震」と「震動」に共通する「震」の働きを選びなさい。
ア　水分がなくなる　　イ　材料を燃やす
ウ　水を氷にする　　エ　揺れ動く

(4)「凍結」の説明を選びなさい。
ア　水分が全て蒸発すること　　イ　水などが冷えて凍ること
ウ　必ず火が出ること　　エ　空が必ず曇ること

(5)「凝視」の「凝」に近い働きを選びなさい。
ア　液体を必ず凍らせる　　イ　物を粉にする
ウ　視線や注意を一つに集める　　エ　気温を測る

(6)「乾燥」と「湿気」に合う説明を選びなさい。
ア　どちらも水分が全くない　　イ　どちらも気温の高さだけを表す
ウ　前者は揺れ、後者は放電　　エ　前者は水分が少なくなること、後者は湿り気

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　煙突　乾燥　冷凍　雷鳴　花粉　湿度　暗雲
被害　凝固　地震　暖房　濃霧　凝結　砂浜

文	解答	文	解答
(1) 山あいに立ちこめる濃い□□で先が見えない。		(8) 水蒸気が水滴になる□□を図に表した。	
(2) 雨が来そうな黒い雲、□□が空を覆った。		(9) 建物の上に伸びる□□から煙が出ていた。	
(3) 雷の大きな音である□□が聞こえた。		(10) 洗った布の水分を減らす□□の作業をした。	
(4) 地面が揺れる□□を想定した訓練だ。		(11) 空気の湿り具合を示す□□を測った。	
(5) 砂が広がる海辺の□□を歩いた。		(12) 部屋を暖める□□の器具を選ぶ。	
(6) 食品を凍らせて保管する□□の設備を調べる。		(13) 花から出る細かな粒である□□を調べる。	
(7) 液体が固体になる□□という変化を学ぶ。		(14) 災害による損失や影響、□□の様子を記録する。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「霧」と「露」の違いを適切に読んだものを選びなさい。

地表近くに霧が立ちこめ、葉の表面には露が付いている。

ア　前者も後者も葉の表面だけにある。
イ　前者は空気中、後者は葉の表面にある。
ウ　前者は必ず氷、後者は必ず砂である。
エ　露があれば、必ず雷も発生する。

（2）この「凍結」と「凝固」の説明に合うものを選びなさい。

水が冷えて氷になった。この変化を凍結とも、凝固とも説明した。

ア　同じ変化には二つの語を使えない。
イ　凝固は気体になることだけを表す。
ウ　凍結は水がなくなることだけを表す。
エ　同じ変化を、二つの語で捉えている。

（3）「暖かい」と「暑い」を適切に読んだものを選びなさい。

外から来た私は暖かいと感じたが、走ってきた友人は暑いと言った。

ア　同じ場所でも、感じ方や直前の行動が違うことがある。
イ　二人は必ず別の建物にいる。
ウ　友人の言葉は必ず誤りである。
エ　二人の言葉だけで正確な気温が分かる。

（4）「乾燥」と「枯れる」を適切に読んだものを選びなさい。

洗った布が乾燥した。庭の木が枯れたかどうかは、別に調べる。

ア　乾燥は植物にしか使わない。
イ　布が乾燥したら、庭の木も必ず枯れる。
ウ　前者は布の水分、後者は木の状態に関わる。
エ　二つはどの文でも全く同じ意味である。

（5）「湿る」を使い、何がどのような状態かを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「凝視」を使い、何をじっと見たかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 細かな雨が降る**キリサメ**の朝だった。	
(2) 朝、草の葉に付いた**アサツユ**が光っていた。	
(3) 雷が地上に落ちる**ラクライ**を題材にした絵だ。	
(4) 大きな音に驚き、肩が**フル**えた。	
(5) 水たまりが**コオ**って、氷が張った。	
(6) 暗い方へ目を**コ**らすと、小さな文字が見えた。	
(7) 雨の少ない季節である**カンキ**の写真を見た。	
(8) 水分を含んだ**シッケ**のある空気だ。	
(9) 強い寒さをもたらす**カンパ**の記録を読む。	
(10) 立秋を過ぎても続く暑さを、**ザンショ**という。	
(11) 木陰に入ると、風が**スズ**しい。	
(12) 画家は、燃え上がる**ホノオ**を赤く描いた。	
(13) 細かい粉にした**フンマツ**を、容器に入れた。	
(14) 土が混じって濁った**ドロミズ**が、道にたまった。	
(15) 洪水などの**サイガイ**について、古い記録を読む。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 雲海	(17) 朝霧	(18) 涼風	(19) 寒暖	(20) 砂利

この回を終えたら もう一度確かめる

似た見え方でも、何がどこにあるかを確かめましょう。
見えたことと、まだ確かめていない原因を分けて説明します。

七　文章の中で考えよう

白い写真に足りないもの

白いかすみの向こうに、屋根が一つだけ浮いている。芽衣は古い写真を、窓からの光に向けた。展示の題は「町が白くなった日」。隣で仲間が「濃霧の朝」と鉛筆を走らせかけた。
「煙にも見えない？」

写真の裏には日付しかない。同じ箱からは、暑い日の雲、涼しい朝の露、雷の光が出てきた。寒い日の、凍結した池もある。芽衣は白い一枚を凝視した。炎は写っていない。それなら火災ではないと言えるだろうか。

白いから煙だ、ともまだ決められなかった。

二人は、写真の持ち主を訪ねた。机に並べると、その人は写真をすぐに持ち上げず、裏の日付から読んだ。昔から天気を撮り、湿度や気温を手帳に残していたという。

暖かい日や乾燥した日のページには、砂や粉じんで空がかすんだというメモがある。雨の後の泥の写真も挟まっていた。手帳の角は丸くなり、一枚めくるたびに小さな紙片が動く。白い写真の日には、次の記録があった。

持ち主の手帳の記録

時刻	記録
午前七時	細かな水滴が空気中に浮く。約百メートル先の建物が見えにくい。
午前八時	白いかすみが薄れ、建物が見えてきた。

「この写真も、七時に撮ったんだよ。」
手帳には撮影時刻もあった。空気中の水滴と、遠くが見えにくいという記録を写真に重ねると、霧と考えられそうだ。芽衣は、書きかけの説明をいったん裏返した。

近くの葉を撮った一枚には、丸い水滴が付いていた。これは朝露だという。同じ水滴でも、葉の表面に付くのと、空気中に浮くのとでは場所が違う。持ち主は、窓の結露の写真も出した。水蒸気が水滴になる凝結と、水が氷になる凝固は、区別して書くそうだ。

展示の最後には、地震で震えた棚や、災害の被害を写した写真も置く。「怖い日」と一枚の紙にまとめるつもりだったが、場所も日付も、起きたことも違っていた。二人は、それぞれに小さな説明用紙を用意した。

白い写真には、七時の記録も添えよう。芽衣が持ち主へ返すと、写真の向きがくるりと変わり、屋根が机の窓を向いた。いつか、この道を歩いた人の話も聞いてみたいと思った。

人物・写真・手帳の記録は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と手帳の記録を根拠にして答えなさい。

（1）物の表面に水滴が付く現象を表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）水などが冷えて氷になる「トウケツ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「朝露」の説明に合うものを選びなさい。

ア　葉の表面に付いた水滴。
イ　地面を揺らす力。
ウ　空気中に浮く砂だけ。
エ　空の中の放電。

（4）霧と考える手がかりとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　白い写真には、炎が写っていないことだけ。
イ　同じ箱に、池の凍結の写真もあること。
ウ　同日の撮影時刻に、空気中の水滴が記録されていること。
エ　展示の題に、町が白くなった日とあること。

（5）芽衣が写真だけですぐに「濃霧の朝」と書かなかった理由を、手帳との関係も含めて 45〜55 字で書きなさい。

（6）白い写真に添える説明を、「霧」「記録」を使って 70〜90 字で書きなさい。写真の見え方と、そう考える手がかりを示します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十四回　自然の変化

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　地表近くに細かな水滴が浮かび、見通しが悪くなる現象。気象の観測では、見通せる距離などの基準も用いる。

（2）ア　空気中の水蒸気が冷えた物の表面などで水滴になる。水蒸気そのものは目に見えない。

（3）エ　揺れ動くこと。震えるは、体などが揺れ動く場合にも用いる。

（4）イ　水などが冷えて氷になること。ここでは自然現象の意味。計画を凍結するという比喩的な使い方もある。

（5）ウ　一つに集める働き。凝固では固まることに関わる。同じ字でも熟語の中で確かめる。

（6）エ　乾燥と湿気は、水分に関わる語。暖かいか寒いかという温度の区別と混同しない。

四　熟語を広げよう

（1）濃霧　（2）暗雲　（3）雷鳴　（4）地震　（5）砂浜

（6）冷凍　（7）凝固　（8）凝結　（9）煙突　（10）乾燥

（11）湿度　（12）暖房　（13）花粉　（14）被害

（2）は雨などをもたらしそうな黒い雲。（5）は砂の広がる海辺、（9）は煙を外へ出す筒状のもの。

（7）は液体が固体になる変化、（8）は水蒸気などが液体になる変化に着目する。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　この文では、水滴のある場所が違う。

霧と露を、全く別の材料でできたものだとは捉えない。

（2）エ　凍結と凝固は意味が重なる場合がある。単語の違いだけから、別の出来事だと決めない。

（3）ア　感じ方を含む表現であり、同じ場所でも使う語が違うことがある。語だけから気温の数値は決められない。

（4）ウ　水分に関わることがあっても、同じ意味ではない。乾燥は布や空気などにも使う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

雨上がりの土が湿ると、乾いたときとは違う色に見えた。

☆自分で確かめる点　水分を含む状態が、対象とともに分かるか。

（6）解答例

写真の隅を凝視して、白く写っているものの形を確かめた。

☆自分で確かめる点　視線や注意を集めて見る様子を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）霧雨　（2）朝露　（3）落雷　（4）震　（5）凍

（6）凝　（7）乾季　（8）湿気　（9）寒波　（10）残暑

（11）涼　（12）炎　（13）粉末　（14）泥水　（15）災害

（16）うんかい　（17）あさぎり　（18）りょうふう　（19）かんだん　（20）じゃり

（4）は「震えた」、（5）は「凍って」、（6）は「目を凝らす」、（11）は「涼しい」とつながる。

（9）は寒波、（12）は炎。（20）砂利は、砂と小石、また小石を指す。

七　文章の中で考えよう

（1）結露　窓など、物の表面に水滴が付く現象。凝結は水蒸気が水滴になる変化を表す。

（2）凍結　凝固と意味が重なる場合もある。凍結は冷えて氷になることに着目する。
（3）ア　本文では、葉の表面に丸い水滴が付いている。霧では水滴が空気中に浮いている。
（4）ウ　同日の撮影時刻の記録なので、写真と照らせる。白く写ることや炎が見えないことだけでは、原因を決められない。

七　記述問題の考え方

（5）　写真と手帳を照らす理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

白い見え方だけでは霧か煙か決められず、同じ日の撮影時刻に残された水滴の記録も確かめる必要があったから。

（5）別解例　52 字

写真に炎が見えないだけでは煙を否定できず、霧と説明するには撮影した時刻の手帳の記録が手がかりになるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 写真の白い見え方だけで、原因を決めなかったと捉えたか。
② 同日同時刻の手帳が、判断を支えることを含めたか。
③ 写真に写らないことを、存在しない証明としていないか。

手帳も写真と照らして読む。記録があるから全て分かる、と広げる必要はない。

（6）　写真に添える説明 70〜90 字

（6）解答例　85 字

道路や屋根が白くかすんで見える写真です。撮影した日の午前七時の記録には、細かな水滴が空気中に浮くとあります。同じ時刻の手帳と写真を照らし、霧の朝を撮ったものと考えました。

（6）別解例　82 字

白くかすむ町を撮った一枚です。白い色だけで霧と決めたのではありません。撮影時刻と同じ午前七時の手帳に、空気中に浮く水滴の記録があり、霧と考える手がかりになりました。

☆（6）自分で確かめる点

①「霧」「記録」を使ったか。
② 写真の見え方と、同日同時刻の水滴の記録を示したか。
③ 写真と手帳を照らして考えたことが伝わるか。

八時にかすみが薄れた記録を補ってもよい。湿度や気温の数値は不明なので足さない。

漢字から文章へ 第二冊

第十五回

からだと状態

人体を紹介する人形劇で、肺が人気者になりました。
でも、舞台の裏から「待って」と声が上がります。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

胃	腸	肺	脳
食べ物を消化する	消化や吸収に関わる	酸素などを交換する	考えや体の調整

臓	膜	筋	肝
体内の器官	薄く覆う層	動かす組織やすじ	臓器や大切なところ

いっしょに覚える漢字

肩	腕	指	首	頭	毛
皮	息	呼	吸	疲	痛

この回で読むお話

肺役の長いせりふ

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
胃	イ	食べ物を一時的に蓄え、消化する器官 胃・胃腸・胃液	臓	ゾウ	体内にある器官 臓器・内臓・肝臓
腸	チョウ	消化や吸収などに関わる器官 腸・小腸・大腸	膜	マク	物の表面や内部を覆う薄い層 膜・鼓膜・網膜
肺	ハイ	空気と血液の間で酸素などを交換する器官 肺・肺活量・肺臓	筋	キン すじ	体を動かす組織／細長く続くもの 筋肉・筋力・筋道
脳	ノウ	考えることや体の調整に関わる器官 脳・頭脳・脳裏	肝	カン きも	肝臓／大切なところ 肝臓・肝心・肝要

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
肩	ケン かた	腕と胴をつなぐ部分 肩・肩幅・肩書	皮	ヒ かわ	物や体の表面をおおうもの 皮・皮膚・表皮
腕	ワン うで	肩から手まで／能力 腕・腕力・腕前	息	ソク いき	呼吸する空気／休むこと 息・休息・吐息
指	シ ゆび	手足の先の細長い部分 指・指先・指紋	呼	コ よぶ	声をかける／息を出す 呼ぶ・呼吸・呼応
首	シュ くび	頭と胴をつなぐ部分／中心 首・首筋・首都	吸	キュウ すう	中へ取り入れる 吸う・吸収・吸引
頭	トウ あたま	体の上の部分／最初 頭・頭痛・先頭	疲	ヒ つかれる	体や心の力が弱る 疲れる・疲労・疲弊
毛	モウ け	体や物の表面に生える細いもの 毛・毛髪・羽毛	痛	ツウ いたい	体や心がつらく感じる 痛い・頭痛・苦痛

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「胃」と「腸」の説明に合うものを選びなさい。
ア　どちらも食べ物の消化などに関わる器官　　イ　どちらも体の表面の毛だけ
ウ　どちらも頭の中の骨だけ　　エ　どちらも空気中の水滴

(2)「肺」の説明に合うものを選びなさい。
ア　食べ物を切る歯　　イ　腕を包む服
ウ　考えたことを記す紙　　エ　空気と血液の間で酸素などを交換する器官

(3)「脳裏」の「脳」に関わる使い方を選びなさい。
ア　皮の厚さを測る　　イ　心にある姿や記憶をいう
ウ　紙を折り畳む　　エ　物の重さを数える

(4)「膜」の意味に合うものを選びなさい。
ア　長い骨だけ　　イ　体の全ての器官の総称
ウ　表面や内部を覆う薄い層　　エ　気持ちを決める時刻

(5)「筋肉」と「筋道」の「筋」を適切に読んだものを選びなさい。
ア　どちらも必ず同じ体の部位だけ　　イ　前者は動かす組織、後者は物事のつながる順序
ウ　前者は空気、後者は臓器の名　　エ　後者は病名だけ

(6)「肝心」の「肝」に近い意味を選びなさい。
ア　手足の先　　イ　皮の表面
ウ　細い毛　　エ　大切なところ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　指先　臓器　胃痛　肝心　脳裏　疲労　鼓膜
肩幅　筋肉　頭脳　毛皮　胃腸　肝臓　筋力

文	解答	文	解答
(1) 胃と腸をまとめて□□の働きを調べた。		(8) 体を動かす組織である□□の模型を作る。	
(2) 胃の痛みを表す語、□□の使い方を学ぶ。		(9) 筋肉が力を出す能力、□□を測る方法を学ぶ。	
(3) 服を作るため、左右の肩の間の幅、□□を測る。		(10) 細かい糸を、指の先である□□でつかむ。	
(4) 体で一定の形と働きを持つ□□の一つが肺だ。		(11) 最も大切な□□の点を最後に確かめた。	
(5) 考える力の優れた人を優秀な□□と呼ぶ。		(12) 肝の字を使う臓器名、□□の位置を調べる。	
(6) 頭に浮かんだ景色が□□から離れなかった。		(13) 毛の付いた動物の皮、□□の手触りを確かめた。	
(7) 耳の中にある薄い膜、□□の図を見た。		(14) 体や心の力が弱る□□という語を使った。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「筋肉」と「筋力」の関係に合うものを選びなさい。

筋肉の模型を見た後、筋力という語の意味を調べた。

ア　模型を見ると、その人の筋力が数値で分かる。
イ　筋肉は気持ちだけ、筋力は皮だけを指す。
ウ　前者は組織、後者はその組織が力を出す能力。
エ　二つの語は、どんな文でも入れ替えられる。

（2）二つの「腕」の意味を適切に読んだものを選びなさい。

右の腕を動かして人形を操る。人形作りの腕も上がった。

ア　前者は体の部分、後者は技量。
イ　どちらも必ず同じ長さを表す。
ウ　前者は技量、後者は肩の痛み。
エ　後者は腕の位置が高くなることだけ。

（3）「内臓」と「臓器」を適切に読んだものを選びなさい。

内臓の模型の中から、肺という臓器を取り出して示した。

ア　肺は内臓には含まれない。
イ　内臓は必ず一つ、臓器は必ず全部を指す。
ウ　両方の語を同じ文に使うことはできない。
エ　体内の器官の集まりから、一つの器官を示している。

（4）この「肝心」の意味に合うものを選びなさい。

肝心なのは、大きな声より説明の正確さだ。

ア　肝臓の大きさだけを比べている。
イ　説明の正確さを大切な点としている。
ウ　肺の模型を作らないと決めている。
エ　声を全く出してはいけないと言っている。

（5）「筋道」を使い、説明の順序が分かる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「腕」を技量の意味で使い、一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 図鑑の、**イエキ**について書かれた項目を読んだ。	
(2) 人体図で、**ショウチョウ**の位置を確かめた。	
(3) 胸の中の**ハイ**を、紙の模型で表した。	
(4) **ノウナイ**で起こる働きについて、本で調べた。	
(5) 目の**モウマク**が描かれた図を見た。	
(6) 劇の話の展開を示す**スジガ**きを読み直した。	
(7) 準備で最も大切な点を、**カンヨウ**な点として示した。	
(8) 競技で一位になり、**シュイ**に立った。	
(9) 頭の痛みを表す**ズツウ**という語を学んだ。	
(10) 読書を通して、新しい知識を**キュウシュウ**した。	
(11) 長く歩いて**ツカ**れたので、少し休んだ。	
(12) 準備が足りなかったことを、強く**ツウカン**した。	
(13) 仕事の合間に、庭を歩いて**イキヌ**きをした。	
(14) 腕と手がつながる**テクビ**に、時計を巻いた。	
(15) 体の表面を覆う**ヒフ**の図を見た。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 胃袋	(17) 肩車	(18) 指図	(19) 首筋	(20) 皮肉

この回を終えたら もう一度確かめる

体の部分、働き、感じる状態を分けて確かめましょう。
体の語から広がった比喩的な使い方も、文の中で読みます。

七　文章の中で考えよう

肺役の長いせりふ

「僕が息を吸って、みんなへ酸素を届ける！」
奏が言うと、紙の肺が大きく膨らんだ。決まった、と思ったところで、舞台裏から声がした。
「それだと、肺だけで全部しているみたい。」

人体の働きを紹介する人形劇だった。奏は肩から紙の肺を下げ、腕を広げる。頭の白い帽子からは、毛糸の髪が垂れていた。首をかしげるだけで友達が笑うので、このせりふも大きく言えば、きっと受けると思っていた。

胃や腸、肝臓の人形も並ぶ。脳の役が司会をし、内臓という集まりの中にも、それぞれの臓器の働きがあると紹介する。声を掛けた陽太は、肺を動かす筋肉の役だ。薄い膜のように作った布を下で動かし、模型の膨らみを支えていた。表から姿は見えず、せりふもない。

奏は帽子を脱ぎ、台本を開いた。自分のせりふの横には、大きな丸が三つ付いている。

陽太の役の欄には、「布を動かす」とだけ書いてあった。

二人は資料を読み直した。肺では、空気中の酸素と、血液中の二酸化炭素が交換される。呼吸の動きには筋肉も関わり、酸素を全身へ運ぶのは血液だ。いくつもの働きを、肺一つのせりふにまとめてしまっていた。

「じゃあ、僕は何て言えばいい？」
「ここで酸素を血液に渡す、かな。」
奏は赤い線を引いた。陽太にも、布を動かす前の一言を加える。せりふの長さを同じにしたわけではないが、誰が何をするのかが見えるようになった。

模型の外側を覆う紙の皮を直し、指で細い糸を引く練習をした。引きすぎると、紙の肺が傾く。奏が押さえると、陽太が下から笑った。

台本には、疲労を感じる場面や痛みを訴える場面もある。けれど、それだけで病名を決める話にはしないと、最初に決めていた。肝心なのは、面白くするために、調べた働きを別のものにしてしまわないことだ。

次の練習。奏が肺を広げる前に、幕の下から陽太の声がした。客役の一年生が、下をのぞこうとする。奏は笑いそうになるのをこらえ、短くなった自分のせりふを言った。

人物・劇・模型は、本教材のための創作です。人形の動きは、人体の形や働きをそのまま再現するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）体の内部の器官をまとめて表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）空気を吸い、吐く働きを表す「コキュウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「肝心」の意味として適切なものを選びなさい。

ア　肝臓の位置だけ。
イ　声の大きさだけ。
ウ　非常に大切なこと。
エ　劇の長さの単位。

（4）台本の直し方を適切に読んだものを選びなさい。

ア　全員のせりふを、必ず同じ長さにそろえた。
イ　肺と筋肉と血液の働きが、分かるようにした。
ウ　肺が酸素を作るという説明を加えた。
エ　舞台裏の役を、全てなくすことにした。

（5）奏のせりふが短くなったことを、陽太の役の変化も含めて 45〜55 字で説明しなさい。

（6）劇の紹介文を、「呼吸」「筋肉」を使って 70〜90 字で書きなさい。台本を直した点と、見てほしいところを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十五回　からだと状態

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　胃と腸は消化などに関わる器官。名前は似た分類に入っても、それぞれの働きが全て同じとは限らない。

（2）エ　呼吸に関わる器官。肺が酸素そのものを作り出す、という意味ではない。

（3）イ　脳裏は心の中に思い浮かべることや記憶に関わる表現。脳という器官そのものを説明する文とは使い方が違う。

（4）ウ　薄い層。鼓膜や網膜のほか、シャボン玉の膜などにも使う。

（5）イ　筋肉では体の組織、筋道では物事のつながる順序や道理に関わる。
熟語全体で意味を確かめる。

（6）エ　非常に大切なこと。肝臓の肝から広がった使い方であり、肝心という語そのものが臓器を指すわけではない。

四　熟語を広げよう

（1）胃腸　（2）胃痛　（3）肩幅　（4）臓器　（5）頭脳
（6）脳裏　（7）鼓膜　（8）筋肉　（9）筋力　（10）指先
（11）肝心　（12）肝臓　（13）毛皮　（14）疲労

（3）は左右の肩の間の幅、（10）は指の先、（13）は毛の付いた動物の皮。（8）筋肉という体の組織と、（9）筋力という力を出す能力は、同じ語ではない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　体の組織そのものと、力を出す能力を分ける。
模型の見た目だけから、実際の人の筋力は測れない。

（2）ア　腕は体の部分にも、技量や能力にも使う。腕が上がるの意味は、前後から確かめる。

（3）エ　ここではまとめた模型と、その中の一つという関係。内臓と臓器を、互いに重ならない分類にはしない。

（4）イ　非常に大切な点を表している。大きな声が全く不要だ、という主張まで含める必要はない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

調べたことを順に並べ、理由の筋道が伝わる説明に直した。

☆自分で確かめる点　物事のつながる順序や道理に関わる使い方か。

（6）解答例

何度も人形を作るうちに、細かな部品を仕上げる腕が上がった。

☆自分で確かめる点　体の位置や長さでなく、技量を表したか。

六　短文で使ってみよう

（1）胃液　（2）小腸　（3）肺　（4）脳内　（5）網膜
（6）筋書　（7）肝要　（8）首位　（9）頭痛　（10）吸収
（11）疲　（12）痛感　（13）息抜　（14）手首　（15）皮膚
（16）いぶくろ　（17）かたぐるま　（18）さしず　（19）くびすじ　（20）ひにく

（6）は「筋書き」、（11）は「疲れた」、（13）は「息抜き」とつながる。（7）肝要は非常に大切なこと。（12）痛感は強く身にしみて感じること。語の練習であり、病名を決める問題ではない。

七　文章の中で考えよう

（1）内臓　劇では胃や腸、肺などを紹介している。臓器という語と意味が重なるが、ここではまとめて表す語を問う。

（2）呼吸　呼は息を出すこと、吸は中へ取り入れることにも関わる。

（3）ウ　非常に大切なこと。ここでは劇の面白さと、調べた働きの正確さに関わる。

（4）イ　最初のせりふは複数の働きを肺にまとめていた。修正は、全員のせりふを同じ量にするためではない。

七　記述問題の考え方

（5）　せりふと役の変化 45〜55 字

（5）解答例　55 字

肺だけにまとめた働きを見直し、奏は酸素を血液に渡すと述べ、陽太も筋肉として呼吸を支える働きを話すようになった。

（5）別解例　54 字

肺が全てをするようなせりふを直し、奏の役は短くなったが、陽太の筋肉の役にも言葉が加わり、働きの違いが見える。

☆（5）自分で確かめる点

① 最初のせりふが、肺に働きをまとめていたことを捉えたか。

② 奏のせりふの修正と、陽太の役の言葉を含めたか。

③ 単に、せりふの長さを平等にしたとは説明していないか。

短くなったことを役の軽視とは限らないと読むこともできる。人物の気持ちを足す場合は、本文の行動に結びつける。

（6）　劇の紹介文 70〜90 字

（6）解答例　86 字

肺だけで呼吸の全てをするように聞こえたせりふを、調べ直して変えました。肺が酸素を血液に渡す働きと、筋肉が呼吸の動きを支える働きを紹介します。舞台裏の声にも注目してください。

（6）別解例　83 字

人形劇で、呼吸に関わる働きを紹介します。肺にまとめた説明を、肺と筋肉、血液の働きが分かるように直しました。人形だけでなく、舞台裏で模型を動かす役の声も聞いてください。

☆（6）自分で確かめる点

①「呼吸」「筋肉」を使ったか。

② 肺だけに働きをまとめた説明を直したと伝えたか。

③ 舞台裏の役や声など、見てほしい具体的な点を含めたか。

人体の説明と、人形を操る仕掛けは同じものではない。劇の布や糸が、そのまま実際の人体にあるとは書かない。

漢字から文章へ 第二冊

第十六回

生活と物

店の皿には値札があり、隣の皿には別の札がありました。
そっくりでも、同じようには扱えないようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

皿	杯	箸	箱
物を載せる器	飲み物の器や数	挟んで取る道具	形のある入れ物
袋	札	帳	券
紙や布の入れ物	文字を書いた紙片	書き付けるもの	権利などを示す

いっしょに覚える漢字

窓	屋	階	館	宿	舎
店	商	品	貨	財	材

この回で読むお話

皿の横の小さな札

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
皿	さら	食べ物などを載せる平たい器 皿・小皿・皿洗い	袋	タイ ふくろ	布や紙などで作る入れ物 袋・紙袋・手袋
杯	ハイ さかずき	飲み物の器／飲み物などを数える語 杯・一杯・乾杯	札	サツ ふだ	文字などを書いた板や紙片 札・名札・値札
箸	はし	食べ物を挟んで取る道具 箸・菜箸・割り箸	帳	チョウ	紙を綴じたもの／書き付けるもの 手帳・台帳・帳簿
箱	はこ	底や側面があり、物を入れる容器 箱・木箱・宝箱	券	ケン	権利や資格などを示すもの 入場券・商品券・食券

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
窓	ソウ まど	光や風を取り入れる所 窓・窓口・車窓	店	テン みせ	品物などを売る所 店・書店・商店
屋	オク や	建物／店を表す 屋根・屋上・本屋	商	ショウ あきなう	品物を売り買いする 商売・商業・商人
階	カイ きざはし	建物の上下の区切り 階段・二階・段階	品	ヒン しな	形のある物／質 品物・商品・作品
館	カン やかた	多くの人が使う建物 図書館・会館・旅館	貨	カ	売買する品物／お金 貨物・貨幣・百貨店
宿	シュク やど	泊まる所 宿・宿泊・下宿	財	ザイ たから	価値のある物 財産・財政・文化財
舎	シャ	人が暮らしたり活動したりする建物 校舎・宿舎・駅舎	材	ザイ	物を作るもと 材料・木材・人材

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「一杯の茶」の「杯」が表す働きを選びなさい。
ア　紙を綴じる　　イ　値段を付ける
ウ　器に入れた飲み物を数える　　エ　建物の階を示す

(2)「箱」と「袋」の説明に合うものを選びなさい。
ア　どちらも必ず金属でできている　　イ　どちらも物を入れるが、形や材料に違いがある
ウ　袋は物を入れるものではない　　エ　箱は必ず売り物だけに使う

(3)「名札」と「値札」に共通する「札」の意味を選びなさい。
ア　泊まる建物　　イ　飲み物の量
ウ　木を切る技術　　エ　文字などを書いた板や紙片

(4)「台帳」の説明に合うものを選びなさい。
ア　物事を整理して記録する帳面　　イ　会場へ入る権利だけを示す紙
ウ　食べ物を挟む道具　　エ　窓を開けるための取っ手

(5)「入場券」の「券」が関わるものを選びなさい。
ア　物の硬さだけ　　イ　建物の古さだけ
ウ　会場に入る権利など　　エ　料理の材料だけ

(6)「材料」と「財産」の説明に合うものを選びなさい。
ア　どちらも必ずお金だけ　　イ　前者は建物、後者はその階
ウ　前者は名前、後者は札の色　　エ　前者は作るもと、後者は価値ある所有物など

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　値札　財産　商品券　手帳　乗車券　貨幣　小皿
乾杯　食券　名札　校舎　入場券　貨物　通帳

文	解答	文	解答
(1) 料理を少しずつ分ける 小さな器、□□を使う。		(8) 指定の店で品物と引き換え られる□□□を使った。	
(2) 名前を示すための □□を胸に付けた。		(9) 列車に乗るための □□□を購入した。	
(3) 売る品の価格を示す □□を付けた。		(10) 食事と引き換える □□を受け取った。	
(4) 持ち歩いて予定を書く □□を開いた。		(11) 荷物や品物を運ぶ □□列車が通った。	
(5) 祝いの席で杯を上げ、 声を合わせて□□した。		(12) 売り買いに使うお金、 □□の歴史を学ぶ。	
(6) 銀行での取引を記録する □□を確かめた。		(13) 学校の授業などに使う 建物である□□を描いた。	
(7) 会場へ入るための □□□を受付で見せた。		(14) 価値のある所有物などの □□を大切にする。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「名札」と「入場券」の説明に合うものを選びなさい。

同じ大きさの紙で、参加者の名札と入場券を作った。

ア　同じ紙なので、必ず同じ働きになる。
イ　名札は必ず商品を買うための券になる。
ウ　入場券には名前を書くことができない。
エ　同じ大きさでも、示す内容や使う決まりが違う。

（2）この「箱」と「袋」の選び方に合うものを選びなさい。

薄い紙袋だけでは心配なので、皿を包み、仕切りのある丈夫な箱にも入れた。

ア　全ての袋が全ての箱より弱いと証明した。
イ　今回の皿と入れ物の性質を考えて組み合わせた。
ウ　箱に入れれば、包む必要はどんな場合もない。
エ　値段の高い箱ほど、必ず皿に合う。

（3）「商品」と「作品」の関係を適切に読んだものを選びなさい。

作者が作った作品のうち、販売する皿を商品として並べた。

ア　商品として並べると、作品ではなくなる。
イ　作品なら、販売することはできない。
ウ　一枚の皿を、作った物と売る物の両方として見ている。
エ　並べた皿は、作者が作った物ではない。

（4）「材料」と「財産」を適切に読んだものを選びなさい。

倉庫の木材は、机を作る材料であり、工房の財産でもある。

ア　作るもととしても、価値ある所有物としても見ている。
イ　二つの全く別の木材についてだけ話している。
ウ　木材は財産なので、材料にはできない。
エ　材料という語は、食べ物にしか使えない。

（5）「材料」を使い、何を何から作るかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「札」を使い、何を知らせるためかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 食後に、使った皿を洗う**サラアラ**いをした。	
(2) コップに水を**イッパイ**だけ注いだ。	
(3) 料理に使う長い**サイバシ**で、野菜を混ぜた。	
(4) 木で作った**キバコ**に、品物を収めた。	
(5) 寒いので、両手に**テブクロ**をはめた。	
(6) 受付の**マドグチ**で、申込書を渡した。	
(7) 家の上を覆う**ヤネ**の形を描いた。	
(8) 二階へ上がる**カイダン**を、ゆっくり歩いた。	
(9) 旅行で泊まる**リョカン**を予約した。	
(10) 旅行先で一晩泊まる**シュクハク**の予定を立てた。	
(11) 近所の**ショウテン**で、文房具を買った。	
(12) 棚に並んだ**シナモノ**を、一つずつ数えた。	
(13) 机の材料にする**モクザイ**を選んだ。	
(14) 海賊が**ザイホウ**を探す物語を読んだ。	
(15) 何回か乗れる券を組にした**カイスウケン**を買った。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 茶碗	(17) 割り箸	(18) 紙袋	(19) 宿舎	(20) 会館

この回を終えたら もう一度確かめる

形や材料だけでなく、何に使い、何を示す物かを確かめましょう。
同じ物を、作品と商品など複数の語で捉える場合もあります。

七　文章の中で考えよう

皿の横の小さな札

　「梨花、紙袋を二枚くれる？」
母に呼ばれ、私は宿題をしまったかばんから顔を上げた。町の会館は昔の校舎で、今日は一階が手作りの品を売る市、二階が展示室だ。陶芸を仕事にする母の店は、窓のそばにある。

　屋外から運んだ木箱を開ける。皿や杯、箸置きが、紙の間から顔を出した。台帳には商品ごとの数と値段があり、私は値札を付けた。母は、割れやすい品は包んで箱に入れると言う。貨物で届いたときの仕切りも使うつもりで、脇に置いてあった。

　一枚だけ、値段のない青い皿がある。線が少し曲がっていて、裏には小さな指の跡が付いていた。母が初めて自分の工房で焼いた作品で、今回は展示だけだという。

　値札を付け忘れたのでは、なかった。

　「材料の土は、ほかと同じなのに？」
「仕事を始めた日を思い出す、私の財産かな。」
母は笑って、青い皿の下に敷いた布を少し伸ばした。

　皿を一枚買った人が、今度はその青い皿を指した。
「これも、お願いします。」
「それには値札がなくて。」
私が答えると、相手は「値段は聞けば分かると思った」と言う。母が売らない作品だと説明すると、納得してうなずいた。

　紙袋を渡してから、私は残りの札を探した。「百円」と書くのに使った小さな紙だ。作品名だけでは、また売り物だと思う人がいるかもしれない。展示だけだと分かり、母にとってどんな一枚かも伝わるようにしたい。書き始める前に、もう一度皿の裏を見た。

　受付では、入場券と引き換えに会場の案内を渡している。食堂では食券を料理と引き換えていた。同じ小さな紙でも、使う場所や決まりが違う。書いた札を母に見せ、読んだ人が迷わないか、確かめてもらった。

　市の終わり、母は青い皿を箱に戻し、私の札も一緒に入れた。
「それ、次も使うの？」
「うん。この皿の話も、もう少し書き足したいね。」
片付けかけた紙袋の間に、まだ一枚、今日の案内が残っていた。

人物・市・販売と展示の取り決めは、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）商品の数などを整理して記録する帳面を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）売るために用意した品を表す「ショウヒン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）母が青い皿を「私の財産」と言った意味に合うものを選びなさい。

ア　必ず最も高い価格で売れるということ。
イ　全ての皿に同じ値段があるということ。
ウ　材料の土だけに価値があるということ。
エ　仕事を始めた日を覚える、大切な所有物だということ。

（4）買い手とのやり取りから分かることを選びなさい。

ア　値札がないだけでは、展示だけだと伝わらない場合がある。
イ　買い手は、売らない説明を聞いても納得しなかった。
ウ　展示した作品は、必ず全て商品になる。
エ　母は青い皿を百円で売ることに変えた。

（5）梨花が青い皿の札に、作品名だけでない説明も書こうとした理由を 45〜55 字で書きなさい。

（6）青い皿に添える札の文を、「作品」「展示」を使って 70〜90 字で書きなさい。販売の扱いと、この皿の由来を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十六回　生活と物

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　飲み物を器に入れた量として数えている。杯には、飲み物を入れる器という意味もある。

（2）イ　共通する用途があっても、形や材料によって使い方が違う。箱が全て頑丈、袋が全て弱いと一律には決めない。

（3）エ　何を示す札かは、名札なら名前、値札なら値段というように熟語全体で確かめる。

（4）ア　物事を整理して記録する帳面。記録の目的や項目は、使う場面によって違う。

（5）ウ　入場する権利などを示す。紙の形や色だけで、どこで使えるかは決まらない。

（6）エ　材料は作るもと、財産は価値ある所有物など。木材が材料であり財産でもあるように、同じ物を両方の語で捉えることもある。

四　熟語を広げよう

（1）小皿　（2）名札　（3）値札　（4）手帳　（5）乾杯

（6）通帳　（7）入場券　（8）商品券　（9）乗車券　（10）食券

（11）貨物　（12）貨幣　（13）校舎　（14）財産

（5）乾杯は、祝いなどの席で杯を上げること。（13）校舎は学校の建物。券は用途や使える条件も確かめる。商品の値段を示す値札と、名前を示す名札も、何を伝えるかが違う。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　紙の大きさだけでは働きは決まらない。
名前を示すのか、入場の権利を示すのかを確かめる。

（2）イ　今回の入れ物の性質と運ぶ物に応じた判断。
箱と袋の名だけで、いつも同じ優劣にはしない。

（3）ウ　同じ物にも複数の捉え方がある。作品と商品は、互いに重ならない分類ではない。

（4）ア　同じ木材を、用途と価値の二つから捉えている。材料は料理だけでなく、物作りにも使う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

使わなくなった布を材料にして、小さな袋を縫うことにした。

☆自分で確かめる点　作るもとと、できる物の関係が分かるか。

（6）解答例

作品には、売り物ではなく展示用だと知らせる札を添えた。

☆自分で確かめる点　札に何を示すのかが、文から分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）皿洗　（2）一杯　（3）菜箸　（4）木箱　（5）手袋

（6）窓口　（7）屋根　（8）階段　（9）旅館　（10）宿泊

（11）商店　（12）品物　（13）木材　（14）財宝　（15）回数券

（16）ちゃわん　（17）わりばし　（18）かみぶくろ　（19）しゅくしゃ　（20）かいかん

（1）は「皿洗い」とつながる。（2）の一杯は「いっぱい」。（3）は菜箸、（8）は階段、（9）は旅館。（17）割り箸は「わりばし」、（18）紙袋は「かみぶくろ」と読む。

七　文章の中で考えよう

（1）台帳　商品の数と値段などを記録していた。手帳や通帳との違いは、今回の用途から確かめる。

（2）商品　売るための品。母の皿は、作品であり商品でもあるものと、展示だけのものがある。
（3）エ　母が仕事を始めた日を思い出す、大切な一枚。
市場で売る値段だけを述べているのではない。
（4）ア　相手は、価格を尋ねれば買えると考えた。売らないという取り決めが伝わる説明を添える必要が生じた。

七　記述問題の考え方

（5）　札に説明を添える理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

作品名や値札がないことだけでは、売らない皿だと伝わらず、展示だけという扱いと母の思い出も知らせたいから。

（5）別解例　54 字

買い手には値段を聞けば買えると思われたため、展示用で売らないことと、母が大切にする一枚の由来を伝えたいから。

☆（5）自分で確かめる点

① 値札がないだけでは、販売しないと伝わらなかったと捉えたか。
② 展示だけという扱いを伝える必要を示したか。
③ 母の仕事の始まりや思い出も紹介したいことを含めたか。

値札がない物は、いつでも必ず展示用だという決まりにはしない。
今回の取り決めを相手に伝える場面である。

（6）　皿に添える札の文 70〜90 字

（6）解答例　84 字

母が初めて自分の工房で焼いた作品です。青い線や指の跡にも、仕事を始めた日の思い出が残っています。今回は展示のみで、販売はしません。同じ材料から生まれた、大切な一枚です。

（6）別解例　82 字

母が自分の工房で初めて焼いた作品です。仕事を始めた日を覚えておくために大切にしており、今回は展示だけで販売しません。曲がった青い線と、裏の指の跡にもご注目ください。

☆（6）自分で確かめる点

①「作品」「展示」を使ったか。
② 今回は販売しないと、迷わないように伝えたか。
③ 初めて自分の工房で焼いた皿という由来を示したか。

作者の言葉として書くなら「母」を「私」にしてもよい。本文にない制作年や価格を足す必要はない。

漢字から文章へ 第二冊

第十七回

技術と作業

木に刻めば、消えにくく美しい看板になります。
でも、その日付は、来月には変わってしまいます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

器	機	械	技
器や役立つ道具	仕組みや機会	動く道具	身に付けたわざ

術	製	造	築
方法やわざ	材料で品を作る	作り上げる	積んで作る

いっしょに覚える漢字

工	具	図	型	施	設
備	装	加	編	刻	刷

この回で読むお話

日付を刻まなかった看板

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
器	キ うつわ	物を入れる器／役立つ道具 容器・器具・機器	術	ジュツ	物事を行う方法やわざ 技術・美術・話術
機	キ	仕組みを持つ道具／機会 機械・機器・機会	製	セイ	材料を使って品物を作る 製作・製品・木製
械	カイ	仕組みによって動く道具 機械・器械・機械化	造	ゾウ つくる	作り上げる／組み立て 製造・構造・創造
技	ギ わざ	身に付けたわざ 技術・技能・特技	築	チク きずく	材料を積んで作る／積み重ねる 建築・新築・築く

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
工	コウ	作る／手を加える 工事・加工・人工	備	ビ そなえる	必要なものをそろえる 備える・準備・設備
具	グ そなえる	そなわる／役立つもの 道具・器具・具体	装	ソウ よそおう	取り付ける／外側を整える 装置・塗装・包装
図	ズ ト はかる	形や関係を表す／計画する 図面・図表・図る	加	カ くわえる	くわえる 加える・追加・加工
型	ケイ かた	形のもと／決まった形 型・模型・典型	編	ヘン あむ	組み合わせてまとめる 編む・編集・編成
施	シ セ ほどこす	行う／設ける 実施・施工・施設	刻	コク きざむ	切りつける／時間の区切り 刻む・彫刻・時刻
設	セツ もうける	作って置く／計画する 設ける・設計・設置	刷	サツ する	文字や絵を紙などに写す 刷る・印刷・刷新

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「容器」と「器具」に共通する「器」の働きを選びなさい。
ア　必ず電気で動く　　イ　必ず飲み物だけを入れる
ウ　人の体の部分だけを指す　　エ　物を入れたり、役立てたりする道具に関わる

(2)「機械」と「機会」の「機」を適切に読んだものを選びなさい。
ア　どちらも必ず同じ道具　　イ　前者は道具、後者は物事をするよい時やきっかけ
ウ　前者は気持ち、後者は材料　　エ　機会も必ず金属で作る

(3)「技術」の説明に合うものを選びなさい。
ア　物事を行う方法や、それを扱うわざ　　イ　高価な機械の値段だけ
ウ　道具を使わないことだけ　　エ　製品の見た目の色だけ

(4)「木製」の「製」が示すものを選びなさい。
ア　必ず木の形の絵　　イ　木を植える時刻
ウ　木を材料にして作られていること　　エ　木が生えた場所だけ

(5)「構造」の意味に合うものを選びなさい。
ア　品物を売る価格だけ　　イ　物の組み立てや仕組み
ウ　使う人の人数だけ　　エ　紙に付いた色だけ

(6)「信頼を築く」の「築」を適切に読んだものを選びなさい。
ア　必ず石で壁を作る　　イ　相手の考えを消す
ウ　同じ時刻を数える　　エ　関わりを積み重ねて作る

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　塗装　設備　製品　型紙　器具　建築　編集
機械　木製　彫刻　技術　印刷　施工　構造

文	解答	文	解答
(1) 目的のために使う道具である□□をそろえる。		(8) 同じ形を切り出すもとにする□□を、紙で作った。	
(2) 仕組みによって動く□□を点検した。		(9) 計画に従って工事をする□□の担当者に聞く。	
(3) 物を作る方法やわざ、□□を学んだ。		(10) 必要な機器などの□□が整った工房だ。	
(4) 作り終えた品物、□□を実際に使う。		(11) 表面に塗料を塗る□□の色を決めた。	
(5) 木を材料にした□□の看板を作った。		(12) 木や石などを彫って作る□□の作品を鑑賞した。	
(6) 物の組み立てや仕組み、□□を図で表した。		(13) 文や写真をまとめる□□の作業を進める。	
(7) 建物を造る仕事である□□について調べる。		(14) 文字や絵を紙などに写す□□の機器を使う。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「機器」と「機会」の使い方に合うものを選びなさい。

印刷の機器に触れる機会を得た。

ア　どちらも印刷した紙だけを指す。
イ　どちらも同じ機械そのもの。
ウ　前者は道具、後者は触れて学べる時やきっかけ。
エ　前者は費用、後者は紙の色。

（2）「設計」と「施工」の関係を適切に読んだものを選びなさい。

設計を見直してから施工し、使った後にも不便な点を確かめた。

ア　計画を直して作り、完成後も使い勝手を調べた。
イ　施工したので、その後は一切確かめなかった。
ウ　設計は完成した後にしかできない。
エ　計画を変えることなく作った。

（3）「型」と「図」の違いに合うものを選びなさい。

部品の形をそろえる型を作り、組み立て方は図に描いた。

ア　図は必ず部品を切り抜く板そのもの。
イ　型を作れば組み立ての説明は常に不要。
ウ　二つはどの文でも入れ替えられる。
エ　前者は形のもと、後者は組み立てを表したもの。

（4）この「築く」の使い方に合うものを選びなさい。

約束を守る仕事を重ね、依頼主との信頼を築いた。

ア　依頼主の家だけを建てたという意味。
イ　仕事の積み重ねで信頼関係を作ったという意味。
ウ　一度会えば必ず信頼されるという意味。
エ　仕事の記録を全て捨てたという意味。

（5）「加工」を使い、何にどんな手を加えたかを書きなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「設計」を使い、使う場面を考えた一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 水を入れる**ヨウキ**を用意した。	
(2) 職人に質問する**キカイ**を得た。	
(3) 得意なわざを、**トクギ**の欄に書いた。	
(4) 絵画や彫刻などの**ビジュツ**作品を見た。	
(5) 寸法や形が分かる図を描く**セイズ**の作業を学んだ。	
(6) 新しい価値を**ソウゾウ**する仕事に取り組んだ。	
(7) 新しく建てる**シンチク**の家を見せてもらった。	
(8) 紙や木を使う**コウサク**が好きだ。	
(9) 鉛筆などの**ブング**を、机の引き出しに入れた。	
(10) 建物を小さくした**モケイ**を作った。	
(11) 計画していた見学会を**ジッシ**した。	
(12) 機械に取り付ける**ソウチ**の図を見た。	
(13) 足りない数だけ、部品を**ツイカ**した。	
(14) 人数に合わせて、チームの**ヘンセイ**を変えた。	
(15) 本の注文が増え、さらに印刷する**ゾウサツ**が決まった。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 器用	(17) 機転	(18) 技能	(19) 改築	(20) 木版

この回を終えたら もう一度確かめる

作る物の形と、使い続ける場面を結びつけましょう。
見た目だけでなく、取り替えやすさや手入れも設計に関わります。

七　文章の中で考えよう

日付を刻まなかった看板

「この日付、来月も同じ？」
職人に聞かれ、遥は図面を引き寄せた。木製の板に、全ての文字を深く刻む案だ。毎月の市に使うつもりで、寸法まで書き込んでいた。

共用の工房は、古い建築を生かした施設だ。工作の器具や印刷機器がそろい、窓辺には木くずが少し残っている。遥は、全ての文字を刻めば、消えにくく美しいと思っていた。けれど開催日は毎月変わる。そのたびに板を作り直すことは、考えていなかった。

「市の名前は、ずっと同じだね。」
二人は設計を見直した。名前は板に刻み、日付だけを紙のカードにして差し込む。製品として出来上がる日だけでなく、次に使う日も考えることになった。

カードを支える部分の構造は、厚紙の模型で試した。加工する前に大きさをそろえる型も作る。最初の差し込み口に紙を入れると、端が曲がった。

抜き取って伸ばしても、折り目は残った。

工房で比べた二つの案

確かめる点	全てを板に刻む案	日付をカードにする案
日付の変更	板を作り直す必要がある	カードを差し替える
使う前の確認	刻んだ文字と日付を確認	日付とカードの固定を確認

職人は「品を製造するときも、使う人から直してほしいと聞くよ」と話した。遥は差し込み口を広くする案を出し、新しい紙でもう一度試した。今度は曲がらずに入る。刻む文字の横に小さな模様を描く時間も、まだあった。

看板を設置する施工では、機械を使う作業は職人が担当した。遥は紹介文を編集し、日付のカードを印刷する。設備をそろえるだけでなく、誰が何をするかも準備した。表面には塗装を施した。文字を彫る技術も、差し替える仕組みも、一枚の看板に集まっていった。

市の朝、遥は看板を出す前に日付を読んだ。カードが外れないかも確かめる。差し替えられる分、確かめるところも増えたのだ。出店する人が通ると、遥は看板の脇を少し空けた。

帰りにカードを抜くと、板には市の名前だけが残った。図面の最初の日付は、まだ消していない。遥はそれを工房へ持ち帰り、翌月のカードに使う新しい紙と一緒に、引き出しへ入れた。

人物・工房・看板と試作の記録は、本教材のための創作です。作業手順の実習用説明ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と二つの案の表を根拠にして答えなさい。

（1）物の寸法や形などを図で示したものを、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）材料などから品物を作る「セイゾウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「模型」の意味に合うものを選びなさい。

ア　品物を売った記録。
イ　完成品の形や仕組みを試すために作ったもの。
ウ　完成品の値段だけを示す札。
エ　必ず実物と同じ材料で作る製品。

（4）カードにする案について適切なものを選びなさい。

ア　日付を変えるには、毎回板を作り直す。
イ　カードにしたので、使用前の確認は全て不要になる。
ウ　市の名前も全て紙に印刷し、板には刻まない。
エ　日付を替えやすいが、カードの固定なども確かめる。

（5）遥が日付を板に刻まないことにした理由を、最初の案との違いも含めて 45〜55 字で書きなさい。

（6）翌月の担当者への引継ぎを、「設計」「確認」を使って 70〜90 字で書きなさい。看板の仕組みと、出す前にすることを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十七回　技術と作業

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　器には入れ物のほか、役立つ道具という意味がある。
容器と器具の用途は、熟語全体で確かめる。

（2）イ　同じ機でも、機械という道具と、何かをする機会では意味が違う。字一つの説明を固定して当てはめない。

（3）ア　知識や方法、身に付けたわざなどに関わる。
機械を置くだけで、全ての技術が整うわけではない。

（4）ウ　何を材料に作ったかを表す。製作や製品では、品物を作ることに関わる。

（5）イ　各部分がどう組み合わさっているかに着目する。構造を調べることは、完成した見た目を眺めるだけとは限らない。

（6）エ　建物を築くことから広がった使い方。物でない関係や実績にも使う。

四　熟語を広げよう

（1）器具　（2）機械　（3）技術　（4）製品　（5）木製
（6）構造　（7）建築　（8）型紙　（9）施工　（10）設備
（11）塗装　（12）彫刻　（13）編集　（14）印刷

（8）型紙は、形をそろえて切り出すときなどのもとにする紙。（12）彫刻は木や石などを彫って作る作品や、その技法。（9）の施工は、計画に従って工事を行うこと。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　似た音でも、機器は道具、機会は何かをする時やきっかけ。文全体から確かめる。

（2）ア　計画を見直す段階と、実際に作る段階がある。完成しただけで全てが確かまったとしない。

（3）エ　この文では、同じ形にするための型と、組み立てを伝える図という別の役割がある。

（4）イ　物を積んで作る意味から、関係などを積み重ねる使い方へ広がっている。

五　自分で書く問題

（5）解答例

木の板を必要な長さに加工して、看板の部品を作った。

☆自分で確かめる点　材料に手を加えることが具体的に分かるか。

（6）解答例

文字を取り替えやすいように、日付の部分を差し込む設計にした。

☆自分で確かめる点　何を考えて、形や仕組みを決めたかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）容器　（2）機会　（3）特技　（4）美術　（5）製図
（6）創造　（7）新築　（8）工作　（9）文具　（10）模型
（11）実施　（12）装置　（13）追加　（14）編成　（15）増刷
（16）きよう　（17）きてん　（18）ぎのう　（19）かいちく　（20）もくはん

（2）機会は、物事をする時やきっかけ。（5）製図は、寸法や形などを図に表すこと。（6）の創造は、新しいものを作り出すことに関わる。（15）増刷は、さらに印刷すること。

七　文章の中で考えよう

（1）図面　遥は、看板の文字や寸法を書き込んだ図を職人に見せた。図面で表した最初の案は、使い続ける場面を考えて見直された。

（2）製造　品物を作ること。ここでは職人の仕事に関わる語として使われている。

（3）イ　厚紙で差し込み口などを試した。実物と同じ材料かどうかだけで模型を決めない。

（4）エ　差し替えやすさと、固定などの確認は両立する。便利になると全ての手間が消える、とは書かれていない。

七　記述問題の考え方

（5）　日付の設計を変えた理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

開催日は毎月変わり、全て刻む案では板を作り直すため、市の名前は残し、日付だけを差し替えて使い続けたいから。

（5）別解例　53 字

最初の案は次の月に日付を変えにくいため、板を作り直さず、日付のカードだけを取り替えられる仕組みにしたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 日付が毎月変わるという条件を示したか。

② 全て刻む案では、板を作り直す必要があると捉えたか。

③ 日付だけ差し替える仕組みと、使い続ける目的を結んだか。

刻む方法がいつも悪いのではない。
今回は、市の名前は変わらず、日付は変わるという条件に合わせた。

（6）　次の担当者への引継ぎ 70〜90 字

（6）解答例　83 字

看板は、市の名前を板に刻み、日付だけを紙のカードで差し替える設計です。使う前に、開催日が合っているか、カードが外れないかを確認してください。終えたらカードを抜きます。

（6）別解例　84 字

日付を毎月替えやすくするため、板には市の名前だけを刻む設計にしました。開催日のカードを差し込み、文字と固定の状態を確認してから看板を出してください。板は来月も使います。

☆（6）自分で確かめる点

①「設計」「確認」を使ったか。

② 名前は板、日付は差し替えるカードという仕組みを伝えたか。

③ 使用前に、日付とカードの固定の両方を確かめると示したか。

初めての担当者にも分かる書き方にする。本文にない接着剤や機械の操作方法を加える必要はない。

漢字から文章へ 第二冊

第十八回

考えを深める

三つの音を聞いてもらうと、雨の音が一位になりました。
けれど、「静かな音が人気」と書いてよいのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

理	想	象	徴
物事の筋道	心に浮かべる	形や現れ	しるしや特徴
普	遍	抽	析
広く行き渡る	全体に及ぶ	取り出す	分けて明らかにする

いっしょに覚える漢字

仮	像	素	質	源	客
媒	介	般	専	旨	趣

この回で読むお話

雨の音が一位になった理由

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
理	リ	物事の筋道／整える 理由・理解・理論	普	フ	広く行き渡る 普通・普及・普遍
想	ソウ おもう	心に思い浮かべる 想像・理想・感想	遍	ヘン	広く全体に及ぶ／一回りする 普遍・遍在・遍歴
象	ショウ ゾウ	物の形や姿／現れ 現象・印象・象徴	抽	チュウ	中から取り出す 抽出・抽象・抽選
徴	チョウ	しるし／特徴として現れるもの 特徴・象徴・徴候	析	セキ	分けて明らかにする 分析・解析・析出

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
仮	カ ケ かり	本当と決めず、一時的に置く 仮定・仮説・仮面	媒	バイ	間にあってつなぐもの 媒体・媒介・触媒
像	ゾウ	目や心に映る姿 画像・映像・肖像	介	カイ	間に入る／取り持つ 紹介・仲介・媒介
素	ソ もと	物事を作るもと 要素・素材・素質	般	ハン	同じ種類の全体に及ぶ 一般・全般
質	シツ たち	そのものを成り立たせる中身 本質・性質・物質	専	セン もっぱら	一つのことに集中する 専門・専用・専念
源	ゲン みなもと	物事が生まれるもと 水源・起源・情報源	旨	シ むね	中心となる考えや目的 要旨・趣旨・本旨
客	キャク カク	訪れる人／自分から離れた立場 来客・乗客・客観	趣	シュ おもむき	向かうところ／味わい 趣旨・趣味・趣向

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「理由」と「理論」に関わる「理」の意味を選びなさい。
ア　売るための品物　　イ　物事の筋道
ウ　水の冷たさ　　エ　空気中の粒

(2)「想像」と「画像」の説明に合うものを選びなさい。
ア　どちらも必ず実際に見た事実だけ　　イ　どちらも音の大きさだけ
ウ　前者は心に思い浮かべること、後者は絵や写真などの像　　エ　前者は記録用紙、後者は仮の予定

(3)「象徴」の説明として適切なものを選びなさい。
ア　抽象的な考えなどを、具体的な物や姿で表すこと　　イ　数値を全て消すこと
ウ　同じ人に何度も数を尋ねること　　エ　誰にでも必ず好かれること

(4)「普遍」の説明に合うものを選びなさい。
ア　今回の十人にだけ当てはまること　　イ　まだ何も調べていないこと
ウ　一番多い票を取ること　　エ　時や場所などを超え、広く当てはまること

(5)「抽出」と「分析」の違いに合うものを選びなさい。
ア　どちらも資料をなくすこと　　イ　前者は取り出すこと、後者は分けて調べること
ウ　前者は感想、後者は必ず多数決　　エ　どちらも理由を考えず決めること

(6)「仮説」の説明に合うものを選びなさい。
ア　すでに必ず証明された答え　　イ　理由を一切考えないこと
ウ　どんな資料でも変えてはいけない結論　　エ　確かめるために、仮に立てる説明

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　要素　抽象　特徴　一般　理想　情報源　画像
理由　普遍　材質　徴収　専門　抽出　想像

文	解答	文	解答
(1) なぜそう言えるか、□□を添えて説明した。		(8) 共通する性質を取り出し、□□的な言葉で表す。	
(2) 実際には見ていない場面を心で□□する。		(9) 木や金属など、材料の種類や性質である□□を比べた。	
(3) 目指したい姿である□□を言葉にした。		(10) 特定の範囲に限らない□□の来場者にも説明した。	
(4) その物事を表す目立った性質、□□を探した。		(11) 写真などの目に見える□□を画面に表示する。	
(5) 会費などを集める□□の担当者に渡した。		(12) 物を成り立たせる重要な□□を取り出す。	
(6) 時や場所を超えて広く当てはまる□□を考える。		(13) 情報がどこから来たか、□□□を確かめる。	
(7) 必要な要素を中から取り出す□□を行う。		(14) 特定の分野を深く学び、□□の知識を身に付けた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「客観的」を適切に捉えたものを選びなさい。

自分は雨の音が好きだが、投票数は記録どおりに示した。

ア　好きという感想があると、数は記録できない。
イ　自分の好みに合わせて、票数を増やした。
ウ　自分が好きなら、全員も同じ好みだとした。
エ　自分の好みと、確かめられる記録を分けた。

（2）「趣旨」と「趣味」の使い方に合うものを選びなさい。

音を集める趣味を生かし、町を音で紹介する趣旨の会を開く。

ア　前者は好んで行うこと、後者は会の目的や考え。
イ　どちらも必ず投票の結果。
ウ　前者は会の目的、後者は音の大きさ。
エ　どちらも物の値段だけ。

（3）「一般」と「専門」を適切に読んだものを選びなさい。

一般の来場者にも伝わるよう、専門の用語には説明を添えた。

ア　専門の用語は、説明しても誰にも伝わらない。
イ　一般の来場者は、全員同じ知識を持つ。
ウ　特定分野の知識を前提にせず、言葉を説明した。
エ　専門の知識がある人は、会場に入れない。

（4）「媒体」と「媒介」の関係に合うものを選びなさい。

紙を媒体として紹介文を配り、町の音の記憶を人々へ媒介する。

ア　どちらも紙の白さだけを比べている。
イ　紙を伝える手段とし、記憶と人々を結ぶ働きを表す。
ウ　記憶を伝えるには紙を必ず使わなければならない。
エ　紙に書くと、内容は必ず正しい事実になる。

（5）「仮説」を使い、確かめたいことを一文にしなさい。（20〜40 字が目安）

（6）「要旨」を使い、中心となる内容に関わる一文を書きなさい。（20〜40 字が目安）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 説明を読み、仕組みを**リカイ**した。	
(2) 作品を読んだ**カンソウ**を、友達と話した。	
(3) 目の前で起きた**ゲンショウ**を、順に記録した。	
(4) 初めて会ったときの**インショウ**を覚えている。	
(5) 広く行き渡る**フキュウ**の様子を調べた。	
(6) 各地を巡り歩いた**ヘンレキ**を、本にまとめた。	
(7) くじで順番を決める**チュウセン**を行った。	
(8) 資料を詳しく調べる**カイセキ**の方法を学んだ。	
(9) 答えをすぐに決めず、一つの**カテイ**を置いて考えた。	
(10) 撮影した**エイゾウ**を、画面で見直した。	
(11) 物が持つ**セイシツ**を、比べて整理した。	
(12) 川の流れが始まる**ゲンリュウ**の場所を調べた。	
(13) 家を訪れた**ライキャク**を、玄関で迎えた。	
(14) 二人の間に入り、話合いを**バイカイ**する役になった。	
(15) 会を開く目的や考えである**シュシ**を説明した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 理論	(17) 想起	(18) 遍在	(19) 仲介	(20) 本質

この回を終えたら もう一度確かめる

具体的な事実と、それを説明する考えを行き来しましょう。
仮説や結論が、資料から言える範囲を越えていないかも確かめます。

七　文章の中で考えよう

雨の音が一位になった理由

「雨、五票。」
結衣が読み上げ、友達が表に数字を書いた。投票用紙は十枚。もう一度数えてから、結衣は雨の欄に小さな丸を付けた。自分も好きな音だが、数は好みと分け、客観的に示したかった。

町の音を紹介する会で、雨、電車、商店街の足音を、画像と一緒に楽しんでもらった。普段は気に留めない音を聞くのが会の趣旨だ。町の象徴になる音が見つかるかもしれない、と期待した。

三つを全部聞いた十人に、一人一票で好きな音を選んでもらった。専門の知識は問わず、一般の来場者も答えてくれた。理由は書いても書かなくてもよい。

今回の投票の記録

音	票数	音の特徴
雨	五票	小さく、ゆっくり聞こえる
電車	三票	大きく、速く聞こえる
商店街の足音	二票	人の声が混じる

「人は静かな音を好む。」

結衣は報告の要旨を書いた。雨の特徴から、小ささという要素を抽出したのだ。音の具体的な違いから離れ、静けさという抽象的な語でまとめると、筋の通った理論のように見えた。紙を束にそろえると、雨の用紙の端だけが少し飛び出した。

用紙を戻そうとして、理由の欄に気づいた。雨を選んだ一人は「祖母の家の屋根を思い出す」と書いている。電車を選んだ人は「大きな音が好き」。静かさを好むという説明だけでは、二つ目の言葉がうまく収まらない。

理由を分析すると、音の性質だけでなく、思い出も関わるのではないかという仮説が浮かんだ。どんな屋根なのだろう。結衣が尋ねかけると、友達は用紙ではなく、初めに書いた一文を指した。

「十人の結果から、誰にでも当てはまる普遍的な好みまでは言えないね。」
好まれる音の本質が、静かさ一つだと確かまったわけではない。最初に想像した理想の結果と、実際の記録は分けよう。結衣は書き直す紙を取った。

紹介文の媒体は紙にする。録音と投票用紙を情報源として示し、音と人の記憶を媒介する文章にしたい。書き出しは「今回の十人では」。屋根の話は、まだ聞けていない。片付ける前に、雨の音をもう一度、初めから流した。

人物・会・録音と投票の記録は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

本文と投票の記録を根拠にして答えなさい。

（1）情報を伝える手段となるものを表す語を、本文から漢字二字で抜き出しなさい。

（2）違いや関係を分けて調べる「ブンセキ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「抽出」の説明に合うものを選びなさい。

ア　投票した人を全て除くこと。
イ　思い出を事実と決めること。
ウ　特徴の中から、着目する要素を取り出すこと。
エ　必ず一位の音だけを聞くこと。

（4）今回の投票から確かに言えるものを選びなさい。

ア　町の住民全員の半分が、雨を選んだ。
イ　答えた十人では、雨の五票が最も多かった。
ウ　雨を選んだ五人は、全員が同じ屋根を思い出した。
エ　どの時代でも、静かな音が一番好まれる。

（5）結衣が「人は静かな音を好む」とそのまま書かず、「今回の十人では」と書き始めた理由を 45〜55 字で書きなさい。

（6）会の結果を伝える紹介文を、「分析」「仮説」を使って 70〜90 字で書きなさい。投票結果と、理由から考えたことを分けます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十八回　考えを深める

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　なぜそうなるか、どのようにつながるかという筋道に関わる。難しい語を使うことだけで、筋道が通るわけではない。

（2）ウ　想像は心に思い浮かべること。画像は、絵や写真などの形で表された像。想像したことを画像にする場合もある。

（3）ア　考えや性質を、具体的な物や姿で表す。
何を象徴するかは、文化や文脈で異なることもある。

（4）エ　限られた場面だけでなく、広く当てはまること。一回の投票で一位になったことと同じ意味ではない。

（5）イ　必要な要素を取り出すことと、分けて違いや関係を調べること。
実際の作業では組み合わせて使う。

（6）エ　資料などで確かめるための仮の説明。合わない事実があれば、見直すこともある。

四　熟語を広げよう

（1）理由　（2）想像　（3）理想　（4）特徴　（5）徴収
（6）普遍　（7）抽出　（8）抽象　（9）材質　（10）一般
（11）画像　（12）要素　（13）情報源　（14）専門

（5）徴収は、会費や税金などを集めること。（9）材質は材料の種類や性質。（10）一般と（14）専門は、対象の範囲や分野に着目する。普遍は、単に票が一番多いという意味ではない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　自分の感想と、ほかの人も確かめられる記録を区別する。客観的とは、多数派と同じ好みになることではない。

（2）ア　同じ趣の字でも、趣味は好んで行うことなど、趣旨は中心となる目的や考えに関わる。

（3）ウ　特定の分野をよく知ることを前提にしない説明。
一般の人に知識が一切ないという意味ではない。

（4）イ　媒体は伝える手段、媒介は間にあって結ぶことに着目する。どの媒体でも、内容の確かさは別に確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

音の好みには思い出も関わるという仮説を立て、理由を聞いた。

☆自分で確かめる点　すでに決まった答えでなく、確かめる説明になっているか。

（6）解答例

長い報告を読み直し、調べて分かったことの要旨をまとめた。

☆自分で確かめる点　文の中心となる内容を捉える使い方になっているか。

六　短文で使ってみよう

（1）理解　（2）感想　（3）現象　（4）印象　（5）普及
（6）遍歴　（7）抽選　（8）解析　（9）仮定　（10）映像
（11）性質　（12）源流　（13）来客　（14）媒介　（15）趣旨
（16）りろん　（17）そうき　（18）へんざい　（19）ちゅうかい　（20）ほんしつ

（6）遍歴は、各地を巡り歩くこと。（8）の解析は、細かく分けて詳しく調べること。（9）仮定は仮に置く条件や考え。（14）媒介は、間にあって結ぶ働きに着目する。（15）は趣旨。

七　文章の中で考えよう

（1）媒体　紹介文を伝える手段として紙を選んでいる。紙に書いたというだけで、内容の確かさまで決まるわけではない。

（2）分析　理由を分けて読み、音の性質や思い出などに目を向けた。

（3）ウ　雨の音の特徴の中から、小ささという要素に着目した。取り出した要素だけで全て説明できるとは限らない。

（4）イ　十人が一人一票で選んだ結果。町全体や、全ての時代に広げた結論にはできない。雨は半数であり、過半数ではない。

七　記述問題の考え方

（5）　結果を伝える範囲 45〜55 字

（5）解答例　54 字

調べたのは十人の好みで、選んだ理由も静かさだけではなく、誰にでも当てはまる好みだとは確かめられていないから。

（5）別解例　54 字

雨が一位でも、十人だけの投票であり、思い出など異なる理由もあって、全ての人の好みまで言えるわけではないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 調べた範囲が、今回答えた十人だと示したか。

② 選んだ理由が、静かさだけではないと捉えたか。

③ 結果を、全ての人に当てはまる結論へ広げなかったか。

客観的に票を数えたことと、全ての人の好みが分かったことは別。
結衣がわざと数を偽ったという話ではない。

（6）　結果と考えを分ける紹介文 70〜90 字

（6）解答例　83 字

十人では、雨が五票で一位でした。理由を分析し、祖母の家を思い出した人もいました。音の好みには思い出も関わるという仮説が生まれましたが、全員に当てはまるかは未確認です。

（6）別解例　84 字

十人の投票では雨が五票、電車が三票、足音が二票でした。理由を分析し、静かさだけでなく思い出も好みに関わるという仮説を立てました。この結果で、全員の好みは決められません。

☆（6）自分で確かめる点

①「分析」「仮説」を使ったか。

② 十人の結果と、そこから考えた説明を区別したか。

③ 思い出の関わりを、全員に確かまった事実とはしていないか。

票数の全部を挙げなくても、十人の範囲と雨が一位だったことが分かればよい。次に聞いてみたいことを提案してもよい。